

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 51 号 (2011年)

目 次

同窓会長挨拶……………伊豫屋偉夫（昭41）……………	1
薬学部長挨拶……………中山 守雄……………	2
平成23年度長薬同窓会定期総会・講演会・懇親会……………	3
平成24年度長薬同窓会定期総会のご案内……………	4
中牟田弘道氏（昭53）を偲んで……………	5
小井田雅夫（特），高田充隆（昭52），木原哲郎（昭53），佐々木 均（昭53）	
支部だより……………	8
関東支部，近畿支部，広島支部，山口支部，福岡支部浦陵会，大分支部，佐賀支部若楠会， 熊本支部，長崎県央支部，長崎支部ぐびろ会	
クラス会および近況だより……………	16
田中 隆（特），古川 淳（昭25），服部俊明（昭28），郷野美智子（昭30），樋口幸男（昭32）， 田崎三郎（昭34），大塚保雄（昭35），高木マスミ（昭36），味田和子（昭36），渡久地泰明（昭37）， 大田富夫（昭40），谷 覺（昭42），井上志郎（昭43），永山恵美子（昭45），松本逸郎（昭47）， 小池正博（昭47），松本逸郎（昭47），渡部クリ子（昭48），緒方千恵子（昭49），平田厚司（昭51）， 青野拓郎（昭52），山口正広（昭56），宮崎幹雄（昭58），S59卒業生同窓会幹事一同，原 正朝（昭60）， 本多 隆（昭61），佛坂 浩（昭61），平良文亨（平9），水野和美（平11），萩森奈央子（平12）， 永井 潤（平18），北郷真史（平19），熊谷飛鳥（学部3年），小野北斗（学部3年），岸川直哉（平10）	
クラブOB会だより……………	53
野球部，硬式庭球部，軟式庭球部，バスケットボール部	
庶務報告……………	57
物故者氏名，学内記事	
長薬同窓会役員名簿……………	59
長薬同窓会支部一覧……………	60
会計報告（平成22年度決算，監査報告，平成23年度予算）……………	61
同窓会事務局だより	
編集後記	



ご 挨拶

会 長 伊豫屋 偉夫 (昭41)

今年の日本列島は、東日本大震災、福島原発事故、台風被害等々、種々の大きな災害に見舞われ全国各地で被害が続出していますが、会員の皆様は如何だったでしょうか。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

今年の長薬同窓会総会は、長崎支部ぐびろ会の会員の皆様のご協力を得て、3年に一度開催しています長崎市で開催しました。北は関東から南は沖縄まで、全国各地から多くの会員の皆様に参加をしていただきました。特に今回は、昭和56年卒の吉岡優子さんに「薬剤師を取り巻く環境変化とその対応」のタイトルで特別講演をしていただきました。また、ノーベル化学賞を受賞されました下村 脩博士と明美先輩ご夫妻がアメリカから懇親会に出席をしていただき、参加者と交流を深めていただきました。さらに、昭和24年卒の松本康裕さんが福岡から駆けつけてくださり「居合道5段」の腕前を披露していただき大変意義ある総会になりました。

また、4月に薬学部長の交代があり、今までの薬品製造化学の畑山教授に代わり、衛生化学の中山守雄教授が就任されました。長薬同窓会も中山学部長と連携を密にとり薬学部の発展に寄与して行こうと思っています。

さて、薬学部6年制が始まり今年で6年目に入り、学生の薬局・病院での実務実習も2年目に入りました。関係しておられる会員の皆様も多いかと思いますが、昨年を経験を踏まえ充実した実務実習に取り組んでいただき、平成24年3月には多くの立派な6年制卒業薬剤師が社会に出てきますようご尽力をお願いします。

また、平成24年3月の長崎大学薬学部の卒業式では、4年制の薬科学科の卒業生と6年制の薬学科の卒業生で講堂が一杯になり、これまで2年間の寂しい卒業式から一転賑やかで華やかな卒業式になるものと楽しみにしています。

さて、長崎大学では各学部の同窓会の集合体

として全学同窓会を設立し、一昨年から11月の長大祭に合わせ「ホームカミングデー」と銘打って、卒業生の皆さんに母校長崎大学に帰ってきてもらい、大学の近況に触れ、恩師や学友との再会と交流・親睦を深めてもらう取り組みを行っています。平成23年は第3回ということで11月19日土曜日に中部講堂で、経済学部卒業で長崎県知事の中村法道さんに「長崎―上海航路開設への期待」という演題でご講演を賜るとともに、各学部の研究室を訪問して現在の研究・教育の姿を見学し、その後学生会館食堂に各学部の同窓生が一堂に会し賑やかに懇親会を開催しました。毎年長大祭に合わせて開催されますので時間を作っていただき参加をよろしくお願ひします。

長薬同窓会のホームページも伊藤 潔幹事の全面的なご協力により、同窓会に関する最新の情報を提供していますので、ぜひ「長薬同窓会」でアクセスしてみてください。また、毎年12月末には会報の発行を行うことにしていますので、各支部の取り組みや各学年のクラス会の動向等も写真を添えてE-mailで事務局まで情報提供をお願いします。

同窓会は先輩・後輩が一堂に会し同じ大学を卒業したということで心を開いて情報交換ができる絶好の場だと思います。多くの会員の皆さんが参加する会に持っていかうではありませんか。特に、平成卒の会員の皆さんの参加をよろしくお願ひします。

平成24年の総会は、大分支部の皆さんのご協力を得て大分県別府市で開催しますので、周りの同窓生の方々にも呼びかけていただき、多くの会員の皆様のご出席をお願いします。

長薬同窓会を核にして、各々の立場で大いに活躍し、発展していかれまことを祈念してご挨拶といたします。



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 中山 守雄

長薬同窓会の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

また、このたびの東日本大震災におきまして、直接、被災された方は、おられないとは聞いておりますが、東北地方で被災された多くの方々には心からお見舞い申し上げます。また一方で、震災後、薬剤師ボランティアとして、医療支援活動に参加された先生方には深く敬意を表する次第です。

長崎大学は、震災直後の3月12日、県の要請を受けて、災害派遣医療チーム「長崎大学病院DMAT」を被災地に派遣し、翌13日には、熱帯医学研究所の緊急医療支援の専門家および長崎大学病院国際ヒバクシャ医療センター所属の医師ならびに看護師を福島市に派遣しました。14日には、水産学部の練習船「長崎丸」が、緊急援助物資を被災地に直接届けるため出航しました。さらに、岩手県遠野市に医療支援拠点拠点を置き、被災地における医療支援活動を開始し、薬学部からも、池田理恵助教が薬剤師として救援活動に参加しました。

平成22年度は、日本薬学会の開催中止という異例の事態の中、幕を閉じ、一触即発の福島原子力発電所の推移を見守る中で、平成23年度を迎えることとなりました。ご挨拶が遅れましたが、このような状況の中、私、4月1日に薬学部長を拝命致しました中山守雄です。平成12年1月に衛生化学研究室の教授として、熊本大学から長崎大学に赴任して以来、衛生薬学（環境と健康）分野に加え、放射薬品学分野の教育と研究を担当し、まもなく11年が過ぎようとしております。その間、長崎での日本薬学会の開催、薬学部の大改修、国立大学の法人化を経験致しました。そして、何にも増して、大きな出来事は、平成18年度の薬学部6年制のスタートでした。薬学分野の学問的、社会的変化に対応できる人材育成のために、薬学の歴史始まって以来の薬学教育の変革が実施され、本薬学部でも、この制度改革にあたり、高資質の薬剤師の養成を目的とした6年制課程の薬学科（定員40名）と、創薬研究者・技術者の養成を目的とした4年制課程の薬科学科（定員40名）が併設されたことは、皆様ご存じの通りです。その新教育制度がスタートした平成18年に入学した6年制課程の学生は、皆様方の多大なご支援の下、CBTやOSCEをクリアした後に、実務実習も無事修了し、さらに本学部の特徴的教育プログラムである離島実習を含む高次臨床実務実習を経験するなどして、現在、卒業論文のまとめと国家試験に向けた学習を進めているところです。来年の春には、6年制課程の薬学科の一期生として巣立ってくれるものと期待しております。また、大学院医歯

薬学総合研究科修士課程に進学した4年制課程の薬科学科の学生も、同じく来年の春に修了致します。これらの新教育制度の下で育った学生達を、今まで同様、同窓会に暖かく迎えていただきますようお願いする次第です。

また、来年度からは、大学院医歯薬学総合研究科の医療科学専攻内に、薬学系としてはじめての4年制課程の博士課程となる「展開医療薬学講座」（定員4名）を新たに設置すること、また、修士課程を博士前期課程と名称を改め、その上に3年制課程の博士後期課程となる生命薬科学専攻（定員10名）を設置することが認められました。大学院教育の充実更なる薬学の発展のために不可欠であり、大学院へ進学する学生を送り出すことは、薬学部の教育研究における大きな目標の一つでもあります。どうぞ、来年度より発足するこの大学院に関しましても、皆様方の一層のご支援とご協力を、お願いする次第です。

なお、歴代学部長の懸案であった創薬センターが、昨年度末に、畑山学部長の下、「下村 脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センター」として開設されました。「地域薬剤師卒後教育研修センター」、「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム推進センター」に続いて、薬学部内に設置された本センターを、将来の創薬科学を担う人材の育成を目標に、薬学部の創薬科学に関する研究活動や国際交流活動を推進するための場と位置づけています。法人化以後、長崎大学の研究は、重点研究課題などの選定とそれを推進する取り組みが功を奏し、特色ある高水準の研究成果を上げてきました。今後の薬学分野において、創薬という方向性を定めた研究教育の更なる質の向上に、本センターの担う役割は大きいと考えています。事実、昨年度末に、文部科学省最先端研究基盤事業「化合物ライブラリーを活用した創薬等最先端研究・教育基盤整備」の拠点大学の1つに選定され、現在、植田弘師拠点リーダーを中心に、本センターと一体化した活動展開が開始されたところです。

薬学部長に就任してはや6ヶ月が経ちました。この間に開催された全国規模の会合をはじめ様々な会合への出席を重ねるにつれ、長崎大学薬学部の代表としての責任と重圧をひしひしと感じています。今後、学部長としての責務を果たすのはもちろんのこと、薬学部のさらなる発展に力を尽くす所存ですが、もとより浅学非才の身、何卒、皆様には、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の益々のご健康とご活躍をお祈り致します。

平成23年度長薬同窓会 定期総会・講演会・懇親会

本年度は、長崎支部ぐびろ会（山中國暉会長）のお世話で、平成23年6月4日(土)に長崎全日空ホテルグラバーヒルで開催されました。総会の後、特別講演会も開催され約120名の同窓会会員のご参加により、無事終了いた

しました。懇親会にはノーベル賞を受賞された下村先生もお見えになり、大変盛大な会となりました。その模様を一部ご紹介いたします。



吉岡優子氏 特別講演



校歌斉唱



薬学部長ご挨拶



下村 脩氏ご挨拶



乾杯の音頭 高木 康氏



居合いの披露 松本康裕氏



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会



万歳三唱 森本 仁氏

平成24年度長業同窓会定期総会のご案内

日時 平成24年6月2日(土) 17:00総会 18:00懇親会(予定)

場所 別府温泉 ホテル白菊

〒874-0908 別府市上田の湯町16-36 TEL 0977-21-2111(代)

7年ぶりに別府で開催されます。別府温泉につきり、“関あじ、関さば、城下かれい等々”大分の名物を堪能し、大分の地酒を酌み交わしながら、先輩・旧友との楽しいひと時を過ごしましょう。

大分支部会員一同、たくさんの方の参加をお待ちしております。

中牟田弘道氏(昭53)を偲んで…



「広島国際大学薬学部長：中牟田 弘道君と 妻：由里子さん」の墓前に捧ぐ

摂南大学名誉教授 小井田雅夫 (特)

中牟田弘道君に初めて出会ったのは、1976年、小生が二度目の外国出張先であるイリノイ大から長崎に帰学し、故渡辺三明君(昭42)率いる長薬準硬式野球部の練習を見に、グラウンドに行った時と記憶しています。印象的だったのは、当時の野球部員の中でも背が高く、顔の縦軸が顎のせいから少し長めで、スリムな筋肉質の体型でした(実際、摂南大には「長顎」に注目してアゴニストと呼ぶ不埒者がおりました)。訊けば、陸士出身の父を持つ佐賀県人で、出身のバスケット有名高校ではバスケット部所属でしたが、故障もあり、長薬では野球部に入部とのことでした。当時、長薬野球部には笹田 豊君(昭52)、高田充隆君(昭52)など、優れた運動能力の部員が勢揃いし、強力なチームを作っていました。帰学後も野球部の練習やコンパに厚かましく参加するうちに、中牟田君のお眼鏡に叶ったのか、卒研先として、金戸教授の薬理学研究室を選択されたのが、本格的な付き合いの始まりでした。長薬大学院修士課程院生・研究生・助手時代から、摂南大助教授就任、優美な由里子夫人との結婚、長男：剛君と長女：香さんの誕生、新設の広島国際大教授に転任、そして学部長就任に至る34年間、特に由里子さんに親しくして頂いた家内にとって、由里子夫人は親類縁者よりも近い存在であったようです。それだけに、この一年間に連続した夫妻の相次ぐ訃報は、残された我々二人の人生にとって心情的に極めて重いものとなっています。

中牟田君は、研究面では、長崎大から摂南大、そして広島国際大において、一貫して、「骨粗鬆症動物実験モデルの作成と解析、およびその治療薬の開発」というべき研究

を進めて参りました。

課題別に列挙しますと、下記の三種類に分類することが出来ます。

- ①魚類カルシトニンの骨粗鬆症予防作用と鎮痛作用の解析と評価、
- ②ヒト副甲状腺ホルモン(hPTH)の骨形成促進作用の解析と評価、
- ③新規エストロゲン受容体モジュレーターの開発研究、

③は、武庫川薬大・大石義孝教授の研究室と共同開発した新規化合物で、現在、横浜薬大の出雲信夫研究班と共に、エストロゲン受容体モジュレーター作用の解析と評価の最終段階に入っており、数年内に基礎研究を終え、臨床研究に進む予定で、残された者が連携して全力で開発に当たり、その結果を墓前に報告することを目指しております。

教育面では、学部長として「薬剤師教育」の完成度を高めることに全力を捧げ、開学第一回卒業生の薬剤師国家試験の合格率で、よくぞ「全国一位」を達成されました。これに要したエネルギーは全教職員が一体となった大変なものだったことは容易に想像でき、最終責任者として本人のみぞ知る「厳しい戦い」であったかもしれませんが、その戦跡は広国薬の教職員にとって「最高の遺産」になっているものと評価しています。

今年、終期高齢者になった小生にも、冥界入りの時期が近づいています。その時には、是非、「電線に、雀が三羽、止まった。」で始まる何人も真似のできない「電線音頭」で歓迎会を御願ひします。勿論、奥様と共にです。

中牟田弘道君との思い出

高田 充隆 (昭52)

平成22年3月28日(日)、薬学会が岡山で開催された際、学会のシンポジウム会場で中牟田君を見かけ、その日に岡山駅近くの飛鳥吉備停で、私、松野康二氏(九州保健福祉大学薬学部教授)、片岡洋行氏(就実大学薬学部教授)の3名で予定していた野球部同級生の集まりに誘ったのが最後の思い出となりました。その時期、中牟田君はすでに広島

国際大学薬学部長でした。私どもは彼が病氣療養中であることを知っていましたので、シンポジウム会場で元気そうな顔を見たときには、安心しました。直ぐに声をかけ、そして、我々の飲み会に誘ってしまいました。大丈夫かと心配しましたが、彼は酒の席ではいつもと変わりなく酒を飲み、たまたま集まったのが大学教員ばかりということもあり、薬学

教育の現状についていろいろ話が盛り上がりました。今思い返せば大変楽しい時間でしたが、それから1年少しが過ぎ、訃報に接してただただ驚きました。

学生時代、中牟田君は野球部の1年後輩で、私のあとの主将でした。卒業後、私は近畿の国立病院の薬剤師として、また、中牟田君は摂南大学薬学部から長崎大学から赴任された小井田雅夫先生の研究室の助手として関西に在住するようになり、ともに長薬同窓会近畿支部会の役員として、つい最近まで頻りに顔を合わせる仲でもありました。中牟田君は長薬同窓会近畿支部にはなくてはならない存在であり、随分長い間近畿支部会は中牟田君に支えられてきました。これは近畿支部会の皆様の共通の想いであると思います。また、小井田先生の呼びかけで、関西地区の野球部OBを集めて野球部関西OB会を開催していた時期がありましたが、中牟田君はいつもその世話役として会を盛り上げてくれました。学生時代は先輩後輩として学部および大学院で過ごし、社会人になってからは、同窓会や野球部OB会で常

に身近にいる存在でありました。

薬学部が6年制に移行する時期に合わせ、中牟田君は広島国際大学薬学部の教授として広島に赴任し、また、私は今までの国立病院薬剤部勤務から近畿大学薬学部へと異動しました。最近では、同じ大学教員としての立場でいろいろ相談させていただいたこともよくありました。中牟田君が、薬学6年制の新たな教育制度の中で、大学の運営について学部長として苦労していることは容易に想像でき、大変な心労があったことと思います。平成23年度で新しい薬学教育で教育された学生が6年生となり、いわゆる完成年度を迎えました。この新しい薬剤師が社会に巣立つ姿を見ることなく逝ったことは、さぞ無念であったことと思います。学生時代から現在にいたるまで、中牟田君は私が最も密に接してきた長薬同窓生であることは間違いありません。その彼が、若くしてご逝去されたことを心より残念に思うとともに、深くご冥福をお祈りいたします。合掌。

同期友人・中牟田君の訃報に接して

木原 哲郎 (昭53)

学生時代からおよそ“病氣”とは縁のなさそうなvitality溢れる人がこれほど早くに鬼籍に入っていられるとはよもや想像つかないことでした。同期友人 中牟田弘道君の早すぎる死は私のみならず、彼からの薫陶や交誼を受けた人々を深い悲しみに覆ってしまったことと思います。何故これほどまでに早く、と大抵の人たちが思うところかも知れませんが、この“予想外”の運命こそがこの世における実態なのでしょう。大変辛く悲しいことであり、中牟田君のご冥福を衷心よりお祈りします。加えてまだ社会人に達していない彼の二人のお子さんにとって本年(2011年)、続けざまにご両親を失われる結果となり、彼らの慟哭は想像を絶するものであったと心が痛みます。

告別式に東京より急遽参列しましたが、そこで中牟田君の恩師、小井田雅夫先生(摂南大学名誉教授)が弔辞で故人の生前のペプチドを基本とした創薬研究に関する素晴らしい業績のみならず、大学での教育、地域薬剤師会との交流など幅広い生前の活躍ぶりが紹介されました。また前広島国際大学薬学部長の富士先生からは、2008年の第93回薬剤師国家試験合格率で同大学が全国一位となり、そのときの国家試験対策の責任者をしていた故人を高く評価される旨の紹介がありました。小井田先生は、故人の結婚媒酌人も務められたこともあり、上記のように短期に両親を失った子供たちに対して今後も温かくご支援していただくよう列席者に懇願されていました。無論、私も彼と同世代の親として痛み入るところがあるので今後もできる限り応援していきたいと思っています。

中牟田君の生前中の業績は誠に輝かしいものがあったと思います。長崎大薬物学教室時から小井田先生に仕え、小井田先生の摂南大学異動とともに彼も同大に異動、カナダ

留学、助教授を経て、広島国際大学に就任されました。病魔に襲われながらも薬学部長の要職を凛と務められていたと伺っています。地域密着型の学内外の薬学部の要として、さらなる大学の発展を目指しておられたものと推察されますが、ここまでの大きな活躍ができたのは彼の大学時代からの卓越した研究能力のみならず明朗活発な社交性、さらに同期のみならず先輩、後輩からの幅広い信望があったからこそその結果だと思います。本当にこのような貴重な人物を早期に失い、同期として悲しみのやり場がありません。彼は上記の仕事やその他もっと色々な事をしたいと考えていただろうと推察しますが、彼しかできないことが多々あったものと思われまので、せめて彼の「心意気」を察してこれを私に残された仲間へ向後踏襲していきたいと思っています。

当時薬学科長(現薬学部長)の宇根先生の弔辞で「中牟田先生はロマンチストですね。旅立つ日が7月7日とは、もう奥さんに会われましたか。。。」…これには私もとうとう熱いものを頬に濡らしてしまいました。出棺のときに最後の穏やかな御顔を拝し、「ゆっくり休んでね。じゃ、またね、」とつぶやくのが精一杯でした。

翌日、広島の実家から帰京しましたが、新幹線の車窓よりふと西方の広島方面を眺めると金色の眩く美しい夕日が広がっており、まるで生前中、いつも学生時代から別れの挨拶で言っていた「じゃあねー!」の軽いタッチの彼の声が空高くから返答しているように思われました。

中牟田君、これまで色々ありがとうございます。安らかに奥様と共に眠ってください。そしてお子様たちを見守って下さい。

合掌



中牟田先生逝去を惜しむ

佐々木 均 (昭53)

広島国際大学薬学部の中牟田弘道先生のご逝去に対し同期生として残念で言葉もない。優秀で人格者の彼が若くして亡くなったことに対し、無念の思いがつきない。

中牟田君は1974年長崎大学薬学部に入學し、4年生で薬物学研究室に配属、卒業後修士課程に進んだ。薬物学研究室の小井田雅夫先生(摂南大学名誉教授)の異動に伴い、摂南大学へ移り、助手、講師を経て助教授へと昇進している。その間、大阪大学生物系薬学で薬学博士の学位を取得するとともに、カナダのオンタリオ州にあるMcMaster大学へ留学している。その後、広島国際大学薬学部の立ち上げに尽力し、2004年同大学薬学部教授として赴任し、薬効解析学教室の運営・教育・研究に従事した。2009年からは薬学部長となり、学部全体の運営責任を担い大学に大きく貢献している。一貫して薬理学分野での研究を進め、特に骨の分野へと研究を展開し、骨粗鬆症の動物モデル作成や骨形態測定技術を開発し、骨粗鬆症薬の評価法やスクリーニング法へと応用している。新規SERM様化合物の抗骨粗鬆症作用を研究し、国内・国外で注目されていた。

中牟田君は、学生時代から話が面白く、気配り上手で正義感が強く、学年の中心的存在であった。懇親会では、酒も強く、友人を巻き込んでの武勇伝は数多い。私が大雑把な性格だったので、結構几帳面な彼とは凸凹コンビで妙に気が合った。我々の学年は男子が少なく、彼は唯一の野球部員として目立つ存在で、先輩からもかわいがられ、後輩にも

慕われていた。登山研修でも、本部の世話役として活躍し、開会式宣誓を行う「火の子」の大役も務めている。本当に人格者であった。その後、異なる大学・分野で教員としての道を歩き始めたが、大学で頑張っている彼の話にはしばしば元気づけられた。留学先のカナダを訪問し、奥様と小さな息子さんと一緒に楽しい時間を過ごしたことも良い思い出である。

2009年7月、私が広島国際大学の非常勤講師として訪問した際、彼の病気を知りショックを受けた。苦しかった最初の闘病生活を、彼が「しゃあないわ」と笑いながら話してくれたことが驚きだった。当時薬学部長として対外的対応と学部運営に奔走していた時である。その後、奥様が発病し看病をしながら最後を看取った。短期に両親を失ったご令息ご令嬢を思うと胸が痛い。広島国際大学の先生方にお聞きすると、中牟田君から痛いとか苦しいといった言葉はひとつも無く、普通のように仕事をし、学部長としての職責を全うしたそうである。最後まで気配りと責任感の強い友であった。長崎大学薬学部の卒業生として、薬学分野の教員として、あらためて惜しい人を亡くしたと思う。

機会がありながら一緒に写真を撮れなかったことと、彼の心中を察し、復帰を信じて、同期の友人に多くを語らなかったことが心残りである。今でも、彼から電話やメールがかかってくる気がして、彼の電話番号やメールアドレスを消せずにいる。

支部だより

●● 関東支部 ●●

支部長 樋口 宗司 (昭42)

3月11日の午後に起こった地震は、震度3程度の横揺れから始まった。その揺れは徐々に振幅を増して、やがて立てはられないほど強くなってきた。コップや茶碗が落ちて、激しく割れる音が聞こえてくる。やっと揺れが収まったとき、私は家を飛び出して、家族の安否を…と携帯を取り出した。しかし、その携帯電話が繋がることはなかった。

大地震のとき、私はマンションの10階にある自宅で仕事をしていたが、関東支部の会員は皆恐ろしい経験をされたことと思う。その晩は多くの帰宅困難者が都内にあふれ、メディアからは巨大津波の情報が流れた。次いで、原発事故のニュースと放射線被爆の恐怖や不安、安全な食品や飲料水等の不足、電力使用制限と節電の呼びかけ等々、連鎖反応のようにシリアスな出来事が続いた。

大地震と原発事故は、関東支部の活動とも無縁ではなかった。今年度の支部の第1回目幹事会を当初は3月の下旬に予定していたが、2ヶ月以上も開催が遅れた。その主な理由は、新任の原幹事長(昭60)が福島原発に近い相馬市の保険薬局に緊急支援で滞在していたためである。危険を承知の上で、原発事故現場のすぐ近くに赴いて、調剤の仕事をするは大変勇気が要る行動であったと思う。

3月22日には、日本ジェネリック医薬品学会の村田正弘理事からの要請に応じて、吉岡副支部長(昭56)が被災地に送る医薬品の仕分けボランティアを同窓生に呼びかけた。メールアドレスを登録している100名以上の支部会員に呼びかけたところ、数名の同窓生が集積地の埼玉県立大学に駆けつけてくれた。自らボランティアに参加できない会員も、友人・知人にいろいろな方法でボランティア募集の情報を流してくれたが、ご協力を頂いた多くの同窓生に、心よりお礼を申し上げたい。

長く続いた余震も次第に収まり、平穏な生活が戻ってきたのは秋口に差し掛かる頃だったように思われる。関東支部では、従来6～7月に開催していた支部総会を、前年度の幹事会で秋に開催することに決めていた。日時は11月12日土曜日の午後、会場は長大の東京事務所がある寺島文庫ビルの1階「Caféみねるばの森」である。このビルは、多摩大学学長の寺島実郎氏の書庫兼事務所であるが、私たち関東支部も事務局を長大の東京事務所に置かせてもらっているので関係が深いところである。

当日は懇親会費を従来の半額もしくはそれ以下(平成5年以降の学部卒は懇親会費3,000円)に引き下げたが、集まりは今一つで参加者30名の総会となった。役員の変更や会則変更の後、黒岩顧問(昭30)の乾杯の音頭で始まった懇親会は楽しく和やかで、来年度は出席者1人がもう1人の同期生を連れて参加し、支部総会を盛り上げることを互いに誓い合った。

その時の様子を関東支部のホームページに掲載しているので、是非ご覧いただきたい。



平成23年11月12日 於 café みねるばの森

●● 近畿支部 ●●

支部長 梶野 繁 (昭42)

本年3月東北で大地震が発生し、津波による壊滅的な被害や、福島原発事故による放射能汚染がありました。また、奈良県、和歌山県では集中豪雨により大きな災害が発生しました。全国からの支援により一日も早く復興されるように祈っております。

さて、本年度の特別講演及び長薬同窓会近畿支部総会・懇親会は平成23年10月15日(土)午後、長薬同窓会から伊豫屋偉夫会長を迎え、支部会員428名のうち40名の出席のもと大阪弥生会館で開催されました。

総会に先立って行われた特別講演は「長薬37年間の想い出」というテーマで芳本 忠先生(特別会員、摂南大学理工学部)にお願いしました。

長崎大学薬学部在職中に開発したクレアチニン分解酵

素とプロリン特異性酵素の成果について講演があり、続いて、長崎が幕末に唯一の近代薬学導入の場所であり、オランダ語での講義を生徒達に松本良順と司馬凌海が通訳し、江戸、大阪に広がっていったなど話していただいた。在学中では聞けなかったことを講演していただき、盛況のうちに終わりました。

総会では第1号議案～第5号議案は原案通り承認されました。

懇親会は山戸 寿(昭30)の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。森藤由香さん(昭59)の軽快な司会で、最高年齢の石津一貫さん(昭16)をはじめ多くの参加者の方から近況報告をいただきました。短い時間でありましたが楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

最後は山澤龍治さん(平18)の万歳三唱で終わりました。

また、本年も会員の交流と親睦を図るため会報16号の発行を予定しております。



平成23年10月15日 於 大阪弥生会館

●● 広島支部 ●●

支部長 青野 拓郎 (昭52)

長薬広島支部同窓会を平成23年10月23日(日)にホテルニューヒロデンで開催しました。10月は、学会や運動会などの様々な行事があったせいかな都合がつかない方が多く、少し寂しい12名での同窓会となってしまいました。

橋口先生(昭36)の司会のもと始まりました。最初にこの7月に急逝された中牟田弘道先生(昭53)へ黙祷をささげ

ました。次に私が支部長挨拶を致しました。大石先生(昭35)の乾杯挨拶の後、会食懇談となりました。

懇談の中では、仕事関係の話で夢中になり、在宅での薬剤管理指導について介護支援事業所を運営されている岸川先生(昭60)に様々な質問をして答えて頂きました。また今年初めて参加された岡垣先生(院平17)は、先輩諸氏に囲まれて歓談されました。みなさん様々な趣味をお持ちになっておりその話でも盛り上がっておりました。

この3月11日に起きた東日本大震災に関して広島県薬剤師会から災害派遣で宮城県石巻市へ行きましたので、石巻市、女川町の惨状と10月に見た復興状況や6月に

行った支援活動についてスライドショーを使って参加された方々に見て頂きました。

校歌斉唱のあと、品川先生（昭44）に閉会の挨拶をし

て頂きました。その後写真撮影をし、来年は、みんなで誘い合って参加者を増やしましょうねと声を掛け合いながら解散となりました。



平成 23 年 10 月 23 日 於 ホテルニューヒロデン

● ● 山口支部 ● ●

末田 淳子（昭53）

長薬同窓会山口支部・抜天会を平成23年7月9日(土)に山口湯田温泉のプラザホテル寿で開催しました。例年、新山口駅・新幹線口側の山口グランドホテルでの開催を、湯田温泉に泊まったの開催も良いのではないかと、ということでの企画でした。さらに今回は、渡辺純忠 山

口市長（教育学部 昭43）の特別参加もありました。

野村さん（昭60）の司会で、県薬の会長でもある若松会長（昭45）から、昨年の九州山口薬学大会の無事成功と、今年10月開催の山口国体への募金に続き、東北の震災募金と、多くの協力への謝辞、さらに10月の山口国体へ向けて、うっかりドーピング防止の協力依頼等の挨拶があり、乾杯の後、懇談・会食となりました。

河田和子先生（昭32）が、このたび厚生労働大臣特別表彰を受賞されたので、会の恒例で、女性の先輩には、男性の一番若い後輩からということで、今回は、城下君



平成 23 年 7 月 9 日 於 プラザホテル寿（湯田温泉）

(昭61)に花束贈呈をお願いして、皆でお祝いをしました。先生は、病院を定年退職後、調剤薬局へ、また学校薬剤師としても活動されていますが、実は今回の受賞は、薬剤師としてではなく、民生委員としての受賞とお聞きして、皆、驚きました。

懇談の中、河野先生(昭17)がご登場され、そろそろ90歳をお迎えになられるとのことでしたが、長崎大学を退官後、山口に帰られ、家業の薬局で、「今も店番をしています。近くに來られたらぜひ寄ってください。」と、とてもお元気な様子でした。後日談ですが、閉会后に、小川先生(昭35)と河田先生で、先生をご自宅まで送って行かれたら、奥様もお元気で、4人でお茶をしました、とのことでした。その後、全員で近況報告をして、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

今回は、これまで開催のお世話をしてくれた廣野君(昭54)が仕事の都合で、山口を離れ、代わって森重先

輩(昭48)が、ほとんど全ての開催準備をして下さいました。お疲れさまでした。また当日、受付のお手伝いをしてくれた黒瀬さん(平11)、司会の野村さん、写真を撮ってくださった河田先生、皆さん有難うございました。閉会后には、次回の開催に向けて、抜天会の道具一式を、順送りで、伊藤君(昭55)に引き継ぎました。

今回の出席者

河野 信助(昭17)	河田 和子(昭32)
小川 満子(昭35)	若松 輝明(昭45)
森重 徹洋(昭48)	今村 明久(昭49)
大平 健一(昭49)	山崎 秀樹(昭50)
田中由美子(昭52)	末田 淳子(昭53)
伊藤 弘範(昭55)	野村 由子(昭60)
城下 佳秀(昭61)	西島 恵(平7)
黒瀬 恵(平11)	山下美智子(平17)
渡辺 純忠(教育学部 昭43)	

●● 福岡支部浦陵会 ●●

会長 青木 郁(昭38)

平成23年度の長薬同窓会福岡支部浦陵会を9月4日(日)17:00より福岡市福新楼にて開催いたしました。27名の同門の方々にご参加いただきました。

昨年までは、「21世紀の薬剤師像をアップしよう!」のテーマを基に同窓生で活躍されている方を講師に迎え研修会を企画し、総会、研修会、懇親会の三部構成を基本に計画してまいりました。しかし、なかなか若い方の参加が増えず、現在の福岡支部浦陵会は運営方法を見直し、新しい会の運営をご提案し、検討していただく時期ではないかと考え、今回は、ご検討いただく会と懇親会の構成で実施しました。

まず、現在の福岡支部浦陵会の現状を説明しました。430名強の同窓会メンバーへご案内いただきましたが、何らかの返事を頂いた方は135名(約30%)平成23年度支部会費(1,000円/年)を入金いただいた方は40数名です。

(平成23年8月末現在)色々な事情があることは十分理解していますが、これでは同窓会として運営していくことは不可能です。従いまして、福岡支部浦陵会はしばらく休会とし、次のように提案させていただきました。

- ・この会を楽しみにして下さる方々も多く居られますので、今年度のご案内にご返事を頂いた方を中心に、お互いの元気を確認する会として継続する。
- ・支部としての年会費の収集は平成23年度で中止し、平成24年度からは同好会開催時の会費の中から通信費として200円から300円を頂き運営する。
- ・会の名称については今後検討し名付ける。

尚、今後の運営世話人として、引き続き村松恭子(昭56)、中島敏樹(昭57)、松原 大(昭58)、白谷智宣(院平5)をお願いすることとし、ご了解を頂きました。

懇親会では、吉岡先輩(昭24)の乾杯のご発声で始まり、一人ずつ全員が近況報告をしました。皆様のさまざまのご提案やこの集いへの想いもお話いただきました。

最後は、古川先生(昭25)に音頭を取っていただき、一本締めで浦陵会の幕を閉めました。今回の決断が新たな展開につながることを祈念いたします。

●● 大分支部 ●●

支部長 野尻 敏博(昭48)

大分支部の総会および新年会を1月22日(土)、大分センチュリーホテルにおきまして、お忙しい中長崎から伊豫屋会長(昭41)、岸川直哉庶務幹事(平10)をお迎えして、22名の参加者で開催しました。大分支部も総勢165

名を数えるまでになったのですが、ちょっと寂しい気がしています。今後の課題として、もっと若い卒業生にも気楽に参加してもらえるような魅力のある会にしていかなばと反省しています。

今年の参加者は、長老の西川先生(昭26)から若手の森 仁志君(平19)、山瀬敬治君(平19)まで幅広い年代が集まり、また、久しぶりの参加となった副島英夫先生(昭30)や初参加の内田伊久夫君(昭62)、中山田寛之君(平10)もいました。西川先生が「もう僕は引退し

たい。来年から来れないよ」と言われるので、来年もお元気で参加してくださいと説得するのに大変でした。

恒例の記念写真の撮影ですが、今回は会場のホテル側のご好意により結婚式用の写真会場での撮影となりました。出来ばえは後のお楽しみです。

支部総会で、伊豫屋会長からのご挨拶の中で、来年の長葉同窓会の総会を大分で開催したいとのご提案がありました。伊豫屋会長には度々大分までお越しいただき大変お世話になっていることもあり、大分支部の心意気を示そうということで、協議の結果お引き受けすることにしました。誠に大任ですが、本部からのご指導を仰ぎながら準備を進めていきたいと思っています。

また、岸川准教授からはスライドを交えながら薬学部近況についてのご講演があり、懐かしくもありまたその変わり様に頼もしくも感じたものです。

懇親会では、恒例の各学年ごとの近況報告を含めた自

己紹介等が行われ、なごやかに会は進行し、堤 勝也君（昭62）の巻頭言で校歌を斉唱し、山瀬敬治君の日田式の三本締めで散会しました。

出席者

西川 恭夫（昭26）	副島 英夫（昭30）
野内 栄二（昭37）	藤井 幹久（院昭44）
野尻 敏博（昭48）	石橋 眞（昭49）
岡本 盛義（昭49）	阿部 敏幸（昭50）
上ノ段 茂（昭50）	倉田 啓二（昭50）
井上（長尾）美津枝（昭51）	川口 純市（昭52）
金丸 哲宏（昭53）	都留 君佳（昭55）
安松 文雄（昭55）	内田伊久夫（昭62）
堤 勝也（昭62）	久壽米木洋子（平4）
中山田寛之（平10）	陸丸 幹男（院平15）
森 仁志（平19）	山瀬 敬治（平19）



平成 23 年 1 月 22 日 於 大分センチュリーホテル

●● 佐賀支部若楠会 ●●

西依 健（院昭54）

平成23年度の佐賀支部若楠会総会は7月16日(土)グランデはぐれを会場に、20余名の参加を得て開催されました。来賓として伊豫屋同窓会会長にはご多忙の中ご出席いただき、来年は薬学部が6年制に移行して初めての卒業生が出る事、さらに同窓会でも若い人たちの活躍を期待したいとご挨拶をいただきました。

総会は山口陽子氏（平5）の司会で、まず物故会員へ

の黙祷そして校歌斉唱（伴奏音が小さかった所為かちょっと元気がなかったかな？反省！）から藤戸 博支部長（院昭52）の挨拶、議題進行は末安正典氏（昭52）を議長に選出して行われ決算報告、役員改正、支部運用細則が承認されました。いよいよ同窓会一番の楽しみである懇親会へ……、乾杯のご発声を角田正之氏（昭33）にお願いして宴が始まりました。おいしい料理も手伝って各テーブルでの懇談も賑わうなか、せっかくの機会なので東北地方太平洋沖地震のボランティアとして4月1日の早期より福島県いわき市へ出向かれた佛坂 浩氏（昭61）にお願いして支援活動をお話ししていただきました。いわき市が地震の被害のみならず原発問題も重な

りボランティアが集まりにくいこと、医療環境は混乱状態で医療関係者が不足していることを知り、少しの役になればという思いで出かけたといういきさつから、到着して見た災害状況の津波の凄まじさを実感したこと、余震が続く中で睡眠をとっての支援活動では各地から提供された備蓄の医薬品から薬品選択の提案、投薬から服薬指導まで行い、避難所のOTC薬の常備状況を確認し相談を受けた被災者へOTC薬の配布、服薬指導など不完全な医療環境での活動を報告して頂きました。また被災者や医療チームからの薬剤師のニーズは高く、緊急時での薬剤師の職能が評価されたことを強く感じ、今後も日頃の薬剤師業務に励むとともに薬剤師としてさらなる職能の研鑽を行い要求に応じていく大事さを伝えられて話を結ばれました。きっと参加された会員の心に届いたことと思います。佛坂氏は今期より佐賀県薬剤師会の副会長としても活躍されておられます。締めの方歳を福島

祐作氏（昭37）をお願いして会を閉じました。

今回支部だよりを書くにあたりこれまでの会報誌をあらためて見てみると、最近は何の支部も支部会運営に苦慮されているようです。11年間休会していた佐賀支部は2年前に佐賀支部若楠会として再活動することになりましたが、今年は総会までの準備期間が短かったため会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしたと思います。それでもたくさんの方々に参加して頂き、なかには終了後に掛け持ちの別の会へ向かわれた方もおられ、同窓会への心意気を嬉しく思いました。これから若楠会が継続していくためにも、若い会員の皆様にたくさん参加していただきたいと願います。年代の違いなんて長崎大学薬学部という共通項があれば問題なし、話題は自然に広がっていきます。出席すると案外楽しいものですよ。ぜひ次回同窓会でお会い致しましょう。



平成 23 年 7 月 16 日 於 グランデはがくれ

●● 熊本支部 ●●

幹事 松尾富士男（昭59）

平成23年度の熊本支部例会は、9月3日(土)午後7時から昨年と同じ「熊本ホテルキャッスル」で開催いたしました。昨年は参加者数に対して部屋が狭く、参加された皆さんに窮屈な思いをさせてしまったという反省から、今年は十分な広さの部屋を確保しました。下見をせず当日会場に入ってみると、30人以上でもゆったりできる広さの会場で驚きました。今年の参加者は17名で、例年並

の参加者数でしたので、ますます部屋が広く感じました（笑）。

開会に先立ち、本田五郎様（昭20）の急逝を悼み黙禱を捧げました。支部長の山本喜一郎さん（院昭55）からの開会のご挨拶に続き、同窓会本部から大学の近況報告をいただきました。今年は、機能性分子化学研究室の梶島力先生（平4）に、ご出席いただきスクリーンへのプレゼンを交え楽しくお話を聞かせていただきました。恒例ながら大学や周辺の変化に参加者は皆聞き入っていました。このあと、乾杯の音頭を岩下淑子さん（昭52）にお願ひし、会食・歓談となりました。宴も酣の中、これも恒例の参加者による近況報告をいただきま

した。また、会の途中では、昨年に続き、木山容子さん（昭57）、木山雄一さん（昭59）のご夫妻が、はるばる天草の本渡市から駆けつけてくださって（3時間！）、歓談に弾みをつけていただきました。

ところで、今回は、欠席された皆様の中から、返信の葉書に近況を綴っていただいた内容をご紹介します。田中久子さん（昭56）は、ご自宅近くの病院に転職されたとのこと、新しい職場でもご活躍をお祈り申し上げます。昨年、参加いただいた時は妊婦さんでおられた平原尋子さん（平15）は、無事ご出産おめでとうございます。川上文徳さん（平21）は、転職して東京に移られたとのこと、新天地でも長崎や熊本を思い出してください。その他、お子さんの成長や受験・合格のお話などありがとうございます。参加を検討いただき残念ながら欠席せざるをえなかった「今年こそは」様（?）、来年こそは（笑）お会いするのを楽しみにしております。

毎年、参加いただく皆様の元気な姿とお話を楽しみにしておりますが、一方で体調を崩され通院加療中とお話を伺うこともあります。是非、体調が許せる状況になりましたら、同窓会例会（毎年9月の第1土曜日）にご出席ください。昔話や近況のお話に花を咲かせていただければ、幹事にとってこれ以上の喜びはありません。

最後になりましたが、以下に今年の出席者を列挙させていただきます。

岩下 淑子（昭52）	古川 真一（昭54）
山本喜一郎（院昭55）	秦野 正敏（昭56）
木山 容子（昭57）	木山 雄一（昭59）
松尾富士男（昭59）	矢田 道代（昭60）
久松 貞義（昭60）	中嶋弥穂子（院昭61）
兒島 正樹（院昭62）	山内 秀樹（平2）
梶島 力（平4）	前田 健次（平5）
上仲 小玲（平6）	上村 裕子（平6）
雑賀みどり（院平13）	（以上17名、敬称略）



平成 23 年 9 月 3 日 於 熊本ホテルキャッスル

● ● 長崎県央支部 ● ●

支部長 中村 和子（昭44）

諫早市、大村市に居住する会員149名で構成される県央支部の総会を、平成23年7月31日(日)、JR大村駅近くのお料理茶寮「きぶん」で開催いたしました。

初めての太宰での催しで、東日本大震災の後の鎮魂の夏、そして節電の猛暑ということもあり、出席者が少ないのではないかと心配でした。お暑い中、伊豫屋会長（昭41）にご出席頂き、例年よりはちょっと少な目の18名の集まりとなりました。

総会は伊豫屋会長のご挨拶の後、平山前支部長（昭

41）のお話があり、内田民子さん（昭44）と一緒に幹事を務めた私、中村が次期支部長に推薦され、お引き受けしました。よろしくお願いたします。

平山氏にはお忙しい中、これまで支部活動に多大なご尽力を頂き、改めて感謝申し上げます。有り難うございました。

懇親会は熊本公子さん（昭33）に乾杯の音頭をお願いしました。思っていた以上の美味しいお料理とお酒で座も和み、各自の近況報告となりました。2名の平成卒の方のご出席もあり、この支部総会では初めてのことで大変嬉しく思いました。「次回は、うちの若い人達を誘い何人か連れて来ますよ」とおっしゃってくださった方があり、心強い限りでした。

欠席の返信の中に、丁寧な字で、「社会人一年生、全

力で走っています」という書き出しの近況報告がありました。「頑張れ！充実した人生にしてください」可能性を秘めた若い後輩にエールを送ります。

支部の集まりには、同期会に無い何か世代を超えて心

に残るものがあると思います。長葉の同窓という“縁”で、少しずつでも出席者が増えていくことを期待しています。次回はお出掛けになり易い、良い季節に開催したいものです。



平成23年7月31日 於 お料理茶寮「さぶん」(大村) (提供：熊本公子さん)

山口正広 高良真也 熊本公子 吉田研次 木下直幸 小松芳文 西村 昇
(昭56) (昭57) (昭33) (昭37) (平20) (昭41) (昭50)

早崎義信 手塚晴美 矢野恵子 渡部セツ子 宮崎信子 高木由美
(昭41) (昭53) (昭41) (昭44) (昭46) (平6)

田中秀二 伊豫屋偉夫 平山文俊 中村和子 内田民子
(昭46) (昭41) (昭41) (昭44) (昭44)

●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

会長 山中 國暉(昭43)

平成23年度の長崎支部ぐびろ会総会は、6月4日(土) 16:00から長崎市南山手町全日空ホテルグラバーヒルにて開催しました。

今年度は長葉同窓会定期総会と同日開催です。従って懇親会は省略しました。

議長に井上志郎先生(昭43)を選出し、議事に入りました。

○ 議事

第1号議案 平成22年度事業結果報告

・定期総会開催 平成22年7月10日

長崎全日空ホテルグラバーヒル

・長崎大学薬学部の長葉同窓生が教授の研究室に研究費を寄贈

・本部事業への協力

原爆慰霊碑の清掃

小野島校舎跡地記念碑の清掃

全学同窓会ホームカミングデーへの参加

第2号議案 平成22年度決算・監査報告

会計理事 濱田哲也

監事 田原 務

第3号議案 平成23年度事業計画

定期総会開催

本部事業への協力

原爆慰霊碑の清掃

小野島校舎跡地記念碑の清掃

全学同窓会ホームカミングデーへの参加

第4号議案 平成23年度予算

第5号議案 その他

以上1～5号の議案を提案どおり承認されました。

このあと長葉同窓会定期総会に移行しました。

クラス会および近況だより

河野 功教授退職記念会

田中 隆 (特)

河野 功先生は、平成23年6月1日をもって本学を退職されました。

河野先生は、昭和47年九州大学大学院薬学研究科修士課程を修了後、九州大学生産科学研究所助手を経て、昭和54年長崎大学に薬学部助手として着任され、平成4年に長崎大学薬学部教授に就任されました。高取治輔教授（昭和25年～昭和45年）、河野信助教授（昭和45年～昭和63年）に続く新制長崎大学薬学部生薬学研究室（現天然物化学研究室）3代目の教授にあたられます。



先生は本学に着任されて以来、教育・研究・組織運営に多くの功績を残されました。研究においては、生薬天然物化学の分野で多くの学術論文や著書、特許を出され、中でも日本および中国産の有毒シキミ科植物を対象とした精力的な成分研究において多数のセスキテルペノイド類を分離構造解析して世界的に注目される業績を上げておられます。その他にも、中国およびマレーシア産薬用資源植物の生物活性成分、海洋産生物の生理活性天然物、未利用菌類の成分、フラボノイドの生合成、植物ポリフェノールの化学など多岐にわたる研究成果を挙げられました。さらに、日本生薬学会評議員、日本薬学会編集委員などを務められた他、平成20年には大会組織委員長として日本生薬学会第55回年会を成功裏に開催されました。

組織運営においては、平成14年に長崎大学大学院医歯薬学総合研究科が新たに設立された際に、4年間にわたり副研究科長として医学・歯学・薬学が統合された巨大組織の運営にあたり、任期制導入などの組織の土台作りにご尽力されました。また、長崎大学機器分析センター長および共同研究交流センター先端科学研究支援部門長として、新しい核磁気共鳴装置など最新機器の導入にあたり長崎大学の発展に寄与されました。一方で、薬学部附属薬用植物園長を継続して務められ、雲仙普賢岳噴火に伴う島原薬用植物園の閉園や、薬草園技官削減や設備老朽化などの事情により管理不可能となった野母崎薬用植物園の閉園など、時代の大波の中で多くの苦勞をされておられます。

先生が教授になられた20年前は、バブル崩壊とグローバル化の時期と重なり、日本中のほとんどすべての組織でシ

ステム改革がなされた混乱の時期でした。国立大学も例外では無く、長崎大学薬学部でも多くの改革がなされましたが、先生の教授としての仕事はそのような大きなうねりの中で始まったと思います。教官個人の研究業績が毎年公開されるなど、今では多くの大学で当たり前になったことが長崎大学薬学部では全国で先駆けて行われました。また、臨床薬学専攻の大学院設置、医歯薬学総合研究科設立、教官の任期制導入、建物改修工事のさなかの日本薬学会年会の開催、薬学6年制の開始に伴う薬学科・薬科学科二学科制の始まりなど、先生の教授在任期間は長崎大学薬学部にとっても激動の20年であり、前述の野母崎薬草園の閉園など苦澁の決断を迫られたことも多々あったと察せられます。ただ、研究室には多くの優秀かつさまざまな個性をもつ学生が次々とやってきて、厳しいながらも先生の周りには笑い声が絶えませんでした。

河野 功先生のご退職にあたり、先生のご功績を讃えるとともに今後のご健康を祈念して6月18日に市内ホテルにて退職記念の会を開催いたしました。先生が教授就任後にお世話になった学生を中心に、特に関係の深かった方々にお集まりいただき、遠くは香港バプテスト大学から姜志宏教授にも遠路駆けつけていただいて挨拶を賜りました。近しいものだけでの会であったこともあり、非常に和やかな時間があっという間に過ぎ、酒が飲めない先生も二次会まで付き合われて深夜まで歓談は尽きませんでした。



定年までおよそ1年を残してのご退職でしたが、先生はこの秋熊本阿蘇に移り住まれ、日本有数の雄大な自然の中でこれからの人生をお過ごしになると聞いております。まだ仕事の関連でいろいろなくてはならないことがお有りようですが、先生の今後のご健康を祈念して拙文を閉じたいと思います。

富永先生定年退職にさいして

元長薬同窓会長 古川 淳 (昭25)

1月末に、富永先生(昭44)の定年退職懇親会の案内状をいただきました。あれ!もうそんな年かなと改めて私自身の年を再認識した次第でした。

発起人には、藤戸さん(院昭52)、松田さん(昭50)、水山さん(院昭50)など懐かしい方々のお名前があり、これは是非馳せ参じなければと思った次第でした。しかし……(後述)

さて、富永先生が学部を卒業する頃は、いわゆる学生運動が全国的に波及し、大学の在り方が厳しく問われ、いかに対応するか大変な状況下でした。長崎大学も同様に学生自治会のストライキ、教養部の封鎖、機動隊に守られての入学試験など騒々しい雰囲気でした。その中であって富永先生は、小林五郎先生の薬化学教室に出入りし、卒業実験さらには修士課程2年間を過ごされました。修士課程修了後は、日本学術振興会の薬学奨励研究生となり、本格的な教育、研究の生活が始まったと思います。当時は、松田先生(昭37)、夏木先生(院昭43)と共に、ケテンジチオアセタール類、ジチオカルボン酸類の応用研究など多くの複素環化合物の合成と反応性を精力的に追及しておられたと思います。

当時の学生さんで、私がよく憶えているのは、間瀬田君(昭47)、栗屋君(昭49)、水山君(院昭50)、松田米人君(昭50)、阿部君(昭50)など、教室の実験もさることながら、ソフトボール、子々川でのキス釣りも盛んだったことなど懐かしく思い出されます。

富永先生は、昭和49年に九州大学より学位を得て、昭和55年から2年間、アメリカ、ユタ州、ブリガムヤング大学のCastle教授の研究室へ博士研究員として留学されました。Castle研究室では多環状チオフェン類の合成を目的に、夜は10時、11時迄実験室で過ごし、精力的に研究を進め、その成果は数多くの論文として報告され、Castle教授の信頼も絶大だったと聞いていました。その後、平成3年にも文部省の長期在外研究員として、南フロリダ大学へ移られたCastle教授の研究室へ再度留学し、ここでも多くの研究成果が報告されています。

平成12年から機器分析センター助教授に就任し、その間毎年、機器分析講演会を主催するなど、センターの運営に活躍されたと聞いています。

平成16年からは、環境科学部教授として、教育、研究の面で一段と飛躍があったようです。これまでに合成したキノリチジンやピロン縮合環などの蛍光性を追求し、より効果的な有機ELとしての実用性を検討されているようです。私は、この方面には疎く、近年の優れた業績について、充分述べ得る知識はありません。ただ、平成21年6月に“小林五郎先生を偲ぶ会”が横浜で開催されました。その折に富永先生の話「ケミルミネッセンスの実験」に興味深く拝聴しました。この話は、同じ年の3月に長崎大学で行われた、下村脩先生(昭26)のノーベル化学賞受賞記念講演で語られたバイオルミネッセンスGFPの発光についての話を思い出させました。

富永先生の研究は、昭和45年以来、現在まで約40年にわたって、ケテンジチオアセタールやジチオカルボン酸を基盤とした研究であったと思います。これらの研究がいろいろな方面に進展し、その研究成果は論文、総説など260篇にも及んでいます。まさに驚異的な研究歴で、富永先生の真摯な教育研究の姿勢には心から敬意を表する次第です。

ここで一つ付け加えたいことがあります。それは、富永先生の初期の研究協力者の一人が水山一路さんであり、富永先生の近年のすぐれた協力者は、萩森奈央子さん(平12)でした。このお二人が、お父さんとお嬢さんであることを初めて知り本当に驚きました。このことは、富永先生の長い研究歴とその人柄を物語るものではないでしょうか。

退職後は、郷里の佐賀県鹿島市で、土を友にしたいという希望と聞いていましたが、実現したかどうか?

富永先生の長い間の研究生活、そして海外を含め、いろいろな学会への参加など、多くのご苦勞があったことでしょう。これには、奥様律子さん(昭47)の陰ながらのサポートがあったこそ立派な成果が得られたと思います。

……3月12日午後2時頃、乗換えの鳥栖駅ホームで特急かもめを持つ。人影はまばら、おかしい!駅員さんに尋ねる。「長崎へ行きたいけれど、何で電車は来ない」「長崎?今日は無理、長崎線も大村線も津波警報のため運転中止、行きたければ福岡天神へ出て、長崎行特急バスにのっちは!多分満員かもしれませんよ」大いに慌て長崎のあちこちへ電話をする。ウッカリ年寄り的一幕。

平成23年9月 記

エ ッ セ イ 3 点

服部 俊明 (昭28)

3.11 M9 陸橋の恐怖 23-11-11

その時私はヤマダ電機仙台駅前店の地下鉄に通ずるエレベーター前にいた。そこで何時も経験する予震が起った。例により暫くしたら治まるだろうと思った。ところが震源が近いのか本震が怪獣のような勢いで襲い掛かってきた。これはヤバイ、落下物で怪我をしないようにフードを起こしビルを離れて陸橋の中央に避難した。

しかし勢いは益々激しくなり、「ゴー」と不気味な地鳴りを立てて陸橋を上下左右に暴れ馬の勢いで激動した。これは未経験の巨大地震だ、それまで橋の欄干にしがみ付いていたが咄嗟に橋の崩落の危険を感じた。暴れまくる欄干の手すりを伝って対岸の踊り場までやっと辿り着いた。しかしいつまで経っても激震は衰えない。ビルは今にも倒壊しそうで、先程の陸橋は崩壊寸前の恐怖に慄いた。或るビルは傾きかけて土煙を上げていた。何時かは来るだろう日本列島沈没が微かに頭を過ぎった。

周りを見れば何方も地べたにしゃがみ込んでいた。やがて10分ぐらい経ってやっと揺れは沈静したが余震が絶え間なく襲い掛かった。激震の中で心配したこと①私自身の安全確保。②ビルの倒壊、道路寸断、バス地下鉄の壊滅。③自宅には約6キロを歩いて帰る。④駐車場自体の破壊、愛車の相互接触による損壊。⑤家族の安否。自宅や家具の倒壊。火災。

こんな心配を抱き、とにかく仙台駅前であつたバスに飛び乗った。しかしバスは中々発車しない。運転手は本部と連絡をとるが電話はバンクして繋がらない。乗客を満載したバスは彼の英断で勝山経由がやっと発車した。車を預けた駐車場の関係で勝山入り口で降り、2 Kmを徒歩で黒松駅に急いだ。幸い車は無傷、車を出庫し家に飛ばして帰宅したのは午後6時だった。家では妻も無事だった。幸い家や家具の倒壊は免れていた。お皿が何枚か割れた程度で助かった。当地区の被害状況は我が家と大同小異と推測された。しかしライフラインの電気、ガス、水道、電話は総て壊滅！ 激しい余震の襲来で絶海の孤島を体験した。夜は肉饅2個と買置ききの牛乳だけ。当夜はローソクで一夜を明かした。

その時は分らなかったが津波で2万人の方が犠牲になられた事や原発の話。また長期に亘る停電、断水、交通、通信、物資枯渇等で戦後の耐乏生活を再び味わった。

しかし沿岸部では家を津波で流され、仮設にあって肉親を不条理に喪失された方々は如何ばかりか。それどころか志半ばでローンだけが残った人には慰め、励ます言葉が見付からない。ガレキは山また山で延々と続く。復興の目処は未だ立っていない。後5年とも10年ともいう。

3.11 あの日あの時 23-7-5

それは東電福島第一原発だけではない。東北電力では何が起ったのか。当日のショッキングな模様が分かった。と言うのは、現在電力ビル1階のグリーンプラザでは東北電力が節電の大キャンペーンを実施している。ここでは夏季の電力事情を大きなパネルで説明していた。そして女川原子力発電所の他、原町火力発電所の大地震と津波による被害状況を写真で説明していた。

聞きしに勝る被害である。当仙台地区は大震災で発電所の破壊による長期停電になったがその事情が良く説明されていた。夏季の節電の重要性を改めて知った。

案内している電力のフロアー係りは美術館並の端正な服装で笑顔を湛えて発電所、変電所の損壊や鉄塔の倒壊、送電線の被害を説明し協力を呼び掛けていた。

私は彼女達の3、11の当時の模様が気に掛かった。Hさんは当日平常業務をこなしている内に大地震に遭遇した。予ねて訓練のようにヘルメットを着けて机の下に潜り込んだ。ところが常軌を逸した大地震で地鳴りが起り、机はがたがたと激動し、書類は勿論パソコンをはじめ事務機器は撥ねるは落ちるは大パニックになった。

誰言うとなく屋外に退避したがそこは人の山だった。余震は絶間なく襲い掛かる。壁ははがれて崩落する。ビルのエントランスはぎしぎし動いて所により破裂した。やがて事務室に戻ったが足の踏み場も無い。壊れた什器を片付け書類の整理に取り掛かった。家が七ヶ浜なので津波が心配だ。不安で胸が張り裂ける。5時になって、お互い気をつけてと退社した。

平素は仙台駅まで歩きそこから仙石線に乗る訳だが、JRもバスも総て壊滅。自分だけは何とか怪我は無かったが家族と自宅は……そんな心配を抱え45号線を盲流する難民大移動のようにひたすら帰途を急いだ。信号機は作動せず警官が迂回など交通整理していた。夕方6時になって雪が降り出した。誰も悲愴な思いを紛らして声を掛け合って長蛇の群集が歩いた。倒壊した家屋、歪んだ家並、瓦礫を踏み分けてやっと多賀城まで辿り着いた。その時はもう午後11時を回っていた。これから七ヶ浜まではさらに7 km。ニュースでは荒浜に200体の遺体が打ち上げられたという恐ろしい話。それでローソクの明かりの親戚を頼って、夜中に一夜の避難をお願いした。しかし先方も余震の中、瓦礫で埋もれていた。のどは渴くし実家が心配で空腹と疲労で叫喚地獄を味わった。

翌日早朝、七ヶ浜に向かった。途中は地盤沈下と液状化で津波の水はヘドロの小池。瓦礫の荒野、車も重なり合って車の廢墟。辛うじて七ヶ浜と思しき所に辿り着いたが、町は土台群だけを残す瓦礫の浜辺となっていた。血眼に成って避難所を尋ね歩いてヤット無事な両親を見

つけた。小走りに手を取り合って再会を喜びあった。その時は只それだけで嬉し涙が止まらなかった。と、

真珠王！ 邯鄲夢の枕 23-6-10

知り合いが新聞やテレビで有名人として登場するのは嬉しい。ところが今回はT真珠の前会長のT俊作氏が逝去したと言う報道だった。4/26死去、82歳、多臓器不全。

T氏と私との関係は遙か昔の学生時代に遡る。思い起こせば今から60年前の昭和25年の話である。当時私は長大2年生だった。彼は経済学部の前身、経済専門学校の3年生だった。その学校は、長崎に原爆が投下された場所から山一つ超えた所にあつたので不思議に被爆を免れていた。学校には歴史と伝統を誇る赤レンガの研究棟があり、講堂はイギリス様式で中二階があり、演劇や音楽会にも耐えるハイカラな建築文化を誇っていた。その講堂と楽屋で、私たち全学の音楽部員は、毎週火曜日午後5時から2時間の男声合唱やピアノのほかバイオリンの練習に励んだ。

合唱の指導は東高の音楽の先生で伊藤英一と言った。彼は東京芸大卒の市内では有名な合唱指揮者だった。丁度その頃先生が還暦を迎えられるのでT先輩の発案で、還暦を祝う記念演奏会を開く事になった。私共はそれに合わせて先生を迎えて合唱の特訓を受けた。

このT先輩は音楽部長として学生をまとめ渉外活動も行った。彼はO中学から海軍兵学校に進んだが半年後には終戦になって復員してきた。その後経済専門学校に進んだのである。その頃、大学には学部と専門学校が並存されていた。

T先輩はさすが海兵の流れを汲むので、やる事成すこと洗練されていた。『もしドラ』を今に行くマネージメントの素養があり、まとめ役としては最適だった。また彼自身も心に沁みるバリトンの名手だった。

還暦祝いの音楽会は三菱会館で開演された。これには市内の多くの団体も賛助出演した。私共は「オー・セナンドウ」ほか数曲を発表した。その他に私はピアノ独奏で“銀波”を演奏した。当日は発表会後、祝賀の懇親会が伊藤先生を囲んで執り行われた。勿論T先輩が取り仕切った。そんな中で海軍上がりの一面ものぞかせた。言う事には「日本は戦争で負けたが、今後はビジネスでアメリカを追い越すのだ」と、壮大な事を言っていた。当時私は及びも着かない事を言うものだと一歩引いた見方をしたものだ。私は此の音楽部ではY分会長だったのでT氏とは身近な関係だった。(彼の長男は後にT真珠の社長になったが名前は私と同じである。T先輩が何を思って命名したかは知らないが、彼の記憶の中に私が住み続けていたとすれば光栄である。)

懇親祝賀会は無事に終り、やがて彼は経済専門学校を卒業した。家業の真珠養殖業は長兄が大村で引き継いだ。次男だったT氏は真珠の納入先の何とかなう神戸の中国人商社に住み込みで入った。何しろ就職難の時

代。そこで3年間修行して退社し、彼自身が単独でT真珠商會を神戸で開いた。アパート1間で。そして実家を母体に真珠の養殖から選別加工のほか、卸と小売店(宝石店)、海外貿易にまで手を広げた。一種の博打だと私は思った。人脈も資金もか細い中で大勝負に出たものだと、我々仲間では静観の態度で見守ったものである。

やがて私も会社の転勤で大阪に住むことになった。阪神地区は各種県人会、同窓会や同門会が盛んな所である。私もT氏からの案内で何回か顔を出し旧交を暖めた。

思えば氏の企画、運営、司会の鮮やかなこと「和を以て尊し」とした聖徳太子を思い出した。円卓のテーブルを回りお互いに近況などを話し合っ、今後の抱負等も語り合った。そんな中で彼はポケットから、いつも肌身につけていると言う今年のお宝の『花珠』を取り出して、私共に得意満面に見せびらかすのであった。その大きさと言ひ、光の関係で七色に変幻する神秘的な色合いは特級品だと素人にも分かるものだった。恐らく彼にとっては「守護神」だったのだろう。その会社は順調に業績を伸ばし、大阪上場で二部に登録され、やがて一部に昇格し真珠業界では堂々たる地位を占めるに到った。当時その会社はバブルの波に乗り順風万帆、私共同門会では二次会などでは彼のお世話で、宝石の夜景の一流クラブに案内してもらった。夢の様な話だった。

ここで真珠の品質と価値は、昔学生時代に大学に商品化学教室があり、その主任教授に浅野金兵衛先生がおられた。先生は東京大学化学工学科を出られた方で、学生には「商品の鑑識眼を養う為には常時、本物に触れ手にとって良く見ることだ」と、言っていた。そしてちょっとした工夫で品質や真、贋の見分け方等は科学的な手法でと教えていた。そのうえ工学全般に亘っても明るかった。教授会では泰然たる勢力を持ち学生の人気も高かった。私どもは学部の時、化学機械、装置論を習った。恐らくT先輩も浅野金兵衛先生の商品学の薫陶が焼きついていてと見えて彼の行動は私の想像と良く符合する。

やがて私はS市に転勤になり、彼とは疎遠になったが、S市にも「T真珠仙台店」がある。時たま訪ねるが発展を祈って止まなかった。

聞くとところによれば生前会社が繁栄を極めていた時には、企業メセナ活動で各種の音楽会やオペラを支援協賛していた。その故あってかH県公安委員、神戸フアッション協会長を歴任した。

ところがバブル崩壊後、更にリーマンショックがあり、今また3.11の激変を迎えている。こんな経済変動にT真珠丸は翻弄され、今では外資に乗っ取られかけている。私と同名の後継の社長は退任し、今は外部の社長である。葬儀は身内だけのヒソリした物だったと言う。彼は生前「真珠と共に生き、真珠と共に死ぬ」と言っていたが邯鄲夢の枕！ 劇的に生きられた一生であった。

第24回 三朋会だより

郷野美智子（昭30）

昭和30年大学卒第3回生が初めて出会ったのは、今を遡ること60年前の昭和26年春、桜花真っ盛りの長大教養部（当時、大村市）でした。皆それぞれ紅顔の美少年、美少女（？）ばかり約40名、貧しくても本当に希望に溢れた楽しい青春時代の4年間（2年からは長崎の昭和町校舎）を過ごす事が出来ました。昭和26年に生まれた赤ちゃんが、現在60歳、定年を迎えることを思う時、この長い歲月、友人としてお付き合いして下さった皆様との縁の深さ、絆の強さを感じ胸に迫るものがあります。卒業時、42名だったメンバーも、今では13名も他界されましたが、沢山の懐かしい思い出を残して下さいました。

今年の三朋会は、長崎くんちの翌日、秋たけなわの10月10日(月)から12日(水)までの3日間開催しました。3日間とも爽やかな秋日和に恵まれ幸せでした。

先ず長崎市の梅松鶴に集合しました。此処は立山の高台にあり、長崎市街地や長崎港が一望のもとで、煌めく夜景を堪能出来、長崎がこんなに美しいところだったのかと改めて感動を覚えました。18時30分に写真撮影。先ず物故者13名のご冥福を祈って黙祷を捧げて開宴、長崎名物の卓袱料理を囲んで歓談し、校歌や故郷を合唱したりで楽しい時を過ごし、別室に移って積もる話に時間の経つのも忘れる程でした。特に今年は3月11日に起きた大震災、大津波、更に福島原発事故など話題は尽きず、これからのエネルギー問題等々も含めて、久々に多くのご意見を聞かせて頂き勉強になりました。

六十年（むととせ）を タイムスリップ 秋の宴

2日目は大学に行き、「下村 脩名誉博士 顕彰記念館」を訪れ、ノーベル賞という世界最高の荣誉に輝かれた恩師の偉大な足跡を見せて頂きました。

ノーベル賞のレプリカ、学術論文、実際にクラゲを1匹ずつ掬い上げられた網etc. 気が遠くなる様なご研究、実験の数々を拝見し、こんなに素晴らしい先生に1年間ご薫陶頂いたのを誇らしく思いました。（今年のお宮日には羽織袴のお姿で参加なさったのをTVで拝見）何時までもお元氣でご活躍なさいますようにと思いを新たにしました。

お昼前に大波止から「やすらぎ伊王島」に向けて出航し、女神大橋を頭上に仰ぎ、すぐ右手に長崎育ちの者には懐かしいネズミ島を見ながら、僅か19分で伊王島に到着しました。昼食後、暫く休憩し「軍艦島（端島）クルージング」に出かけました。石炭産業が盛んだった頃は人口密度日本一であったこの島も、1974年無人島となり廃墟化していましたが、近年上陸出来る様になりました。静かな廃墟の中を歩きながら、かつての人々の「さんざめき」が聞こえてくる憶いがしました。帰途、夕日に映え金色に輝く海面に浮かぶ端島のシルエットは正に軍艦そのものでした。

秋日和 傘寿のクラス 船の旅

栄枯盛衰 端島は語る 秋深し

伊王島での宴会では、プリプリの伊勢海老をはじめ山海の珍味のおもてなしで大満足でした。引き続き二次会では、昨夜と同じく遅くまで話ははずみました。



平成23年10月10日 於 梅松鶴

最終日の朝はバスで島巡りをし、真っ青の海と対照的に真っ白の伊王島灯台を眺めました。その先は東シナ海、はるか水平線の彼方は中国大陸です。11月初めには、上海航路が復活します。遠い昔、遣隋使、遣唐使が行き交った頃に想いを馳せました。

長崎に戻り、吉宗で昼食を頂き、第24回三朋会はお開

きとなりました。今回は17名もの多数の参加者があり大盛会でした。

参加者：山戸、江口、馬詰、川上、黒岩、黒岩夫人、小島、宮崎、副島、鍬塚、酒井、帆士、郷野、峯 武磨、峯 京子、森田和之、森田 勉以上17名

薬剤師として50余年の想い

樋口 幸男 (昭32)

私は人名を覚えることが苦手で、度々心ならずも大変失礼な事態を招く事が多い。よく有ることかも知れないが、私の場合最近その程度が悪い。わざわざ遠方から見舞いにお出で頂いた方々のお名前どころか、会って話した事すら記憶に全くない、となると穏やかではないのである。家族によると、枕元での対応はそれなりに普通だったらしいのだが、その記憶が真っ白で、最近はその都度老妻に教えて貰い、判った顔でお礼を言う始末である。

私は昭和5年(1930年)生まれで今年81歳になる。79歳の暮の大腸癌の手術以来、この1年間で17回の手術、その間敗血症、肺炎もあり最高血圧が20を割ったこともあった。ICUの病室がざわめき、担当医が「1.2ℓの輸血。急げ！もう1回輸血！」と看護師に大声で指示していた。その記憶は他人事のように残っている。

この稿は私の現況を報らせるものでない。私の言いたいことは薬剤師として生きたこの50余年に蓄積した強い想いである。

大正12年長崎医学専門学校は医学科が長崎医科大に昇格した。その際に薬学科は大学附属の薬学専門部になった。この時医薬は対等の関係ではなく、制度上「薬」は「医」に従属する地位に立つことになった。これは第一の失策であり、薬剤師の不明であった。

昭和32年国民健康保険が実施されて今日に到るが、その期には私の父彰一(長崎医専出身)が山口県薬会長であった。父は国民皆保険の施行に並行して医薬分業を果たさないと開局薬剤師の将来がないとして、会組織の内外に医療の深化に就ての理解を働きかけると同時に、当時の山口県選出の代議士を同伴して厚生省に度々陳情を重ねていた。しかし山は動かなかった。広い座敷に一人ボンと正座して肩を落としていた父の姿が忘れられないでいる。

以後、開局薬剤師の経済的社会的陥没が始まり、加速した。車社会が、街の一等地を専有していた薬局を直撃し、薬局の衰退に油を注いだ。一等地には駐車場の余地がなかった。結局医薬の格差是正に失敗し、二度目のチャンスを潰すことになったのである。

時代の流れは政治的見識と組織力によって方向づけら

れることが多いということを経験者は骨身に浸みて覚えておくことが大切である。

私は薬剤師の初任給(基本給)が医師より低い点、薬剤師が山口県では薬務課長止まりで、部次長に昇任していない理由を当時副知事の松永常一先生に正し、無理を承知で当時の薬務課長(長崎大出身)を次長格に昇格させた。だが昇任はその一回限りで終わった。学歴4年で国家試験が受験できるものと、6年のものとは当然の格差として受けとめざるを得ない現実があった。

私は41歳から50歳までの10年間、日薬代議員を務めたが、代表質問に立つ度に大学6年制の必要性を説いた。その度に多くの失笑をかった。当時の秋葉日薬副会長とはカリキュラムをどう組むか、教職に立つ人材の確保をどうするかという現実論で論議が空転し、彼を私の視点に近づけることが出来なかった。私は親しい関係にあった田中龍夫代議士が文部大臣のとき、「医療の近代化、即ち医師を頂点とするピラミッド方式を「面」の体系に変革して医療現場に適応しなくてはならぬ時代がもう来ている。その為の解決策として、制度上薬学部を6年制への切替えが変革の原点になる。」と説得した。私立大学協会は激しく絶対反対の声を揚げた。しかし当時厚生省が、大学卒後2年間の実習後に薬剤師国家試験受験へ切替えることを内々に了承すると理解を示していた事は、有難かった。

その後、日薬は他の多くの支援を得ながら、施行錯誤の末に種々の手を尽くして遂に現在の6年制を実現したが、私が主張し始めてもう約30年の歳月が経った。

その道程は大変厳しかったものである。実現の為に働いた多くの人々の志と、それぞれが頭に描いた医療のあるべき姿をしっかりと受止めて欲しいと願っている。

日薬の理事だった頃、現在のサプリメントは当時自然食品と分けの解からん名前で呼称されていたが、その材型が医薬品とまぎらわしいことを指摘し、何等かの規制を加えるべく早急に行動しないと将来に悔恨を残す事になると主張したが、日薬も厚生省も動かなかった。

私は現在、TV通販のコマーシャルでヒアルロン酸、コラーゲンだのグルコサミン、セサミン、DHC、オルニチン等々日本人の弱いカタカナの洪水を横目で観なが

ら、苦々しく爪を噛んでいる。誠に残念である。一般の方々が医薬品とは何か、今では混乱して理解の出来る筈もあるまい。

現在の医薬分業は当時の大蔵省が医療費の高騰を抑える為の方便として断行したもので、経済分業であり厚生省主導の技術分業ではなかった。だから末端で多くの屈辱的な混乱を生んだ。分業を技術分業に実質的に高度化することは今後の薬剤師に荷せられた重要な課題になる。

薬種商制度の撤廃、配置売薬制度の廃止等、私は医薬品業界の近代化の道を説いたが、各業界からの強力な圧力を個人的に受けただけで日薬理事として何等の成果も得られなかった。

言いたい事は山程有るが、紙数の関係でそれが出来ない。私としては主として学校薬剤師としての私の50年の歩みを述べたかったのである。私は50年間県の会長、名誉会長、顧問、日学薬では40年間副会長から顧問に至るまで務め、その間の多くのつまずきと思い出がある。それは又の機会に譲りたい。学薬活動は私の生涯を賭けた大仕事だった。だから紙数が最初から足りない。

しかしこれだけは今言わねばならん。今年の3月11日東日本大震災に対応して、学校環境衛生を担当して来た学薬が、素早く放射能の測定に取り組み、科学的に児童生徒の安全を確保する中枢になる等、そうした活動を唯傍観した怠慢は許し難い。各都道府県の学薬組織に協力を依頼し、日学薬の名に於て技術的支援に立つのは当然

の債務であった。日学薬の見識と指導力は何処に消えたのか。今のままでは日学薬の存在意義が無いに等しいとだけは言っておきたい。

薬学部は薬剤師養成所ではない。又そうであってはならぬのである。薬学教育こそが薬剤師と医師の対場を対等にする根幹になる。大学と卒後の薬剤師との連携をどう構築するか、大変重要な課題である。この度は唯その点を指摘するに留めるより仕方がない。

晩夏の読売俳壇に、「もっと鳴け命十日の蟬しぐれ」という山口市の方の句があった。選者の評は、誰もが蟬の命の短さを知っているから、この句が心に響くのであろうといった風な評であった。私は違うと感じた。この句は命の尽きるまで精一杯に鳴き続ける蟬の尻打つ、自分自身への応援歌であると想った。私の余命は後いくばくもなからう。残念なことは、手術台には慣れたが、痛みは常にフレッシュで馴れる事が出来ないことである。私は近年、一日一生を生きている。過去は思うだに重たい。明日が今日の延長線上にあって欲しくはない。今日一日の命として痛みを耐え、痛いと思えば老妻が悲しむ、つとめて笑顔で歯を磨き、犬と遊び、紅茶を「旨いなあ」と愉しんでいる。平凡に生きることは仲々に難しい、と思い知った。

終わりに当たり、多くの先輩や仲間そして今は亡い恩人友人達に感謝し、薬学に生きる全ての人に幸あれと祈ります。学生時代の劣等生が言うのも誠におこがましい限りであるが――。

三葉会 ～車海老料理と流鏝馬神事を楽しむ～

田崎 三郎（昭34）

平成4年から毎年実施している同期会も今年で連続20年目を迎えた平成23年4月9日、新山口駅に男性9名、女性12名が笑顔をつたえながら集合した。

車海老料理で有名な山口市秋穂の「あいお荘」差し回しのバスで宿へ直行。宿へ到着して間もなく、玄関の「歓迎：長崎大学薬学部・三葉会様」を見られた偶々来合わせておられた48年卒の森重氏との嬉しい出会いがあった。

東日本大震災の一月後のことで、同期会開催の可否に悩み、自粛よりも景気の活性化も大切と判断し、予定どおりの実施に踏切った経緯もあり、宴会開始に当たって、まず、被災し亡くなられた方々への黙祷を行った。名物の車海老のフルコースに舌鼓をうちながら一人ひとり近況報告を行った。丁度、後期高齢者になるか、なった年代だけに男性全員が実働として仕事をしている人はなく、女性5～6人が調剤業務を行っていて日程を都合しての参加である。コレステロールや血圧が高くなり、これまで薬を渡していたのに渡されるようになった

人々、健康管理・ボケ防止のためウォーキング、スイミング、グランドゴルフ、ジャズダンス、テニス、庭の草取り、奥方の買物助手、図書館通い、数独解き、ロジック解き、囲碁などのほか、自主的に断酒した人も居た。なかにはスイミングを頑張り過ぎてかえって足を痛めてしまった人、関東在住で地震が多発するため夫婦でお菓子を食べながらテレビニュースばかり見ていたため太ってしまった人、前立腺癌が見つかり治療中の人、韓国ドラマにはまっている人もあれば、前の同期会で活を入れられパソコンが出来るようになった人、長崎奉行所時代の古文書を翻刻し、出版準備のためパソコンにとらめっこしている人、老人ホームへ出向いて懐メロを聴かせるボランティアを行っている人なども居た。年金は貰っているが小食になり買物もしなくなりお金の使わなくなった人へは女性群から「お金頂戴！」の声が掛かる。金婚式を迎える人や金婚式でドレスを着てジャズダンスを踊りまくった元気な人も居た。

宴の途中、広く開かれた窓の向こうで夕日が瀬戸の海

を赤く染めながら沈んでいくのを皆で見惚れた。カラオケを少し楽しんだ後、部屋を替えて二次会へと進んだ。来年の三葉会開催地は長崎で幹事は松尾（峰松）昌代さんにお世話して頂くことに決まり、明日の出発が早いので例年になく早々の就寝となった。

明けて10日は快晴、流鏝馬神事見物には絶好の日和である。チャーターしたバスで山口市から島根県津和野町へ直行。幔幕が張り巡らされた鷲原八幡宮は沢山の桜も満開で大勢の見物客やプロ・アマカメラマンも好場所に脚立、三脚をセットしており神事の雰囲気十分である。まず、射手、的奉行、的持ち、矢拾いなどの面々約40名ほどが勢揃いし、本殿で奉納と安全祈願式が行われた。射手は綾藺笠（あやいがさ）を冠り、直垂（ひたたれ）を着、腰には鹿革の行膝（むかばき）を着け、刀を差し、弓を持ち、鏝矢（かぶらや）を差した簾（えびら）を背負った古式豊かな鎌倉時代の装束である。3つの的

を馬上から次々と射るが、全部当てるのは至難の技らしい。見物客の背・頭越して馬上の姿を見物できた。（流鏝馬は毎年4月第二日曜日、11時、14時に行われます。）

朱塗りの太鼓谷稲成神社を参拝し、次に町の中心部の殿町を散策。道沿いの掘割りには菖蒲にはまだ早かったが、大きな色とりどりの鯉が出迎えてくれた。昼食は「沙羅の木：松韻亭」で山菜つづりをいただく。

長崎・浦上のキリシタン153名が連れて来られ、改宗をせまられ36名が殉教した寺跡に建つ乙女峠のマリア聖堂や安野光雅美術館等へは時間の余裕が無く行けなかったため、心を残しながら津和野のシンボル朱塗りの大鳥居を後にした。

15時半、新山口駅へ到着。来年長崎での再会を期し、解散した。



平成 23 年 4 月 10 日 於 あいお荘

田崎 富安 北島 山下 熊沢 安永 松尾昌 小川 近藤 実崎 藤井 井上
白土 浦山 大塚 秋吉 片岡 上野 田中 松尾*

石飛君 安らかに眠りたまえ

大塚 保雄（昭35）

石飛君の訃報を35年卒クラス幹事の木下君よりお聞きしました。今だに信じられません。今、貴君とのお互い若かった学生時代を思い出しています。

我々が同級生として長崎で送った学生時代は、まだ戦後が残っていた時代でした。浦上の天主堂もまだ柵をしただけの廃墟のままだった。男子学生は皆高校時代の黒の学生服だし、石原慎太郎が『太陽の季節』で文壇デビューし、皇太子（現天皇）と美智子妃殿下の御成婚の頃だ。石飛君といえば身長こそあまり大きくは無かった

けれど、色あくまでも浅黒く、見るからに頑丈そうな体躯を思い出します。腕も太く頑健そのものという印象でした。遊んでばかりの私とは違って石飛君は真面目が洋服を着ている。おとなしい。という真逆のタイプでした。だからという訳ではないが大学時代、青春の悩みをお互い語り合ったとかいうような記憶は残念ながら全く無い。

唯一石飛君と共に汗を流し、青春時代の数ページを共有したのは準硬式野球だった。

当時 西脇氏(昭33), 市川氏(昭33), 角田氏(昭33), 中原氏(昭34)という薬学部では珍しく主力選手が揃った全盛時代の直後であり, 彼らが抜けた分苦しい時代だった。『柏葉健児』(薬学部野球部同窓会会報)の8号に当時のメンバーと九葉連で熊本に行った時の写真がある。まさに希望に燃えた若き群像の勇姿である。

- (三) 大塚
- (二) 白松
- (遊) 西田
- (左) 石飛
- (投) 吉田
- (右) 北島
- (中) 中尾
- (一) 藤島
- (捕) 高木

石飛君は華やかさは無いが堅実な守備と持ち前の長打力で, 4番を打っていた。薬学部歴代, 第何代目かの4番打者だった。

卒業後は中外製薬-福岡県職員/薬務課勤務をされていた。私は北九州市立病院に勤務していた関係で『麻薬の廃棄』か何かで県庁で偶然お会いした記憶がある。

日曜日に私が小倉・日明の阪急フェリー岸壁で投げ釣りをしている時に, 散歩中だという石飛君が声をかけてきた事があった。行橋保健所?に務めている。と言った。

石飛君とは同窓会北九州支部の会合等で度々お会いしていた。

平成20年10月下村先生のノーベル賞受賞という快挙を記念して北九州支部の同窓会が開かれた。ノーベル賞効果は大きかった。久しぶりに若い方々も多数参加されて大変盛会だった。松本康裕先生(昭24・福岡)より自分も出席するから出て来ないかと誘われ, 隣県山口県・萩より参加した。

式次第には 閉会の挨拶 35年卒 石飛昭汎と記され

ていた。

顔見知りの当番幹事がやって来て『石飛さんは所用で欠席されましたので突然ですが, 代わりに閉会の挨拶をお願いします』と言った。同じ35年卒の私に声がかかったのだ。

もしかしたら, あの同窓会の時にはもう石飛君, 具合が悪かったのではないかと, 同期の中村君と今にして思ったことだった。それでなくては, あの律儀で几帳面な石飛君が欠席するなんて事は……。定年後を悠々自適・あの体躯通りの骨太な生活を過ごしているとばかり思いこんでいたのに。

ご冥福を心よりお祈りします。

『さらば我らの4番バッター石飛君』安らかに眠りたまえ。合掌。



前列右から2人目のメガネが石飛君(昭和34年九葉連)

50周年「36ばってん会」

高木マスミ(昭36)

長崎伝統のお祭「長崎くんち」のまえの日10月7日から1泊2日で21名の出席のもと, 50周年「36ばってん会」のクラス会を行いました。早いもので卒後50年!!なんという事でしょう。半世紀たってしまったのです。

昨年の大分のクラス会で来年は50年, 節目の年だから是非長崎だという希望が多数ありました。それにおくんちを見物したいので, おくんちに合せての開催をしてもらいたいという事でした。おくんちは丁度前期の試験中で, 見物にもいかず皆勉学にとりくんでいる時だったのです。真面目な人ばかりだったのですね。それに昭和町界隈(薬学部は昭和町にありました)ではおくんちの華やかで賑やかな雰囲気を楽しむ事もなく4年間を過ごしました。

長崎在住のもので引き受けたのはいいのですが, 果たして見物できるか, ホテルが確保できるか頭を悩ます事

が次々でした。早々に武田さんが手配を始め, どうにか最終的に中日の公会堂前広場でのチケットを市外の人に分確保することができました。今年は7年振りにココデショが奉納されるという事で人気が高く, チケット確保に皆さん一所懸命で入手がなかなか難しかったのです。一時は庭先廻りで勘弁してもらおうかという話も出ましたが, 武田さんの頑張りで面目躍如「おくんち見物付クラス会」の開催にたどりつく事ができました。

10月7日17時, 長崎駅ホテル送迎バス乗り場集合。そこから皆50年前の学生時代にタイムスリップです。お互いのクラス会出席の時期がずれたりして50年振りに会うという人もいて賑やかな事です。

稲佐山中腹のホテル清風に宿泊。18時30分より宴会が始まりました。長崎のゴルフ担当だった吉川さんから怪我で入院のため出席できず残念の旨の手紙を頂き, 武田

さんが代読し、この年齢になると一寸した事が大事になるので注意が必要と皆で納得。皆さん仕事には区切りをつけ英会話、コーラス、運動と色々な事に挑戦されています。まだまだ若いのです。二次会は部屋に戻りチケットの配布、場所の確認、その他ワイワイ、明日朝早いのでと23時解散。

10月8日は6時50分、7時30分と、次々に公会堂にむけて出発。お天気も良く皆さんくちを堪能された様です。終了後ホテルニュー長崎「桃林」に12時30分集合、昼食となりましたが、ここでも次々に話は尽きません。

いつの頃からか「36ばってん会」は毎年開催となっています。もうまもなく後期高齢者となる身にとっては動けるうちに会って話をしておきたいという所でしょうか。来年は奈良あたりを散策するのはどうだろうかという話ができました。奈良在住の人はいないのですが関西の人で計画して下さいという事で楽しみです。

15時にホテルニュー長崎のロビーで解散。それぞれにJR、飛行機、バスと帰途につきました。あっという間の2日間でした。来年また沢山の人と会うのを楽しみに！！



平成23年10月7日 於 ホテル清風

卒業50周年と“おくんち”

味田 和子 (昭36)

今年、私達同級生は卒業50周年を迎えた。その祝いの集まりを長崎で行うことになり、10月7日稲佐山の中腹にあるホテルに21名が集まった。よく晴れた日でホテルの窓から見下ろす長崎港の眺めは素晴らしかった。数年ぶり、又、卒業以来という友に会ったが、瞬時にして昨日まで会っていたかのような錯覚を覚えた。4年間共に過ごしたという事が、かくも和やかで信頼し合う関係を作ることが出来るのかと、いつもながら不思議に思う。宴会場では幹事さんから諸々の報告があった後、全員が次々に近況を報告し合った。初めは出席を予定していた級友数名が、諸事情で欠席されたのは大変残念であった。全員の、そしてなぜか女性だけの記念撮影の後、卒業後50年の記念の会は幸せな雰囲気を残して終わった。

さて翌日8日は“おくんち”見物である。長崎在住の

同級生の方々、わけても武田成子さんの並々ならぬご努力で座席が確保され、素晴らしい経験をすることが出来た。在学中、“おくんち”の3日間はいつも前期試験の真っ最中だったので、一度も見ることが出来なかった。それだけに期待は大きかった。私達は公会堂前広場の会場で2600席余りの座席の3カ所に別れて見物した。

“おくんち”の踊り町は7か町あった。全部で49か町あるので7年に1度の出番になる。最初の踊り町が入場して来る前に観客全員がかけ声の練習をした。「もってこーい」「よいやー」「しょもーやれ」「ふとーまわれ」など独特の言葉だ。解説の方の説明によると“おくんち”は1634年に京都から来たお祭りだそう。例えばシャギリの音色は京都祇園祭のお囃子コンチキチンにそっくりだ。

いよいよ踊り町の出番が来た。まず初めに本古川町の傘鉦が入場して来た。100kg近くの傘鉦を1人の担ぎ手が担ぎ、しかもぐるぐる回る。優雅な中にも躍動感あふれるパフォーマンスである。傘鉦の演技が終わると皆一斉に「もってこーい、もってこーい」と叫ぶ。退場しかけた傘鉦は又戻って来て同じようなパフォーマンスを繰り返す。その度に「よいやー」のかけ声が湧き上がり、会場が盛り上がっていく。傘鉦が退場すると踊り町の人達が「撒きもの」を観客席に投げ入れ始めた。町紋を染めた手ぬぐいらしかったが、私の所には全然飛んで来なかった。次に同じ町の「御座船」が入場して来た。「御座船」は長崎港警備のため、大名が乗る船をイメージした和船で、たくさんのお囃子の子供達が乗り、船の柱には御用提灯のようなものが取り付けられてあった。重さは3トン近くあるとのこと、これを20名近くの若者（根曳衆という）が大きな掛声を出しながら、前に後ろに突進し、お囃子に乗ってあの重たい船を豪快にぐるぐる回す。根曳衆は全員丸坊主で迫力満点であった。これも「もってこーい」のかけ声で何度も演技を繰り返した。勿論大きな「よいやー」の掛声も何度も起こった。

他の踊り町も町のシンボルを飾った傘鉦や独自の演技を見せてくれた。一番心に残ったのは、やはり樺島町の“コッコデショ”（太鼓山）だ。同町の赤、青のお面を飾った傘鉦が退場した後、ダンジリ（お囃子を乗せる台のこと）の上にお囃子が乗り、その上に5色の大きな座布団を重ねた物が乗った「みこし」（太鼓台）が入場して来た。重さは1トン近くもあり、「みこし」を支える丸太を40人の若者が担ぐ。担ぎ手は大勢の応募者の中から、年齢、身長、体力テストに合格した40人が選ばれるとのこと。“コッコデショ”とは“ここでしょう”という意味だとか。それにしても何が“ここ”なのか、よく分からない。この太鼓山の形式は寛政9年（1798年）に堺のダンジリを模して作られたそうで、あの時代の各地

の交流の様子が分かり面白い。担ぎ手の若者達は大声で“コッコデショ”と掛声を掛ながら2度「みこし」を持ち上げ、最後に空高く投げ上げる。そして落ちて来た「みこし」を全員片手で受け止める。その勇壮なこと！思わず涙が込み上げて来そうになる。船といい、ダンジリといい、海に面した長崎のお祭りは多彩で、京都の祭りとは違い、力強く、男らしい。そして観客を興奮の渦に巻き込む。初めて正式に“おくんち”を見る機会を与えて下さった幹事の皆様に感謝の気持ちで一杯である。



(撮影：黒田 誠氏)

昭和 37 年卒同期会（沖縄）報告

渡久地泰明（昭37）

昨年大津の同期会で、次回は沖縄県で開催すると決定。九州沖縄在住の4名の幹事（喜納、福島、吉田、渡久地）で行う。九州在住の3名で平成23年11月9日から11日までの2泊3日で、沖縄本島旅行と決めました。

出席者は女性4名、男性12名の計16名で、はるばる沖縄まで来ていただきました。

女性：有村、喜納、寺尾、中山

男性：香田、高井、築貫、平、渡久地、中西、野内、野村、馬場、福島、林、吉田、会員は41名。

卒後49年になりました。私達が入学した年は昭和33年でしたが、その時、沖縄は準外国でした。パスポートと

いう身分証明書を持参して、長崎にも行かねばなりませんでした。50年前から見ると平和になりました。皆様と一緒に行動できること、大変嬉しく思います。

さて、本土では真夏も過ぎて良い季節となるのですが、沖縄ではまだ暑い日が続く11月です。それに長期予報では天候が悪い予報で、この日（第1日目）朝から大雨でした。各地の空港から那覇空港へ到着後、パシフィックホテル沖縄へ直行していただき、南部観光へと出発。途中大雨により冠水した道をバスが水しぶきをあげて、「ひめゆりの塔」へ向かいました。目的地に到着すると、大雨が嘘のように上がり、旅行が終わるまで良

い天気になり、晴れ男がいるのだと語り合いました。「ひめゆりの塔」「平和祈念公園」など、戦跡をまわり悲惨な戦争を思い出し、涙した方もおられたと思います。

夕食は琉球料理と琉球舞踊の店「四つ竹」へ。夕食の前に平成23年5月に同期生の加藤祥子様が長い療養生活をされて、亡くなられたと岩永直子さんより連絡があったことを報告し、皆さんでご冥福を祈り、黙祷を捧げました。

その後、一番遠方の埼玉よりお越しの中西洋吾さんの乾杯の音頭で宴会が始まりました。沖縄のオリオンビール、泡盛で琉球料理と舞踊を鑑賞しながら楽しみました。奈良の林氏と高井氏から最高級の高酒をいただき、感謝、感激でした。3時間は瞬く間に過ぎてホテルへ。二次会は、希望者5名で軽く切り上げました。

第2日目は中部・北部観光へ。7時からバイキングで朝食を済ませ、8時に予定通り出発。琉球バスのガイドさんの案内で、国道58号線（日本復帰前は軍用道路1号線）を北へ。戦争や軍基地の説明を聞きながら、嘉手納飛行場を一望できる展望台へ。戦闘機の発信の轟音を聞きながら見学。音の大きさに驚き、本土との格差を改め

て感じました。

国道58号線を西海岸沿いを走り、東シナ海を沖縄独特の海の色、サンゴ礁に打ち寄せる波を見ながら、日本ハムのキャンプ地、名護市へ。そして最近まで孤島であった古宇利島に1.6kmの橋が架かり、そこからエメラルド色の海が見える。海ぶどうや海ごうや等の土産物などを試食し、世界遺産の一つ「今帰仁城跡」を横に見て、海洋博公園のちゅら海水族館へ。大きなジンベエザメ等へのエサやりを見て帰途につく。夕食会場の東海岸（太平洋側）泡瀬海岸へ。米国風レストラン「サムズバイザシー泡瀬」でステーキと伊勢エビのクリーム焼きをワインやカクテルを飲みながら夕食。東海岸を高速道で那覇市へ。

第3日目は市内観光。飛行機便の関係で、首里城見学後、有村さん、馬場氏が空港へ。喜納さんをお願いして送ってもらう。残った皆さんは、国際通り、公設市場と見学。昼食を済ませ、陶器街董屋を見学した後バスで空港へ。3日間の同期会を那覇空港で解散。来年50周年記念同期会を長崎でと再開を約束しました。来年またお会いしましょう。



同期会開催中止の経緯報告

大田 富夫(昭40)

4年ごとに開催される昭和40年卒同期会は前回は2008年5月10日～11日に山口県大島で山口君が幹事で開催された。その時は山口君の奥様（よくお似合いの赤い洋服をお召しになり）もお手伝い頂き野原（？）で摘んできたという野イチゴを頂き私は美味しく大変感激したものでした。しかし次回開催幹事をいきなり指名され面倒な憂鬱な気分になって帰って来たのを思い出す。

今回は4年後の2011年ということで、忘れてしまいそうので5年間プライベートダイアリーに同期会準備と記載した。それから私の苦悩が始まった。先ず開催場所をどこにするかの場所さがしが始まった。私の近辺で一番近いのは埼玉県川越市であり、平成21年3月からのNHK朝の連続ドラマ『つばさ』で多部未華子主演の舞台となった蔵造りの町並みが残る小江戸といわれている街で、私が毎年家族と初詣にでかける喜多院は徳川家康から3代の将軍につかえた天海和尚が住職であった。また少し遠いが秩父市は四季に様々な花が咲き川下りなど自然にめぐまれた場所であり、明治時代の農民の蜂起などの秩父事件で有名である。私が現役時代に通勤していて、最近コロドが建築され街が新しく改造されつつある日本の中心である日本橋などを考えた。しかし都内は宿泊費が高く混雑している。以上の候補地は全国の同期生に参加を呼びかけるにはインパクトと面白みの不足から没とした。そこで悩んだ末、最近仏像を鑑賞するブームもあり全国的に著名で世界遺産登録を推進している多くのお寺がある古都鎌倉に決めた。（2011年9月22日日本政府は世界遺産への推薦を決定した）

関東には多くの在住同期生がいるので意見も聞きたいと考えていた時期に、都合よく行本さんから東京開催の同窓会の件で電話があり、同期会のことを相談し協力してくれることとなった。それからメールでやりとりしながら、開催は2011年5月～6月に鎌倉で開催するということで具体的な準備に入った。

開催1年前の2010年6月6日に第1回の幹事打ち合わせ会を開き、行本、中村、田口さんの3人の美女（往年？）と私とで鎌倉江の島に実地調査に出かけた。皆と会うと学生時代に返ったようで遠慮なく話ができて、話をしているうちに誰もが学生時代と性格も話し方も変わっていないことに気がついた。社会にもまれても学生時代と変わっていないということは『自分を曲げなくても生きてこれたのだな～』となんとなく納得した？宿泊予定の恵比寿屋旅館の部屋と風呂を見学してここで良いと意見が一致した。時期は混雑するあじさいの咲く時期は避けて5月21～22日と決めた。昼食に名物の生しらすを食べようとしたが今年はまだとれないとのことで残念な思いを残して帰って来た。

早速、同期会案内状案を作成しメールにて行本、中村さんと打ち合わせして同期生39名に案内状を往復はがきで6月に送付した。同期生から返信はがきが届いたが私の不手際で各人の住所氏名の記載欄がなかったために誰からの返信かわからず困ってしまった。（返信者も自分の住所氏名は書いて出すのが常識だろうに年齢のせいではがきがきたのだろうか？）そこで犯人さがしのように投函場所から行本さんの『名探偵コナン』ばり（？）の推理で、誰であるかを特定できたが、再度往復はがきを出すことになった。

2010年10月14日に2回目の往復はがきを出した。結局同期会の出席希望者は24名で、翌日の鎌倉観光には22名もの参加希望があった。多くの方からの参加に幹事は喜んだ。

2011年1月30日2回目の幹事打ち合わせ会を喜劇よしもと劇場がある新宿南口のルミネで開催した。行本、中村、川越さんの美女（往年？）が集まった。（川越さんは息子さんと同居し東京に在住とのこと）。打ち合わせ議題は同期会当日の役割分担と宴会翌日の観光コースだった。観光は1日を使ってゆっくり古都鎌倉を堪能する予定であったが参加者22名の全国への帰路を考えると昼までに観光は終了した方が良く判断した。移動は江ノ電をと思っていたが20名以上の移動には荷物もあり時間がかかると中村さんから指摘され、観光バスにすることになった。できるだけ手抜きが好きな私にはまたまた面倒で深みに埋まっていくようであったが、女性陣の『なでしこジャパン』のごとき押し、積極さにおされて了解した。

打ち合わせ翌日に2011年1月30日に徳田（旧姓岩本）さんが永眠されたとの訃報が届いた（合掌）。学生時代の彼女はおとなしい控えめな人だったことを思い出す。何かの話をした時にとんちんかん返事が返ってきて『え～』となってみかけによらずおもしろい人だなと思った記憶がある。川越の高校に勤めていると名簿に記載されていて、近所なのに卒業以来一度もお会いしていない。もう少し親しく話してみたかった。同級生が亡くなるのはなんと寂しいことか。

2011年2月観光バスの交渉を行い、会費が不足することに気づき、そのお知らせに3回目の往復はがきを同封して旅館と古都鎌倉のしおりを参加者に送付した。なんと面倒なことか。これで私の役目は終わりあとは開催日を待つのみと思いきや安堵した。

2011年3月11日東日本大震災発生 関係者の皆様にはお見舞い申し上げます。私は勤め先の薬局にいたが、薬局はそれほどダメージはなく棚から薬箱が落ちた程度であった。17時半勤務後バスに乗り西武新宿線の駅に着

くと電車は運転停止で初めて大変なことになったと気付いた。たまたま私の奥さんも同じ駅に居たので一緒に夕食をした。風の強さと寒さを買ったホッカイロで避けながらニュースで皆さん知っているような帰宅難民者となり大変な思いをして通常25分くらいの帰路を6時間くらいかけ夜半に自宅に到着した。

私の住んでいる埼玉県も計画停電で電車は止まったままで1週間通勤できず仕事は休んだ。2ヶ月後に予定されている同期会のことも気になったが、2ヶ月後の5月始め出産予定の長女と4番目の孫のために水を買いに走った。薬学を学んだ者には原発の事故により放射能漏れはいずれ様々な影響がでることは歴然としており心配が先だった。現在、無事に男子を出産し元気に育てている。水は大丈夫といわれているが現在も買っている。変わりない日常がいかに大切であるかを経験した。

大震災後しばらくはテレビを見るたびに茫然としていたが、そのうち中村さんから開催をどうするかとメールがきたので行本さんとも相談した。同期生の中には地震発生地近辺に関係者が住んでいるとの情報もあり、原発が今後どうなるかもはっきりしない状況では中止したほうが良いとの判断に至った。その際今後の開催については同期会代表の江藤君に一任することとなった。70歳に近づいた今年はぜひ開催したかったが残念だ。

できるだけ早くとは思ったが、準備のできた4月1日ではエイプリルフールと間違われそうなので2011年4月

4日に出席予定者に中止のお知らせをした。

松田君からは『残念だ』との丁寧なお電話を頂きなつかしい話ができた。また清水さん、松村さんからも『残念だけどいたしかたない。幹事さんご労様です』とのお葉書を頂き感激した。今この原稿を書いている時に、我が一族では泊まりがけで震災後生まれた孫も連れて鎌倉に行こうとの計画が進行している。私の同期会が中止されたからなのかな？

同期生の皆さん次回同期会まで健康に気をつけ元気にお会いしましょう。

平成23年10月4日記



2010年6月6日 於 江の島

震災から今日まで

谷 覺 (昭42)

3月11日、埼玉のほぼ中央に位置する坂戸市でも今までにない強い揺れを感じ、私は事務棟から戻る途中で階段を上っていた時で、手すりにつかまりながら降り、自動ドアが途中で止まっていたのを無理やり広げ、そのまま広場に避難しました。軽装だったので寒かったが、何か酷いことが起こったことは想像されました。大学4階の居室の書棚の上に積み上げていたアルバム等が落下し、部屋中散乱していました。以後の状況は、ご存知の通り死者が2万人を越す大震災でした。

私は長崎生まれで、原爆投下の時は島原に疎開していた。しかし、兄(昭30 近藤嘉和)と父は、長崎で被爆した。父は対岸で働いていたので、直接閃光を浴びてはいないが、兄は建物の中にいて、爆風によるガラス片等で怪我をして一時意識を失っていたようだ。3日後、父に連れられて血だらけで疎開先の島原まで来た。長崎についてだけ言えば、原爆で昭和20年中、約70,000人が負傷し、約74,000人が亡くなり、その内約35,000人が即死だった。亡き母の手記を読み返してみても、いつ長崎に戻ったのか書いてない。私は終戦時1歳だから覚えてい

ないが、父は直ぐ造船所に戻り、姉は長崎の高校に入学した。実家は焼失したが、爆心地に近い銭座(ぜんざ)町に簡易住宅(仮設住宅?)を得て疎開先から長崎に戻った。一体全体、残留放射能はどうだったのだろう。2、3年後簡易住宅を出て、移り住んだのが活水女子高の爆心地からは反対側だ。ここでは、長らく井戸水を使っていた。地下水への放射能汚染はどうだったのだろう。姉は停年直前に肺癌になって手術した。兄は被爆数年後も皮膚からガラス片が出たりしたが、3年前肺癌で亡くなった。二人ともタバコは吸わない。数十年後の発症には因果関係を問うべくもない。私は、我が子が五体満足で生まれてくるまで、密かに心配だった。

長崎の原爆と、福島原発事故を単純に比較することはできないが、セシウム放出量で比較すると、広島原爆の168個分、ウラン比較で20個分という。しかし、長崎と同様、プルトニウムの問題がある。閃光や爆風がない放射性物質の放出には、「沈黙の春」や「奪われし未来」を読んだ後のような不気味さが残る。

さて、現在私は、講義担当の教員としていまだに働い

ています。今年は念願だった魔女博物館に行ってみよう
と夏休みを利用して一人ぶらりとイギリス南西地方を旅
行しました。プリマス（メイフラワー号が移民を乗せて
出航した町）からバスを乗り継いでボスカースルという
町に行き、そこにある「魔女博物館」を見学しました。
昔の薬草魔女の生活や、呪いの道具、いろいろに細工し
たマンドレイクなど、雑多なものが並べられ博物館と言
うより魔女の雑貨屋と言う感じでした。実際に使われた
「薬」のレシピがあるかどうか聞くと、無いとういこ
とでしたが、近くの本屋を紹介してくれ、そこで、
“The Green Wiccan Herbal” という本を買いました。
これからゆっくり読みたいと思っています。またアガ
サ・クリスティーの生地のトーキーにある博物館にも行
きました。実は、彼女の小説を読んでいて、毒物であま
りにあっけなく死ぬので、少し疑問を持っていた訳で

す。小説ではあっけなく死なないとストーリーが成り立
ちませんが、実際に検証するとその様にならないと思わ
れる場面がしばしば出てきます。フィクションだと言え
ばそれまでですが、キチンと検証する必要があるように
思います。彼女は戦時下の急ごしらえの看護師見習い兼
薬剤師です。仕事の中で様々な小説のアイデアが生まれ
たのでしょうか。自伝では、アガサ・クリスティーに調剤
を指導した薬剤師は、計算間違いをし、ポケットの中に
クラレの根を忍ばせ、彼女にちょっと色目を使う変な
人です。コーンウォールの西の端にあるセントマイケル
ズマウント（フランス語モンサンミッシェル）という島
には干潟を歩いて渡り、バスからはストーンヘンジや
ストーンサークル、山腹にある「白い馬」等も見に行
き、今回の旅はちょっとした魔界紀行でした。

昭和 43 年卒同窓会

井上 志郎（昭43）

平成23年6月4日、長薬同窓会総会、ぐびろ会総会の
日程に合わせてクラス会を久しぶりに行いました。会場
は総会と同じ全日空ホテルグラバーヒルに集合しまし
た。私たちも全員が65歳を超え、世の中で言う「高齢
者」もしくは「老人」の領域に入っております。卒業生
48名中、死亡3名、音信不通4名ですが、今回も体調不
良や仕事で手が離せなかったりで13名の出席でした。た

だ、関西以西からの出席がほとんどで、関東地域からの
出席がなく、もっとも遠方からの出席は静岡県の原さん
でした。東京からは長崎はだんだん遠くなっているのか
なと感じます。

久しぶりの再会で、一人ずつ近況の報告をいただきま
した。子供のいる人は、子供たちはどこで何をしている
とか、孫が何人とか。独身の人は、「婚活」頑張ってる



平成 23 年 6 月 4 日 於 全日空ホテルグラバーヒル

とか、（そんな人はいませんでしたが）ゴルフ、山登り、カメラ、サッカーチーム（セレッソ大阪）の応援……。沖縄より参加の平良氏は琉球大退官後、豚の改良に取り組んでおり、良質の豚肉産地としての沖縄をめざしているようです。そのうち同窓生には沖縄産の豚肉が届くかもしれません。あとは、血圧が、血糖値が、尿酸値が、腰が、足が、などお決まりの「高齢者」の話題がひとしきり。話しは尽きませんがホテルの方より、時間が……。とのこと。残りの話は翌日の昼食を新地の江山楼で再度集合し、中華料理を食べながらまたひとしきり昔話に花が咲きました。

ホテルでのクラス会を始めようとしている時に、総会に出席いただいた下村先生（昭26）と古川先生（昭25）が私たちの部屋を覗いてくださったので、一緒に記念写

真に入って頂きました。

余談ですが、総会の始めの下村先生のご挨拶のなかで、大学を卒業する時に、「卒業後の仕事を捜そうと〇×製薬の試験を受けたがだめでした。でも製薬メーカーに行ったらノーベル賞に結びついた研究の成果は、多分なかったでしょう。」とのお話でした。〇×製薬を定年退職した私にとって少し複雑な心境でしたが、下村先生のおっしゃる通り短期間の成果を優先する企業では難しいことと良く理解できます。

いずれにしても、下村先生、古川先生にクラス会の記念写真に入っただけなこと、この写真は我が家の家宝とし、永久保存版とさせていただきます。その時の写真をそえて、クラス会の報告とします。

S.45 年卒同窓会 IN OKINAWA

永山恵美子（昭45）

前回大阪開催時（平成21年）にお約束した通り、沖縄での開催を今回実施しました。幹事は沖縄へ半移住の加嶋氏と県在住の永山が受け持ちました。

平成23年3月13日（日）那覇市のハーバービューホテルで開催することに決定したのですが、遠い南の島のこと参加人数に一抹の不安を覚えておりました。

結果は嬉しいかな19名から参加希望のハガキをいただきほっとしておりました。しかしそれもつかの間、3月11日の大天災地変、皆様の記憶に新しい「東北関東大震災」それに続く原発事故発生に至り、関東方面に在住の同窓生や、ご家族が関東方面におられる方々からのキャンセルが相次ぎました。すでに来沖されている方もあり、ここで延期や中止をすれば無用の混乱を招くと判断し、幹事二人で開催決行としました。

最終的には参加者は10名、田中（岡田）、西光（小川）、加嶋、芦田（妹尾）、永山（仲松）、中村、星見（中村）、飯田（縄田）、本多、手島（前田）さんでした。

司会進行は加嶋氏が行い、まず私の音頭でクラスの物故者並びに今回の大害で亡くなられた多くの方々の冥福を祈り黙とうをささげました。続いて次回長崎での開催（平成25年予定）を快く引き受けてくれた長薬同窓会副会長中村氏の乾杯の発生で開催の運びとなりました。

各々、琉球料理に舌づつみを打ちながらの歓談です。少し落ち着いたところで、各自の近況報告に移りましたが、何しろ周りが思い思いにチャチャを入れるものですから、3時間の1次会を30分超過しても7名の発表に止まり、仕方なくそのまま2次会になだれ込みました。

話は尽きず2次会でも30分を超過し、明日からの観光を控えている方もおられることから余韻を残しつつ閉会

となりました。そこで次回の長崎では1軒のホテルに全員が泊まり、好きなだけしゃべれるようにしようということになりました。

今回の同窓会に出席予定でありながら、大震災のため来られなかった皆様方、ギリギリまで調整に奔走していただいた方々に感謝いたします。以下にそのお名前を記載させていただきます。

有福（中野）、伊藤（尾上）、大滝（角井）、金田、小林（瀬川）、斉藤（三輪）、鈴木（久木山）、田中、山下（広瀬）さん。

最後になりましたが当日の参加者で、被災地の方々に義援金を「S45年卒長崎大学薬学部同窓会」として日本赤十字沖縄県支部に募金させていただいたことを報告いたします。



平成23年3月13日 於 ハーバービューホテル（那覇市）

47年卒業生リレー通信

松本 逸郎 (昭47)

47年卒の皆様、お元気でしょうか。同窓会近況便り『リレー通信』も今回で5回目となりました。小池正博さんのお便りでは『長薬同窓会近畿支部総会で宮本、松田、小林、森、山田、小池の6名の方が集り、小池を除いてみな退職して、それぞれ第二の人生を歩んでいる』

とありました。ここしばらくは、『定年後の人生』がキーワードでしょうか。原稿依頼は意中の1名の方から振られたので、今回も枯れ木も山の賑わいで私も急遽報告します。お楽しみ下さい。

まだまだ頑張っています：還暦すぎてもソフトボール

小池 正博 (昭47)

大学を卒業して早や37年になります。大学入学後のオリエンテーションの時、何も知らず入った全学サークルのバドミントン部。そのバドミントンの予想を超えるしんどさは直ぐにわかりましたが、それでも教養部の2年間、一生懸命汗を流しました。その当時は先日亡くなった新沼博江(旧姓湯木)さんの全盛時代でした。今でこそ、小椋・潮田(オグシオ)の美人コンビで、バドミントンは一躍有名となりましたが、その頃はとてもマイナーなスポーツでした。当時のラケットメーカーは、ヨネヤマ・ラケット(現在のヨネックス)です。バドミントンラケットだけを作る小さな会社でした。

専門課程に入ってからは薬剤学教室に所属し、勉強に、研究に、遊びに、それは熱心に取り組みました。その当時の薬学部はスポーツが盛んで、教員、職員、学生を問わず、卓球とソフトボールがとても盛んでした。卓球は、大学の渡り廊下や空いた講義室に卓球台が置いてあり、実験の合間を見つけては楽しんでいました。ソフトボールについては、教室対抗ソフトボール大会があって、当時の学部長小林五郎先生が寄贈した「五郎杯」を競い合いました。今でこそ、ソフトボールでのウインドミル投法は良く知られていますが、当時の職員で中本さん、大渡さんというウインドミル投法が出来る人がいて、私も見よう見まねでその投法が出来るようになりました。

就職で関西の製薬会社の中央研究所に入ったら、昼休みには研究所のいたるところでバドミントンを楽しむ人が大勢見受けられました。長崎と違い関西では、バドミントンは結構人気のスポーツとなっていました。早速クラブに入り、約10年間熱中しました。当時、我々の会社のクラブは大阪実業団の1部リーグに所属していましたが、大阪実業団には10部まであって、その1部ですから結構強いチームでした。全日本実業団大会にも何度か参加しました。毎週水曜日には、終業の5時半になるとラケットを抱えて研究所を飛び出し、3駅ほど離れた小学校の体育館へまっしぐらです。今にして思えば、本当

に楽しい気楽な時代でした。今では考えられませんが、当時は研究所に対し新薬開発の強制は殆どありませんでした。

このような研究とバドミントンの生活を続けて、10年ほどたった頃、新研究所が別の場所に新設され、私はその新研究所へ移動することになり、ついにバドミントンを続けることが出来なくなりました。何か体を動かすことがないかと探していた時、住んでいる団地にソフトボールクラブができ、早速、そのチームに入ることになりました。毎週日曜日の朝8時から早朝練習です。近所の小学校の校庭を借りて9時半まで練習、その後試合があります。チームには甲子園に出場した人、実業団チームで都市対抗野球に出場した人、名門大学野球部でバリバリやっていた人など様々な人がいます。さらには、私のように全くの素人もいます。職業も様々で、銀行員、自営業、営業マン、トラックの運転手などが一緒に汗を流します。こわい監督やコーチのしごきでヘトヘトになるまで鍛えられます。ソフトボールでは、ピッチャーが主役で、良いピッチャーがいるとそのチームは強くなります。もう、かれこれ30年続けたことになりましたが、初めの頃は、私のような素人ピッチャーでも十分通用していたのですが、年々レベルが上がって、この10年では変化球やチェンジアップなど多彩な投球が要求されるようになりました。というわけで、私の出番は段々なくなり、専ら外野手として出場することが多くなりました。50歳を過ぎた頃から、パワーも落ち、打球は外野を越すこともなくなりました。最近は専らバッティング・ピッチャーです。先日、若手のエースが不在だったので、代わりにピッチャーで先発出場しました。このようなことは時々あって、これまではそれなりに勝利にも貢献していたのですが、今度の相手は強すぎました。5ホームラン、13得点を献上。完全にノックアウトでした。それにしても、投げながらもういい加減に手を抜いたらと思っただけの容赦ない攻撃でした。まだまだ若いものには負けられないという自信があったのですが、木っ端微塵に碎

かれました。

さて、今年で62歳となります。現在、外資系製薬会社で新薬の開発（承認申請）の仕事をしていますが、そろそろ退職後のことも考えるようになりました。まだ使ったことのない薬剤師の免許を一度は使った仕事をしてみ

たいとも思っています。来年度から新6年制薬剤師が大勢でできます。果たしてどうなることでしょうか。「まだまだ若いものには負けない」という思いは棄てて、世の中の片隅で静かに生きる道もいいのかとも思っている今日この頃です。

天敵は我が師

松本 逸郎（昭47）

私は住居の周辺の農地でささやかな農園を楽しんでいる。技術的な指導はご近所の大先輩の古老（自身も年を取ったが、近所は殆ど古老）をお願いしている。その大先達の内には、周辺に居住する（？）というか、出没する獣たちも含まれる。しかし、彼らは先生でもあるが私の天敵でもある。

猪：正確にはイノブタ（猪豚）とイノシシの混血らしい。ややこしいがイノブタはイノシシとブタをかけあわせた生き物で、数十年前に品種改良で造り出されたものらしい。我が『天敵』どもは西彼半島で飼育されていたが、敵前逃亡を図り10年以上をかけて南下し、琴海町、時津、長与を経て長崎バイパスを横断して、長崎市の東の端（喜々津町のとなり）にある我が家に到達したらしい。用心深いこのイノブタ君にとっては野を越え、山を越えるのは屁のカップながら、道路を横断するのはヨットで太平洋を横断するくらい勇気のいることのようなのである。その間に本物の猪とも交雑しているはずなので、どこから来て、親が誰かは本人に聞かないと分からない。しかし、履歴書も持っていないければ、戸籍謄本も、住民票も持っていない。ときには手負い模様の奴も見かけるが、何せ保険証さえ持っていないので、金輪際近づかないようにしている。調べる奥の手は、DNA鑑定しかないが、そんなことする人は誰もいず、県や市も被害を受けないための情報しか提供しないので、我が猪君の出自は不明のままである。

ある日、件の農園でサツマイモの収穫を始めたが掘れども、掘れども切れっ端一つ出てこない。葉っぱは青々と盛り、他所のと比べてみても、なに1つ遜色ない。しかし、畝をよく見るとツラを挿したところだけが微妙に崩れている。穴がちょっと開いているだけ！次の年はジャガイモが全滅し、その次は里芋。残ったのは亡き母が栽培していたコンニャク芋だけである。これは食するまで少々手がかかる。『すり鉢ですりつぶし、石灰を混ぜ、熱湯で湯がき（この湯がき加減が出来具合の死命を制するらしい！）、味付けもしないとおいしくもない。その上すりつぶすとき皮膚につくと猛烈にかゆいので、かゆみ止めと手袋もいる。そんな面倒なことを猪之さんは、さらさらする気なし』と言うことか。而して、根菜類は別の場所に移転した。そこは清い水が湧き出して

る山の道路と川を横切った、人里近い場所である。それで、農作業することを我が家では『清水山クラブ』に行くと称している。その後も猪之さんと攻防は悪戦苦闘、紆余曲折を経て数年続いたが、大枚3万円！いやそれ以上をかけて電気柵を購入することで、家宅侵入をご遠慮願ひ、入口までの表敬訪問だけに止めて頂いている。それ以外の天敵は、鼠、貉（ムジナ）、土竜（モグラ）、鶇（ヒヨドリ）、鳩、猫（ツシマヤマネコの類でなく野良猫）などあまたいる。戦闘の詳細は体型と行動パターンが異なるので、作戦も異なり、それぞれに最近話題になった『奇跡のリンゴ』なみの血のにじむような苦労話がある。がそれは又の機会にスキップ！

鴉：10年近く前に梨の苗木を植えた。根元をイノさんに掘られたり、蟻（テッポウムシ）に穴を開けられたりしたあげくに、やっとう実を付けた。張り切って桃の袋を転用して白い袋をかけました。時には袋の上から優しくなでながら、『早く大きくなあーれ』と声をかけたりしておりました。ところがです。子供のこぶし大になった頃、突然白い袋が消えてしまったのです！立木の下に行ってみると落下した袋が散乱し、中は空っぽ。付近を精査すると数個だけ中身が残っている。見ると嘴でついた跡が残っているのです。未熟で不味かったのでしょうか。しかし、嘴あとに黄金虫がへばりついているのです。悔しかったので私もコガネムシになりました。ほんのりと甘酸っぱい芳醇な歯触りも微かにいたしました。呆然と佇んでいると、頭上でなにやら大騒ぎの気配。

『カー、カー』。カラス語を解さない私にも、『変な奴がいるゾ』『警戒せよ、警戒』と聞こえた。そのうち『アー、アー』とさらに一騒ぎしてみんな一緒にどこかへ行ってしまった。私には『阿呆ー、阿呆ー』と聞こえました。数年間はほったらかしにしていたのですが、家人が、多良見図書館から借りてきたと言って『鴉と上手につきあう方法』とか何とか言う本を見せてくれたのです。これでカラス語のことや、習性やら色々勉強したのでした。鴉語は中国語より数が少なくそんなには難しくはありません。俄然やる気を起こして今年は100個以上を目立たぬ梨専用の枯葉色の袋で包みました（目立つ白の桃袋が良くなかった、反省）。テグスも張りました。できることは色々致しました。しなかったのは立ち

入り禁止の張り紙だけです（かの本には『侵入禁止』の
カラス語による鳴き声は解説してありましたが、カラス
文字は記載して無かったからです）。しかし、結論から
言うと、今回も私は残り物の落ちた梨数個にありつき、
コガネムシになっただけでした。頭上で『クワッ、ク
ワッ』と騒ぐ奴らの鳴き声は、私には『わーい。わー

い。イッチャンのアホー』と聞こえてならなかった。そ
してイッチャンは一人静かに『あの本を借りたのは良く
なかった。今度は自前で買ってしっかり勉強し、来年こ
そりベンジ』と深く誓ったのでした。その続きは来年の
同窓会報でお知らせします。

昭和 48 年卒同期会に参加して

渡部クリ子（昭48）

平成23年10月29日(土)、福岡のホテルセンラーザ博多で
昭和48年卒同期会が開催され、東京から参加しました。全
員が還暦を迎えた年に開催しようと約束し、前回の山口開
催から5年ぶりでしたが、30名（男9名、女21名）の出席で
した。関東支部組や新潟、仙台、関西、中国、四国、地元九
州、沖縄からの参加で懐かしい顔ばかりでした。

早速記念撮影し、テーブルを囲んで銘々の近況報告を
しました。卒業以来の再会も多く、名前を確認しなければ
「うーん、誰だっけ？」と分からない場合もあり、当
然ながら歳をとったことを再確認しました。

特に3. 11で被災された仲子（林）さんが仙台から元

氣に参加されとことはとても嬉しいことでした。厳しい
状況をさらりと話され、その気丈さに一同、頷くばかり
でした。私を含め病院勤務者の3. 11後は薬剤の調達に
苦勞し、その中で被災地への職員派遣用薬剤の準備等、
定年の3月31日まで働き詰めでした。

調剤薬局で頑張っている人や、官庁を定年退職し、天
下り的な？職場でさらにキャリアを磨いている人、大学
の先生等で定年がまだ先の現役組、孫や親の世話で忙し
い人、また、第二の人生を謳歌している人等、皆さんそ
れぞれの人生ですが、健康管理には気を付けている人が
多く、楽しい話ばかりでした。早起きでのウォーキング



平成 23 年 10 月 29 日 於 ホテルセンラーザ博多

向かって左から。（ ）は旧姓

上段：辻村（片山）中山（山縣）光岡 織田 森重 郡山 井手 江川 中嶋

中段：埋金（坂本）岡（長石）仲子（林）多田（山本）渡部（木原）高比良（横田）津村（山路）大津（鶴原）

肥後（森）小松（田中）長谷川（鋤塚）荒木（稲垣）

下段：本村（世嘉良）山口（力武）平田（許斐）相川 中川（山上）出口（久万）田口 本松（寺田）菅藤（金築）

やフィットネス、バレエ（足を上げる方）を始めたり、
ハワイアンでスッキリボディー等、本当に頑張っている
なあと感心しました。

短い時間でしたが、学生時代の記憶が戻った若々しい
顔を見ながら、次回、長崎開催を期待して楽しい同期会
は終了となりました。幹事の埋金（坂本）、中山（山
縣）、菅藤（金築）、辻村（片山）諸氏へ感謝のお礼を

申し上げます。ありがとうございました。

序でながら、今年の間東支部総会は11月12日(土)開催予
定です。どこの支部もそうでしょうが、若い方の出席が少
なく、いかに若手の参加を増やすかが課題です。東京を中
心に関東には若い同窓生も多く、研究や営業に頑張ってい
ます。是非、同窓会へ足を運んで欲しいものです。長薬同
窓会のホームページも開いてみてくださいね。

2011年長薬49年卒同窓会～太宰府～

緒方千恵子（昭49）

秋晴れの10月9日(日)、福岡・太宰府天満宮に程近い「ホ
テルグランティア大宰府」で2年に1度の同窓会を開催
しました。参加人数は32名（男性11名、女性21名）でし
た（写真参照）。

幹事2人は午後2時頃、ホテルに着いて直ぐに受付待
機をしていました。連休を利用して東京、愛知など遠方
からの参加もありました。

受付開始時刻になると、同窓会に、毎回参加すること
を楽しみにしている皆さんや久しぶりの出席の人などが
集まり、お互いに顔を見合わせるやいなや、話が盛り上
がっていきました。

さて、午後6時半からいよいよ宴会です。座る場所
は、薬包紙の折り紙に番号を書いて各自に引いてもら

い、隣席に誰が座るかお楽しみとしました。

宴会は幹事の一人である二神さんの司会で挨拶が行わ
れ、大平さんの乾杯で始まりました。途中から、前もっ
てお願いしていた「2分間スピーチ」が始まりました。
記憶をたどって紹介します。二次会での話しも混じって
いますがお許しを。

「仕事の集大成として本を出版しました。『私の子宝
相談』（著者：歳森三千代、吉備人出版）」、「薬剤師
の使命として、医師へ助言のできる信頼される薬剤師に
ならなければいけない。」、「これから、もう一仕事す
るつもり。」、「大病をしたので趣味に生きていま
す。」、「夫婦二人になって仲良く旅に出ようと思っ
ています。」、「夫が定年退職後、1日中顔を突き合わせ



平成23年10月9日 於 ホテルグランティア太宰府

向かって左から。

上段：馬場、立花、岡本、上ノ段、松本、大平、灘、橋本、二神

中段：西田、小林、古賀、森、佐々岡、白木、拝崎、柴田、渡辺、林、池田

下段：原田、野中、西岡、立花、清岡、歳森、松井、馬場、阿部、木宮、緒方、山田

るのは嫌なのでパートに出ています。」「仕事をしていてヒヤリハットがふえたので、もうそろそろやめときかなと思っています」、「定年退職後、今までしたことのない薬剤師をしています。」などなど、仕事の近況報告、趣味の話、孫の話、病気の話など、生き方は様々ですが、2時間の宴会はこの2分間のスピーチであっという間に過ぎました。

最後は、幹事の仕事と言われていた次回開催地の決定です。受付の時にアンケート用紙を渡し、宴会の終了前に回収して決めることにしました。

アンケートの結果は、長崎14（うち五島13）がダントツで、京都・香川が各4、山口・大分・岡山が各2、佐賀・東京・山陰・開催地問わずが各1でした。ということで、2年後は、自然豊かな五島に在住の森つよ子さんのお世話になることに決定しました。森さん、仕事、家事、介護と大変な

中、引き受けていただきありがとうございました。

次に、場所を移動しての二次会です。全員参加の二次会は和室14畳で、とても狭かったのですが、5～6人が車座になって、楽しく語り合いました。当初、数量を心配していたおつまみやお酒はそれほど必要ではなく、以前に比べ飲む量も減り、「還暦」という年齢を実感しました。

翌日は、朝食後に2年後の再会を約束して解散としました。太宰府天満宮、光明禅寺、国立博物館などを散策されましたでしょうか？天満宮は連休の最終日で多くの参拝客でにぎわっていました。秋晴れの日差しはまだまだ強いものの、ひんやりとした空気の気持ちの良い季節を楽しまれたでしょうか？帰途、新しくなった博多駅周辺でのショッピングも楽しめたでしょうか…。

では、では、2年後を楽しみに…。 幹事3人（二神、山田、緒方）より。

2011、卒後35年の同窓会

平田 厚司（昭51）

平成17年11月18日、長崎での同窓会の最後、「次回は福岡で！」と散会した。あれから4年。「同窓会はいつですか？」とか「どうなってるの？」という声を聞くようになった。皆、5年後の「福岡」を楽しみに待っていた。

今年3月、富永先生の退職記念パーティの席で、田原君、長尾（旧姓）さんと会い、「日程だけでも早く決め、皆に通知しよう」と9月17日（土）に福岡で開催することを決め、「開催予告」という形で皆に通知した。

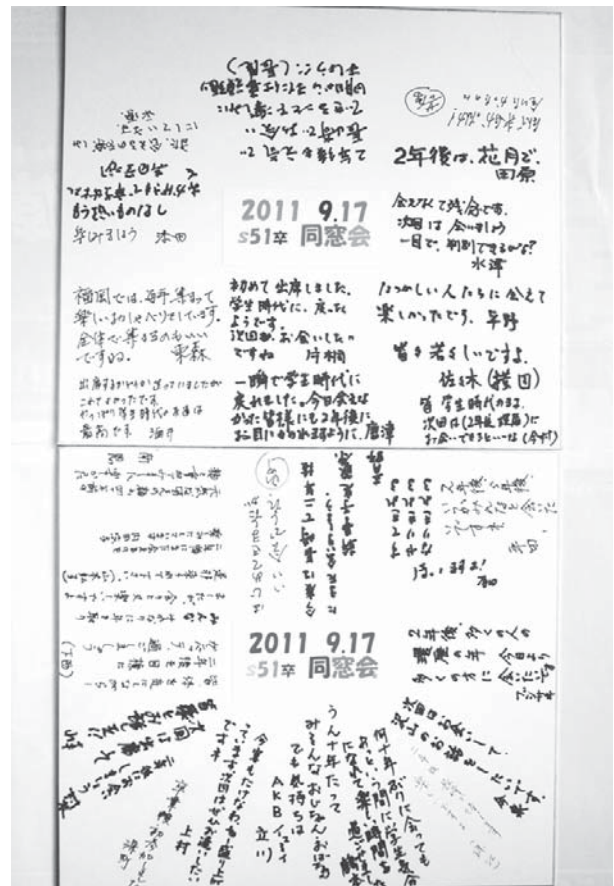
福岡、北九州では、今流行りの「女子会」という形で毎年ミニ同窓会を開いていると聞き、男一人をその会に参加させてもらい、今回の同窓会と一緒に企画してもらうこととなった。同じ県内で、日頃は顔を合わせることもなかった同窓生たちと企画の進捗状況などをメールでやり取りし、同窓会出欠の返信が届くたび、通信欄に書かれた近況がとても懐かしく感じられた。

同窓会の参加者は前日まで、はっきりしなかった。若い頃とは違い、定年少し前の仕事の総仕上げの大事な時。また体の変化が見られる年頃でもある。開催予告をしていたにも拘らず、残念ながら直前に出席を取り消さざるを得なかったという者もいた。

こうして、平成23年9月17日、博多駅前のホテルセンター博多に33名が再会した。今年還暦を迎えられた寺田さんによる「乾杯」の発声で5年ぶりの同窓会が始まり、皆があっという間に35年前にタイムスリップした。卒業後、初めて出席したという者が3名、複数回出席の顔ぶれは「見ればわかる」がほとんどであったが、その3名にとっては浦島太郎のような感覚ではなかったかと思う。髪が少なくなった者、白くなった者、中年太りの者。中でも、学生時代とのギャップが一番大きいのは「田原君」。学生時代はジャンニー

ズのような顔立ちで、スラッとしていたイケメンだったのに……。誰かが製薬科学科の入学当時の全員の学生証の写真のコピーを持参していた。今との変りように、全部のテーブルを回して盛り上がった。

また、今回は「寄せ書き」という形で一言ずつメッセージ



ジをかいてもらった。「寄せ書き」のコピーを集合写真と一緒に送付し、出席できなかった者にも懐かしさを味わってもらおうと計画した。あと2年で全員が還暦を迎える。子育てが終わり、今は親の介護をしているという年代。介護される側になる前に間を空けずもっと頻繁に開催したいという声が多く、次は「2年後」に長崎で再会することを

決めた。次回の世話人を申し出た藤原君の一本締めであったという間の2時間の同窓会を終了した。

同じホテルのラウンジで二次会を予定していた。ほぼ全員がそのまま移動し、「時間よ止まれ」と言わんばかりの場所を変えただけの同窓会が続いた。

次は2年後。その時は全員で盛り上がろうぜ！



平成 23 年 9 月 17 日 於 ホテルセントラーザ博多

東日本大震災災害派遣報告

青野 拓郎 (昭52)

6月2日(木)～6月6日(月)まで広島県薬剤師会から宮城県へ派遣されましたので活動報告をさせていただきます。初日は、東京を経由して現地入りしましたので16時ぐらいに石巻市へ着きました。19時頃より事務所で開始されるミーティングまで時間があつたので、救護所のある湊小学校、渡波小学校を見て回ることにしました。

仙台市から石巻市へ向う車中からは、報道で見ようような被害は確認できませんでしたが、石巻市薬剤師会仮事務所に近づいた頃から津波の被害を目にするようになりました。そのまま石巻街道を進んで行くと、被災した石ノ森萬画館も見えてきました。女川街道に入っていくとヘドロというのか何ともいえない臭いがしました。大潮のため冠水した道路から湊小学校、渡波小学校の各避難所の場所を確認しました。まだ時間に余裕があつたので女川町立病院も確認しておくことになり、進むこと20分

ぐらいして小高い丘を登り谷間を下り始めると衝撃的な光景が目に入ってきました。海岸線までの家屋のほとんどが壊れていました。津波は、高さ16メートルの高台にある女川町立病院の1階部分まで達したそうです。今は、2階で受付、診療、投薬がされてます。



石巻市での活動は、下記の7班にわかれて行いました。

- ① 湊小学校（救護所） 調剤業務
- ② ヤンマー仮設診療所 調剤業務
- ③ 女川町立病院 調剤業務
- ④ 女川総合体育館 調剤業務
- ⑤ OTCの配達と聞き取り
- ⑥ 渡波（わたのは）小学校（救護所） 調剤業務
- ⑦ 遊楽館 医療活動サポート

1日のスケジュールは

5:30 起床

6:45 ミーティング 終了後 各自担当場所へ移動

17:00 各自 石巻薬剤師会仮事務所へ戻る

19:00 ミーティング

といった感じでした。

2, 3日目は⑤OTC聞き取りに従事し、女川町方面へOTCの聞き取り調査で女川第三小学校、女川第一保育園、女川勤労青少年センター、女川町公民館御前分館、海泉閣等をまわり、環境状態、不足しているOTCについての聞き取りと薬に関する相談を行いました。また各救護所へも巡回し、不足しているOTCの補充をしました。

4日目は避難所への殺虫剤配布事業へ参加しました。8:30に湊小学校へ宮城県薬剤師会、石巻市薬剤師会及び私たち4名を含め50人弱の薬剤師が参加しました。業者の方から殺虫剤の希釈方法及び散布方法の説明を受け

た後、7グループに分かれて20カ所の避難所を回り、説明及びデモンストレーションを実施しました。この日の宮城テレビのニュースでも紹介されました。夕方のミーティング終了後、仙台市へ移動し実質3日間の活動は終了しました。翌日、レンタカーを返却し仙台駅から帰路につきました。



10月に石巻市へ再度訪れる機会がありました。中心部は、着実に復興してきており瓦礫も少なくなっていました。しかし、すこし外れた場所は、未だに瓦礫が残ったままの場所もあり、まだまだという状況でした。

最後に「石巻を忘れないで！」という言葉、またある先生の「今、石巻はどうしているのかな？と思ってくださるだけで、心に燈が宿るのです。」という言葉が心にすごく響きました。

卒業30周年記念同窓会を開催しました！

山口 正広（昭56）

早いもので、今年の3月で卒業30周年目を迎えました。卒業20周年目を迎えた平成13年から5年ごとに同窓会を開催することにしており、今回は10月9日(日)から10日(月)の1泊2日で長崎県雲仙市小浜町にあるホテル東洋館において卒業30周年記念同窓会を開催しました。

開催場所については、長崎市内での開催要望もあり、当初は今年3月に橋が開通し陸続きとなった伊王島で開催する方向で準備を進めていましたが、宴会場の確保が難しいということもあり、前回の25周年記念同窓会と同様に雲仙において1泊2日で開催することになりました。

開催にあたって、前回同様、有志による世話人会を組織し、開催案内を出す前に2回、開催直前に1回世話人会を開催しました。また、前々回の20周年記念同窓会の時には記念事業として記念誌を作りましたが、今回は学生時代の写真を同級生の皆さんに提供いただき、電子版の写真集をDVDとして作成しました。

同窓会当日は天候にも恵まれ、遠くは東京や大阪、奈

良からも参加いただき、総勢28名の同級生の皆様に参加いただきました。卒業以来30年ぶりの再会となった方もおられました。参加者を学科別にみると、薬学科が8名、製薬化学科が20名であり、男女別では、男性が11名、女性が17名でした。

1日目、早めにホテルに着いた方には、山登りにチャレンジいただいたり、雲仙地獄を散策いただいたり、温泉にゆっくりつかっていただいたりと、自由に過ごしていただいた後、いよいよ午後6時から宴会が始まりました。

宴会は、都知木くんによる名司会のもと、皆さんから提供いただいた美味しい日本酒や焼酎を飲んだり、昔の写真を納めたDVDをみんなで見たり、昔の話に花を咲かせたりと、気分は学生時代に戻って楽しい時間を過ごすことができました。

宴会の後には、別の二次会部屋に移動し、参加者の皆さんが持ち寄ったお土産を肴にお酒を飲みながら、午後11時頃まで思い出話を花を咲かせました。さらにその後、

部屋に戻り酒を飲みながらワイワイガヤガヤと時間が経つのも忘れ、2時頃まで昔の話に花を咲かせました。本当に楽しい、気持ちは学生時代に戻った一時でした。

翌日は、朝食の後、三々五々解散しましたが、帰りの時間に余裕がある十数名の同級生の皆さんについては、一緒に諫早市の五家原岳の中腹に広がる白木峰高原に出かけ、花盛りのコスモスを見物した後、諫早名物のうなぎ料理の老舗「うなぎ割烹 北御門」で昼食を取っていただき、その後、解散。各自家路の途につかれました。



今回の同窓会は、準備の時間があまり取れず、行き届かない点もあったかとは思いますが、参加いただいた皆さんには概ね喜んでいただいたのではないかと思います。

次回同窓会は、卒業35周年記念同窓会として5年後の平成28年に開催する予定です。多くの同級生の皆さんのご参加を期待しております。年齢的にもいろいろと故障が見つかる時期です。同級生の皆様方には、お体に気を付けてお過ごしいただき、次回同窓会で再会しましょう。

最期に、今回の30周年記念同窓会の開催にあたりご協力いただいた世話人の皆様、特にDVDの記念写真集の編集・作成にご尽力いただいた七種さんや上島さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。

<卒業30周年記念同窓会参加者> (敬称略)

●薬学科

道津(青山)靖子, 大田寿美子, 吉岡(門岡)優子, 辻俊彦, 中西健二, 原田博道, 田中(前之園)久子, 川辺(和田)智子

●製薬化学科

赤木 聡, 東 三郎, 石居敏文, 上島泰二, 安田(川端)芳香, 七種 均, 瀬戸(佐倉)久美子, 江本(嶋田)佳子, 杉山みどり, 江川(津田)佐登子, 都知木睦, 八田 章, 藤本久美子, 岩松(松田)節子, 佐久井(松本)恵美子, 岩下(峰)由紀子, 東(村上)文子, 浦田(柳原)ゆかり, 田村(山田)愛子, 山口正広



平成23年10月9日 於 ホテル東洋館

昭和 58 年卒同窓会

宮崎 幹雄 (昭58)

前回の福岡で開催して以来3年ぶりの、平成23年10月9日に長崎港の沖に浮かぶ伊王島にある「やすらぎ伊王島」で、私たちの学年では初めての宿泊同窓会を行いました。当日は、おくんちの後日ということもあり、夕方に会が始まるまでにくんち見物でココデショの追いかけをした人や、昨年からはまった軍艦島観光に出かけた人など色々でした。

参加者（敬称略）は、女性：相葉啓子、永山直美、羽野 円、村上千恵子、登本優子、横手佳子、磯部有紀子、光野直子、佐久間千恵子、三浦徳子、菅野恵美子、男性：松原 大、上野記義、内村由満、大川内英生、高岡靖也、松本秀樹と幹事の私を入れて総勢18名でした。

当日は天候もよく、海も穏やかでほとんどの方が船で早めに伊王島まで来て、宴会が始まるまでの間、テニスや卓球をしたり、温泉に入ったり、部屋で雑談をしたりとゆっくりと過ごしていたようでした。いよいよ19時からホテルの宴会場で、同窓会が始まりました。卒業してずいぶんと時間がたつので、念のため名札を用意していましたが、顔を合わせるとすぐに昔の姿が思い出されその必要性はあまりなかったようでした。伊勢エビの刺身など豪華な食事とお酒に舌鼓を打ちながら、学生時代の思い出話に花が咲き、もう卒業して29年になるにもかかわらず、若く一番多感だった時代を振り返り、懐かしい

出来事が次々と思い出されました。学生時代の話だけでなく、薬局や病院だけでなく、大学や企業、科捜研などの現在の仕事や、暮らしの話なども、大変盛り上がりました。

二次会は、別棟のカラオケボックスに場所を移し、みんなで、大いにカラオケを歌い語り合いました。学生時代では思いもしない組み合わせのデュエットや、松原君の「キューティーハニー」、内村君の「納豆売り」などの歌や、大川内君のバルーンアートなどの多彩な芸も披露され、楽しく過ごし気がついたらあっという間に12時になっていました。それからは各々の部屋に戻りましたが、それからも話が尽きることなく夜遅くまで色々話をして盛り上がりました。

翌日は、朝食を済ませ温泉に入ったりした後、現地解散をしました。今回は初めての宿泊同窓会でしたが、これまでと違い時間を気にすることなくゆっくりと飲んで話すことができ、とても良かったと皆話していました。

まだ検討段階ではありますが、次回は初めての関西地区での開催をしてはどうかとの提案もありました。一度は、九州を離れて同窓会を開くのも面白いと思いますので、関西在住の皆さん、4～5年後の同窓会の企画を是非考えてください。よろしくお願い致します。



平成 23 年 10 月 9 日 於 やすらぎ伊王島

昭和 59 年卒業生の四半世紀記念の同窓会開催のご案内

S59卒業生同窓会幹事一同

昭和59年3月に卒業し、早25年以上が過ぎてしまいました。本当は2年前に卒後25年（四半世紀）の同窓会を開催するはずでしたが、学年理事の怠慢により、開催することができないままになっておりました。伊藤 潔、塩崎律子、宮崎文美と中村忠博の4名の幹事で何回か集まり検討した結果、以下の日時、会場で行うこととなりましたので、経緯のご報告（後述）を兼ねてご案内します。

日時：平成24年1月21日（土）18時半頃から
場所：長崎バストウエスタンプレミアホテル（旧プリンスホテル）15階 レストランThe Kitchen
（長崎市宝町2-26 電話：095-820-1810）
会費：1万円

出欠を中村（t-nakamr@nagasaki-u.ac.jp）までご連絡ください。

■浜の町「あびす屋」にてクラス会前打合せ会（^o^）/

今回の同窓会の案内は、去る6月開催された長葉同窓会総会がきっかけでした。長崎市の全日空ホテルグラーバルで開催されたこの会には、ノーベル賞を受賞された下村 脩先生もご参加になるということで、同学年の方々に案内したところ、10名近くの同級生が参加してくれました。チャンスとばかりに、卒後25周年記念の同窓会開催に向けての打合せを行うことにしたのでした。

ホテルでの懇親会の後、浜の町の「あびす屋」に移動し、「クラス会の前打合せ会」と称して二次会の開始。所用のため同窓会総会に参加できなかった同級生も前打合せ会には合流し、皆で14人【右写真】。打ち合わせの方は適当にしつつ、大学時代に戻った時間を過ごしてしまいました。

■やっぱりもめた場所と開催時期（°Д°;≡;°Д°）

さて、昭和59年卒（昭和55年入学）の同級生で、同窓会を開くことについては、参加者一同異論はありません。問題はどこでするかです。やはり、長崎で開こうと言う意見があるかと思えば、いや福岡の方が集まりやす

いのではないかということになり、一時は福岡開催で決まるかと思われました。「じゃあ、誰が幹事する？」ということになり、福岡在住のメンバーが少ないこともあり、ここで、幹事を押し付けるのは無理かな？ということで、やはり、その場の参加者が最も多かった長崎で開催することに決まったのは当然の帰結かも知れません。

さて、長崎駅前周辺の案に始まり、雲仙や伊王島という案も飛び出しましたが、遠くからも参加しやすい様に交通の便を考え、市電が走っている範囲で検討することとなり、会場探しなどを含めて、伊藤 潔、塩崎律子、宮崎文美と中村忠博の4名で幹事をする事となりました。日程も、大学受験を控えた子供を持つ方があるということで、センター試験終了後の1月21日（土）に決めました。

■最後に... m (_) m

この会報が届くのは平成23年もあと数日という頃だと思いますが、まだ間に合うはずです。皆さん、奮ってご参加ください。大学時代の実験やテスト、レポートのつらかった思い出や、楽しかった思い出、九重や霧島登山など、数々の思い出や、現状報告をしませんか？それでは、幹事一同、ご参加をお待ちしております。



浜の町「あびす屋」にて

昭和 56 年入学後 30 年の同窓会

原 正朝（昭60）

今年の2月16日に福岡で、久松さん、末松（向江）さん、原の3人でミニミニ同窓会を行い、平成18年7月16日に開催した前回の同窓会以来、しばらく同窓会をしていないので今年は必ず同窓会をしよう、場所は長崎でと盛り上りました。幹事は私が行うこととし、早速長葉同窓会事務局に名簿と宛名シールの発行依頼を行いました

た。その後3月11日に東日本大震災が発生し、同窓会事務局の武次様には同窓生の安否をご心配いただきましたが、幸い当時仙台在中の松本さんも無事であることがわかり一安心しました。

私が勤務する総合メディカルは、陸前高田市のさとう薬局高田店が津波により完全に流出しました。東京オ

フィスに勤務する私は、3月11日以降社員の安否確認や薬局の復旧対応を行っていたため、今年中の同窓会の開催もどのようになるか判断できない状況となりました。その後いろいろな方々のご支援をいただき、仮設店舗での薬局業務も再開して同窓会の幹事をする事ができる状況になりました。

6月末に昭和56年入学の同窓生に案内状を送付し、皆さんが一番集まることが可能と回答してくれた11月19日土曜日に長崎で行うことにしました。一次会は幹事の独断で、学生時代にいつも飲みに行っていた住吉です。二次会は、新入生歓迎コンパや卒業生の歓送会など特別なハレの日に飲みに行った浜の町としました。一次会を行った居酒屋住吉市場の隣には、在学中にオープンした、麺3玉無料増量のとくとうどんが元気に営業しており、懐かしい思いで皆の集合を待ちました。集まったのは、山口(村島)綾子、平井(植田)美穂、岸川(吉川)映子、宇佐美(渡部)めぐみ、南里裕美子、塩屋(吉田)広美、藤木弘美、高橋(西山)薫、末松(向江)紀美、石橋(伊藤)キミ子、小田原志朗、大山(寺田)さゆり、矢田(徳田)道代、西田(長岡)ゆかり、川崎(富吉)章子、浅沼章宗、浅沼(三ヶ尻)益子、富永伸明、坂井(谷川)明美、原田(結城)朝路、平節子、塩田英雄、原 正朝の23人です。参加者名簿に併せ



て、卒業時に作成したアルバムから個人ごとのスナップ写真の一覧を用意しました。スナップには、当時アイドルだった聖子ちゃん(松田聖子)カットやトシちゃん(田原俊彦)カットのアイドル写真のような若い面々が勢ぞろいしています。全員集合したところで、平成19年1月9日に亡くなられた小山田(飯島)京子さんのご冥福を祈って黙祷を行いました。今回集まった仲間には、卒業後初めて会うメンバーもいます。学生時代とほとんど変わっていない人、多少変化が見られる人、それぞれに30年の経過を感じながら、話を始めるとすぐに学生の頃に戻ることができました。会話も、実験中のエピソード(〇〇君が、早く実験を終わらせたいがために、アルコールを湯せんでとばさずに直火で加熱して引火したことや、〇〇さんが、試験管から尿を突沸させたことなど…)子供の話、老眼の事(特にシグマートやメプチンミニの識別コードが見えにくくなったことに共感)、親の介護の話まで、アラフィフティであることを感じさせる内容もありました。それぞれ皆、薬局、病院、教育、警察、企業などで元気で頑張っていることが分かり、時を忘れて話し込みました。浜の町での、二次会、三次会を終えると、時計は深夜の1時半を回っており、今回の同窓会の幹事は、長崎在住の塩田さんが必ず行うことを宣言してお開きとなりました。

四次会は、大山(寺田)さんのリクエストで、学生の頃、若葉町で食べた「かにや」のおにぎりに行こうということになり、小田原さん、末松(向江)さん、大山(寺田)さんと私の4人は銅座の「かにや」へ向かいました。末松さん、大山さん、小田原さんも飲み過ぎには注意してくださいね。それでは皆様、次回同窓会で再会できますことを楽しみにしています。



25周年記念同窓会 in 福岡

本多 隆(昭61)

「見事ラッキー7です。おめでとう！」ほんの少し集合時間に遅れ、席順のくじで7番を引き当てた私は、会費を集めてくれていた梅川さんに言われて、びっくりしました。「かわいそうに」とちょっと向こうから聞こえる古谷君の同情(?)の声。何のこともかわからず席に着くと、結局、宴会の席の抽選であると同時に同窓会報の原稿執筆者に決定されるということ、隣の席の前田さんから教えられました。何を期待していたのか、一瞬、「ラッキー!」と思った自分を少し恥ずかしく思った同窓会の始まりでした。

去る平成23年2月11日(金)、福岡市において、(前回同窓会時に半ば強引に引き受けさせられた)市村君の幹事役のもと、卒業25周年記念同窓会を開催しました。前回の同窓会は、卒業20周年記念ということで、皆が懐かしがる長崎市で開催したのが、確か4年前であったと思います。どうも計算が合わず、どちらかが間違っていると思いますが、それは小さなことで、どうでも良いことであると結論付けることにしました。

今回の参加者は総勢29名(1名は二次会から)で、受験生を抱える親の世代としては、むしろ多かったのではないかと思います。これもひとえに市村幹事の人徳によるものと感謝しております。

さて、同窓会における参加者の過ごし方はさまざまです。久しぶりの再会に涙ながらに喜び合う面々、まるで昨日も会っていたかのように平然と話し合う面々、とりあえず同窓会の開催までこぎつけたと一安心の幹事グループ(決して代表幹事だけではありません。)、等々。

きっと、それぞれ仕事や家庭の悩みや心配事も多く抱える年代ですが、この同窓会における数時間だけは、それらを忘れて、(見た目はお互い別として)20代の「あの頃」に戻っていたようです。「あの頃」とは、1980年

代の半ばで、2011年とは何もかもが大きく違います。薬学部も当然4年制ですし、携帯電話もなかったし、電子メールなんてものもなかった時代です。何て不自由な時代だろうとも思えますが、当時はそこまで不自由さを感じていなかったのも事実です。公衆電話用にと、10円玉をジャラジャラもって安心していた時代でした。当時はあまりテレホンカードが使える公衆電話も多くありませんでした。現代と比べると、いわゆる「スローな時代」であったことは間違いなさそうです。もっとも、当時はそう感じていませんでしたが。

あれから25年です。長寿国ニッポンといえども、人生100歳まで生きる人はそう多くはおりませんが、その4分の1を経過したというのは、決して短い時間ではありません。そもそも、全国各地から、同じ時代に生まれ、同じ大学同じ学部の同窓生となる確率は非常に小さく、「奇跡」であるといっても過言ではないでしょう。さらには、その後の人生を生涯ともに過ごす人たちまでいます。

話が少し本筋からそれましたが、同窓会は盛り上がるのうえ、一次会が終了し、大半が二次会へと流れ込みました。ここまできると、何が何やらわからない状態ですので、何年ぶりとか関係なくなっていくます。二次会を終えたのが何時ごろだったか、全く覚えていませんが、三次会に屋台に行ったのは覚えています。確か、市村幹事、途中参加の岩竹君、長尾君、古谷君と当方の5人だけだったと記憶していますが、間違っていたらごめんなさい。「やっぱ、博多の屋台のラーメンはうまい。本物だ。」などと話していたら、その屋台は、壱岐の人がやっていて、「おー、奇遇だ! 皆、長崎大学出身だ!」などと盛り上がったあげく、少々疲れ、散会となりました。

皆がそれぞれの思いで過ごした同窓会であったと思



ますが、その中で、非常に重要なことが、半ば強引に決定されました。それは、次回と同窓会の幹事は、今回の欠席者の中から決定されるという恐ろしい規則です。今回は、3年後、九州新幹線開通記念として開催地は鹿児島県、幹事は鹿児島県在住の上園君と山崎君の2人に決定されました。選出理由は前述のとおり2人とも今回の同窓会欠席者です。よろしくお願ひします。

最後になりますが、本原稿を執筆するに当たり、同窓会の感想を当方にメールにて送付するよう、市村幹事より参

加者全員に依頼してもらい、多くの感想が寄せられ、大変助かりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

思えば、この同窓会の開催日の平成23年2月11日の1か月後の3月11日に、あんな震災が起ころうとは、だれも予想できなかったろうと思います。毎日をしっかり生き、同窓会も参加できるときは、できるだけ参加しようと強く感じております。次回の鹿児島県でも、残念ながら今回参加できなかった人も含め、できるだけ多くの同窓生と元気で再会することを願って、筆を置くことにします。

いわき市への災害ボランティアに参加して

佛坂 浩 (昭61)

今回、東北地方太平洋沖地震で被害に遭われた「いわき市」にボランティアとして行きましたので報告します。

いわき市の知人から、いわき市は地震や津波のみならず原発問題も重なり、なかなかボランティアに集まってもらえないということ、さらに震災直後には多くの大手チェーン薬局がロックアウトされ、いわき市から逃げ出した薬剤師もいたそうで、現地の医療環境はまだまだ混乱しており、医療関係者(薬剤師も含む)の不足で非常に困っていることを聞きました。

そこで、こんな時に少しでも役に立てればと考え、急遽いわき市までボランティアに行くことにしました。周りからは放射能の問題等があるので大丈夫か?という意見もありましたが、放射能の件も一種の風評被害であると考え、ボランティアに行くことにしました。

4月1日(金)16時30分発の飛行機で福岡空港から羽田に移動しました。その後東京駅で愛知県の2人の薬剤師と合流、埼玉県大宮駅まで電車で移動、東京の薬剤師1名と後方支援をさせていただく埼玉県の薬剤師さん達と合流し、薬剤師4名でレンタカーに書籍、薬袋、水、ガソリン、野菜などの物資を載せ24時に大宮をスタート。大宮インターより高速道路(常磐道)に乗って福島いわき市を目指しました。福島に近づくにつれて高速道路が波打ったり、段差があつて突きあげられたり、3車線の道が2車線のみ使用可能となるなど被害地に近づくのがわかりました。4月2日(土)3時頃、湯乃岳PAに到着、車中にて1時間ほど仮眠を取り、その後いわき四ツ倉インターで高速を降り、5時30分に被災地である四ツ倉に到着。海岸沿いの被害は甚大であり、津波の凄まじさを目の当たりにしました。6時30分に「いわき市医師会館」に到着、高速に乗る前に購入したおにぎりで朝食をすませ他のスタッフが来るのを待ちました。

7時半になると医師会のスタッフやJMAT(日本医師会災害医療チーム)の方たちも集合し始め、我々も「いわき市薬剤師会」長谷川会長と合流、他のボラン

ティア参加の薬剤師とともに長谷川先生よりいわき市の現状説明、施設説明、当日の人員配置および業務等についてブリーフィングが行われました。いわき市医師会には、さまざまな団体から医療用医薬品の提供があり、その医薬品はいわき准看護学校の1階に効能別に備蓄・配置・保管されており、それ以外にも消毒剤、OTC薬、マルチビタミン、OS1、健康補助食品、薬袋など所狭しと準備されていました。こういった医薬品の管理も薬剤師の仕事です。

長谷川先生の指示で今回集まった薬剤師を、JMATに同行して避難所を回る薬剤師と避難所の環境衛生や備蓄してあるOTC薬の管理状況などの調査を行う薬剤師、および後方支援として連絡等の本部機能および供給・使用された医薬品の管理等を行う薬剤師という三つの部門に分けました。

JMAT(日本医師会災害医療チーム)と同行する薬剤師は、持参する医薬品を備蓄の中から取り揃えJMATと合流し、医師の指示があれば指示があった医薬品も再度取り揃えてJMATの車に同乗して避難所や仮設診療所に向けて出発します。今回は、愛知県医師会チーム(2チーム)、山梨県中央病院チーム、富山県医師会チーム、福岡県医師会チーム、港区医師会チーム、荒川医師会チーム、千代田区医師会チームなどがJMATとして参加されていました。また別のチームは避難所における環境衛生調査を行うことになりました。長谷川先生より調査項目について検討するよう指示がありましたので、学校環境調査をベースに「水道・水質」「室内空気」「照明」「トイレ」「音」「廃棄物(ゴミ)」「食事」「入浴」「睡眠」の項目について調査するための調査票を作成し四ツ倉高校、湯本高校、江名小学校、江名中学校、大浦公民館などの避難所を2日間に渡って訪問調査しました。1日目の四ツ倉高校の避難所で環境調査を行っている時、東京の松沢病院が主となっている「心のケアチーム」が訪問・診察をされていましたが、薬剤師同伴ではなかったようで、急に呼びとめられて調剤の

依頼があり、指示を受けて近隣にいたJMATの薬剤師から医薬品を調達し、患者さんへ投薬・服薬指導を行うというハプニングもありました。また2日目に湯本高校の避難所に訪問した際には、地元の開業医が来られ臨時の診察が始まったので傍について、患者さんが持参された薬剤情報提供書確認やお薬手帳の確認を行ない医師へ情報提供、場合によっては医師が持って来られた医薬品の中から医薬品選択の提案を行い、投薬・服薬指導を行うこともありました。調査の際には避難所のOTC薬の常備状況も併せて確認し、避難者の相談にも乗り、必要であれば持参したOTC薬を配布・服薬指導することもあり、またOS1やマルチビタミンの配布も行ないました。

各避難所によって環境が異なっており避難所住民の感情も様々のように感じられ、とある避難所は住民感情爆発寸前というところもあり、今後の運営が気になるところでした。

1日目のJMAT同行や環境調査が終了したら、いわき市医師会館の会議室に全医療スタッフが集合し、その日の報告と翌日の予定がブリーフィングされました。我々はいわき市競輪場施設を宿泊施設として準備されていたので、布団で眠ることができたのは、幸運でした。いわき市はその時点でも余震が続いており、ミ-

ティング中や移動中、睡眠中など何回も余震がありました。

2日目の避難所調査で移動の途中、被害が大きかった小名浜を訪問しました。港では船が陸に乗り上げており津波の力に再度驚かされるとともに、自宅が被害に遭い片付けをされていた方から、海岸から押し寄せる津波を見て死に物狂いで高台に逃げて九死に一生を得たという生々しい話を聞き、津波の恐怖を再確認させられました。その後いわき市医師会館に向かい医薬品等の搬入や各避難所環境調査報告書をまとめ、4人全員揃ったので17時にレンタカーでいわき市をあとにして東京を目指し帰路につきました。

今回ボランティア活動に参加させていただきましたが、避難者や医療チームからの薬剤師のニーズは非常に高いものと感じました。JMATの方たちからは薬剤師は必要であるという声を多く聞きました。また開業医の先生のお手伝いをした際も、非常に助かったと喜ばれていました。今後も日頃からの薬剤師業務に励むとともに、さらに学術的な研鑽とともに薬剤師職能を磨き、職能を拡げていき、今回のような緊急時においても薬剤師として、国民を初め医療関係者の要望に応えていくことが非常に重要であると思いました。

福島県におけるモニタリング支援活動について

平良 文亨（平9）

3月11日に発生した東日本大震災に伴う複合災害として、福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故が発生した。翌12日午後3時36分、1号機で水素爆発が発生し、報道による映像から25年前に起きたチェルノブイリ原子力発電所4号炉の事故が脳裏に浮かび、原子炉建屋の外へ放射性物質が放出・拡散されることを覚悟した。私は、日頃から長崎県内の環境中の放射能レベルについて調査研究している立場にある。長崎県職員として、玄海原子力発電所から10km圏内（EPZ）を一部含む松浦市鷹島町を中心に環境放射線（能）の測定をするとともに、社会人大学院生としてチェルノブイリ原子力発電所周辺（ウクライナ、ベラルーシ共和国及びロシア連邦）やセミパラチンスク核実験場周辺（カザフスタン共和国）の土壌などの環境試料から、現在の放射線被ばくりスク評価を行っている。12日午後6時前と記憶しているが、長崎県内のモニタリング強化を実施するよう上司から指示があり、夕食のおにぎりと着替えを持参しつつ、車に飛び乗って職場に直行した。移動の間、携帯電話は鳴り続けていた。普段から、原子力防災のための危機管理対応について、研鑽を重ねている自負はあったが、事態の深刻さや国内で爆発を伴う原子力災害が現実に発生

したことで、運転中のハンドルを握った手は小刻みに震えていた。

その後、自衛隊、消防関係者あるいは電力作業員の勇敢な行動により、原子炉そのものの爆発は免れたが、事故直後から10日間ほどは最悪の事態を想定し、実家の秋田（湯沢市、福島第一原発から約200km）の両親や姉の家族には、万が一の場合には新潟経由で日本海側の交通網を利用して長崎まで避難するよう勧めていた。今なお、事故収束は不透明なままである。事故直後から、長崎大学病院の緊急被ばく医療チームが福島で活動をされているが、全国の薬剤師の先生方も被災者対応等を積極的にされている報道を目にし、東北出身者の一人でもある私も、微力ながら何らかの形でサポートをしたいと強く思っていたが、私の場合は自治体職員として緊急時モニタリングの支援（放射能測定）という形で職場の後輩（薬剤師）とともに福島県入りした。事故から2週間ほど経過した3月29日であった。ご存知のとおり、当時は主要交通網が麻痺状態であり、空路新潟まで移動した後、防災資機材や非常食などをジャンボタクシーに載せて福島市へ向かった。それまで、長崎県はもとより全国の環境放射線（能）データを把握していたこともあり、

新たな爆発がない限り大きな問題はないレベルであることは認識していたが、余震が継続している中で予断を許さない状況であることには間違いなかった。

福島県内に入り、連日緊急時モニタリング支援を続けた。支援エリアとしては、福島市、小野町及びいわき市の30km圏外の都市で、サーベイメータによる空間線量率の測定や浮遊じん、雑草及び上水など核種分析のための環境試料の採取を実施した。1日約250kmの移動を伴うモニタリングは体力的に少々厳しいものであったが、福島県職員の不眠不休での活動を間近に見て、長期的なサポートが重要であることを痛感した。また、滞在中の4月7日には震度5強の強い揺れを体験したが、自然災害の恐ろしさを今更ながら再認識した。私が所属している県の環境保健研究センター（大村市）では7月までに延べ7人が派遣され、私が2回目に派遣された7月上旬には以前担当したエリアに加え、飯館村や津波被害が甚大であった相馬市なども担当し、ホットスポット調査等の支援も実施した（写真）。環境放射能という分野は、1940年代以降の米ソの対立による東西冷戦下で行われた数多くの大気圏内核実験やチェルノブイリ原発事故から数十年が経過し、最近では注目されることはまれであった。皮肉にも今回の福島第一原発事故を受け、再び注目されているが、放射線・放射能に関する偏った情報が錯

綜した結果、不要な風評被害が蔓延している現状に私は非常に憂慮している。この国難を乗り越え真の安全・安心を獲得するために、国内外の叡智を結集し一丸となって岩手、宮城及び福島の復興・再生に向けて取り組むと同時に、原発の是非という単純な議論ではなく、エネルギー戦略の本格的な議論を切に願いつつ、また今日も長崎で環境放射能のモニタリング活動を続けている。



新聞報道からの抜粋、写真左が著者（福島民友、2011年7月13日）

1 泊の新年会

水野 和美（平11）

今年2月、温泉宿泊新年会を行いました。場所は嬉野温泉の初音荘。幹事の野田の声かけのおかげで遠方からの参加者も。野田（とその旦那）、山田智子、徳久、角、松永（とその旦那）、鈴木、濱邊、玉田、日山（とその旦那）、と乳幼児6名。

2月12日、福岡は大雪の日でした。福岡～佐賀の高速道路が封鎖され、鈴木と、松永夫妻が一般道での移動となり、遅れる連絡があり先に宴会開始となりました。よく一緒に飲んでいた面子ですが、久々の再開だとそれなりに緊張します。しかし酒が入り、帰宅しなくても良いという気軽さから場は和み、近況や思い出話に花が咲くのでした。盛り上がる中、午後8時前には福岡組も到着し、再度乾杯。宴会場での上げ膳据え膳の食事を終え、気楽に部屋で2次会を開催し、子供らは旦那に任せ女同士で盛り上がるのでした……。

元々は分子薬理学教室同期の呑み助女5人の飲み会でした。卒業後、県外に出る人間もあり、年に一度は集まりたいと企画した飲み会。メンバーの自宅や居酒屋で開催していましたが、子供も増えてきたので夏に市民の森や時津の時津自然公園で、一泊二日の屋外バーベキュー大会も開催するようになりました。

やはり参加者が多いほうが楽しいもの。近々、もっと声かけをして研究室同窓会ではなく学年同窓会を企画したいと考えております。



平成23年2月12日 於 嬉野温泉「初音荘」



富永義則先生退職記念懇親会

萩森奈央子（平12）

平成23年3月12日に富永義則先生（昭44、環境科学部教授）の退職記念の懇親会を長崎中華街の江山楼にて開催しました。前日に関東東北地方において未曾有の大震災があり、一時は開催をできるかと心配しましたが、無事開催に至りました。震災の影響で関東地方からの参加予定の方が急きょ欠席されたり、津波警報のためにJRが肥前山口～長崎間が不通になり欠席を余儀なくされた方がいらっしやったりしました。しかし、始まってみると総勢62名の方々にお集まり頂くことができました。

JR不通のためご欠席された名誉教授の古川 淳先生（昭25）のピンチヒッターで同窓会長の伊豫屋さん（昭41）からご挨拶頂き、会を始めました。有志からの記念品贈呈では「iRobotルンバ」と目録を読み上げると笑いが起こってしまいました。富永先生のご希望だったデジタル一眼カメラも贈呈しました。昭和30年卒の馬詰（太田）さんから平成15年卒の村上さん・佐藤（尾久保）さんまでの幅広い年代の楽しい会となりました。八木沢先生や伊藤先生（昭59）、NMRの稲田さん、MSの山口さんも駆けつけて下さいました。

途中、富永先生自ら、先生の研究テーマである「蛍光・化学発光」の光の披露まであり、強い赤や緑の光に「おお～！特許は？」とかなり皆さん興奮されていました。ちなみに、既に特許は取得されています。

富永先生は40年に渡る研究生生活を振り返ってのお話をされ、その中で3人の恩師に恵まれたとおっしゃっておられました。「3人の恩師」と言われた中のお一人の小林五郎先生については、私も幾度となく富永先生からい

ろいろなエピソードを聞いていました。とても影響が大きかったのだと思います。私たち富永先生の教え子にとっては「恩師」は富永先生です。先生あってこそ今の私たちがあるのだと思っています。「社会に貢献することが最終的な目標」と実験の合間にお話しされていたこと、「いい仕事をしよう」と言われていたことは今も忘れずにいます。

富永先生、改めてご退職おめでとうございます。

お集まり頂いた皆様には懇親会発起人一同からお礼申し上げます。

最後になりましたが、関東・東北地方の皆様におかれましては3月11日の震災で甚大な被害があり、皆さまのご心痛いかばかりかと心よりお見舞い申し上げます。1日も早い復興を願ってやみません。



平成23年3月12日 於 江山楼

同期会

永井 潤 (平18)

平成23年8月7日、平成18年卒業生の同期会？（バーベキュー）を長崎の長与町で行いました。同期会？って言うっていいのやら、今年の春頃、長崎市で同期の男だけで飲んでいるとき勢いで決まったので。その後、そこにいるメンバーを中心に連絡がとれる人だけを選んでしまったので、連絡がとれなかった人には大変申し訳ありませんでした。今回集まったメンバーを中心に連絡先をgmailで管理していますので、もし差し支えがなければ、フリーアドレスや携帯のアドレスから構いませんので、次のアドレス<dosokaiin2011@gmail.com>に連絡を頂ければ、次回このような会を設けたときには是非連絡させていただきます。やっぱりまだまだ男ばかりなので。僕は平成18年卒の同窓会長をやらしてもらっていて、「同窓会やろうや」という周囲の声もずっと前からありましたが、忙しさを理由に来年は、来年こそはと後送りにしていました。しかし、今年は稲嶺君などの心強いバックアップのおかげで開催することができました。とはいえ、春先の同窓会！！という強い勢いは7月頃には薄れ、いざ開催日が近づいてくると、やっぱり行けませんというキャンセルも相次ぎ、バーベキューの買い出しさえも県外から来る人（佐藤ら）に任せなければならぬという状況になってしまいました。でも、いざ始まるとそんな不安などは一瞬で忘れ去って、終止楽しく過ごすことができ、「また是非来年もやろうよ」という意見をたくさん頂いたのですごく嬉しかったです。やっぱ

り、先輩や後輩らと集まるのはそれぞれに気を遣うけど、同期って気軽に楽しめる気がします。また、大学の同期は、高校まで部活で必死に汗水流してきた友達ともまた違って、生まれも育ちも価値観も大きく異なっているのに、妙に気が合うのは何故だろうと不思議に思います。同期会の内容は、バーベキューや薬学部好例のビンゴ大会などだった。バーベキューの肉もおいしかったけど、西脇さんが作ってくれたカレーが夏の暑さを吹っ飛ばす旨さだった。ビンゴ大会も賞品は高額なものは用意できなかったが、それなりに面白かった。早くにビンゴ達成したのに、豪華賞品を選ばず、午前中に修平（藤井）やたちちゃん（中島）らと目の前の海でとった怪しい小さなサザエを食べることを選んだ平山君に感謝です。その後、お腹を痛がっていたけど、次の日仕事は大丈夫やったのかなあー。女の子の会話に耳を傾けるとちらほら誰々が結婚とか結婚予定とか耳にする。大学時代のマドンナ達の“結婚”にはやっぱり男として淋しい気がする。たかっち（高濱）が最後にかけた音楽、斉藤和義の歌が妙に心に染みる。“ずっと好きだったんだぜ 相変わらず綺麗だな〜♪” そういえば、12月長崎で斉藤和義のライブあるっていったな。時間あれば行こうかなー……。

ということで、そんなほのぼのとした夏の1日の同期会でしたが、是非みなさん来年、都合があえば来てください。来年も8月の第1週の日曜日にやろうかなー。



2007 年卒業生同窓会

北郷 真史 (平19)

月日がたつのは早く、私たちが4年を卒業してから来年で5年目になろうとしています。学部卒が卒業5年目、修士が修了3年目ということ、また私が来年は九州を離れるからそれまでには一度やっておきたいという個人的な都合もあり、同級会を今年7月に行いました。

九州にいる人から関東在住の人まで、20人程で集まることができ、現在の生活から昔の思い出話まで、話は尽

きず、非常に楽しく、また懐かしい時間を過ごすことができました。特に、4年で卒業して以来会っていなかった同級生とも会うことができたのが良かったと思っています。やはり同級生はいい。今後も、10年後、20年後と同窓会をしていきたいと思っていますので、同級生の皆様、また今回来られなかった方も次回は参加是非よろしくをお願いします。



平成 23 年度九薬連

熊谷 飛鳥 (学部3年)

平成23年5月3日～5日にかけて、第54回九州薬学連盟体育大会が第一薬科大学主催のもと福岡で行われました。今回の試合を通して友との絆が深まり、また応援に遠くから駆けつけてくださった先輩方の応援を受け、改めてサークル活動の楽しさを実感できました。

結果は以下の通りです。

サッカー部	(3位)		
第一試合	長大	2対1	福大
第二試合	長大	1対1	九保大
準決勝	長大	0対1	熊大
三位決定戦	長大	1対1	長崎国際大
		(PK 3対0)	



野球部

第一試合	長大	9対13	熊大
第二試合	長大	11対10	長崎国際大
三位決定戦	長大	8対18	熊大

硬式テニス部 (男子)

	長大	3対4	福大
	長大	3対4	崇城大
エキシビション			
	長大	6対1	崇城大

硬式テニス部 (女子)

	長大	2対5	熊大
	長大	2対5	第一薬大
エキシビション			
	長大	4対0	福大
	長大	4対2	崇城大



バドミントン部

	長大	0対5	福大
	長大	2対3	熊大
	長大	2対3	崇城大



バスケットボール部 (男子)

	長大	勝ち	長崎国際大
	長大	負け	第一薬大
	長大	負け	熊大
	長大	負け	九保大

バスケットボール部 (女子)

	長大	勝ち	第一薬大
	長大	負け	熊大
	長大	負け	福大
	長大	負け	崇城大
	長大	負け	九保大

ぐびろが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃

小野 北斗 (学部3年)

平成23年8月7日の日曜日、ぐびろが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃が行われました。24名の学部学生・院生、11名の同窓会役員と事務局関係者が多忙の中参加しました。総勢35名が猛暑の中、草むしりや落ち葉拾いなど清掃活動に汗を流しました。蚊の大群と格闘しながらの作業でしたが、各自が集中して行動したので1時間ほどできれいにすることができました。作業終了後は冷えた飲み物で水分補給し、記念撮影をしました。その後慰霊碑に線香をあげ、亡き先輩を追悼しました。

この清掃活動はただの清掃活動ではなく、戦争の悲惨さ、残酷性を再認識させるものでもありました。私は宮崎出身なので原子爆弾に関する知識、体験談に触れる機

会は少なく、この清掃活動によって様々なことを考えさせられました。この清掃活動は今回で12回目ということでしたが、これが20回30回と持続することを願い、また同時にこのような清掃活動が新しく始まるのが二度とないような世の中にする必要だと感じました。今のこの平和を永久的なものするだけでなく、当時の志半ばでこの世を去ってしまった先輩方の分も私たち学生が勉学に精を出し、薬学の道をひた走ることも大事だと思いました。

清掃活動後、近く中華料理店で参加された方々と楽しく会食しました。接することがほとんどない先輩方や年配の方々のお話を伺うことができ、これもまた貴重な

経験となりました。薬学部校歌を斉唱して、その場はお開きとなりました。

最後にこの清掃活動に多忙の中参加して下さったOBの方々、また定期試験期間中にもかかわらず時間を

割いて参加してくれた学部学生の皆さん本当にお疲れ様でした。来年も多くの方が参加して下さることを願っております。



旧小野島校舎跡記念碑清掃

岸川 直哉 (平10)

第3回ホームカミングデー翌日の11月20日に旧小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を行いました。当初清掃は11月6日に予定されていましたが、雨天によりこの日に延期となりました。当日は、前日までの雨も上がり、天候に恵まれた中での清掃になりました。今年は記念碑のある公園の駐車場が非常に混雑しており、駐車には苦勞が伴いましたが、記念碑周辺は比較的片付いており、小1時間ほどで清掃作業を終了しました。最後にきれいに拭きあげた記念碑を参加者全員で囲んでの記念撮影を行い

ました。その後、例年のように諫早市内の鰻屋での食事会となり、先輩方のお話を伺いながら和やかで楽しいひとときを過ごすことができました。今年の参加者のお名前は次の通りです。麻生(昭24)、峰(昭26)、木下(昭35)、伊豫屋(昭41)、中村(昭44)、高良(昭57)、椛島(平4)、岸川(平10)、武次(事務局)です、お忙しい中、参加して頂きありがとうございます。



第3回長崎大学ホームカミングデー

岸川 直哉 (平10)

今年も11月19日に第3回長崎大学ホームカミングデーが開催されました。ホームカミングデーは長崎大学が卒業生の皆様をお招きし、大学の近況に触れて頂くとともに恩師や学友との再会と交友・親睦を深めて頂くために、年1回長大祭の時期に合わせて開催されています。今年のホームカミングデーでは経済学部卒業生の中村法道長崎県知事を演者としてお招きし、「長崎ー上海航路開設への期待」のタイトルで講演会が行われました。

また、ホームカミングデーではロマンツアー合唱団、チアリーディング部及び長崎大学マンドリンクラブOB & OG会による演奏・演技の披露が行われました。その後、学生食堂で行われたホームカミングデーパーティではよさこい部「突風」による演舞の余興もあり、終始和やかな雰囲気の中で在学中の思い出などを懐かしい話題で盛り上がりました。

次回も多数のご参加お待ちしております。



クラブOB会だより

平成23年度野球部OB会と親睦試合観戦記

伊藤 潔 (昭59)

11月26日土曜日に恒例の長楽野球部OB会が開催された。OBの参加が33名と若干少なかったが、23名の現役部員とともに江山楼浦上店に集まった。伊藤の開会あいさつに続いて、西脇金一郎会長(昭33)にご挨拶いただいた。野球部の重鎮であった市川正孝教授(昭33)と渡辺三明助教授(昭42)のお二人を相次いで亡くしたのが2000年。来年は13回忌を迎えることになるので是非お二人を偲ぶ会をしたいとのご提案があった。OBの皆様にはご承知おきをいただければ幸いです。

今年は元野球部長の小西良二先生にご参加いただいたことをお知らせできるのが大変うれしい。もちろん乾杯の発声とともにご挨拶をお願いしてプレーボールとなった。ビールに紹興酒、中華料理のコースを口に運びながら賑やかな会が進行した。

現役部員にしてみれば親の歳以上のOBも多いのだが、平成年代卒の若手OBだけでなく世代を超えた交流

も進んだように思われた。ただ、平成の卒業といっても早いもので40代に突入しているOBもいる。そんな中、平成12年以降の本当の若手が14名も参加してくれているのは大変心強い。8時を過ぎた頃、恒例となっている今泉先輩からの準硬式ボールの贈呈式を皮切りに、OB側先発メンバーの発表へと進んだ。そのメンバーは、ピッチャー：吉田泰史(昭55)、キャッチャー：古賀健太郎(平20)、ファースト：中嶋幹郎(昭57)、セカンド：渡邊裕之(平20)、サード：平川善章(昭63)、ショート：森本 仁(平5)、レフト：細井雄仁(平19)、センター：金村隆則(平6)、ライト：近藤雅也(昭61)の9名。気合いを入れてOBの意気込みを見せた。

最後は遠方の若手ということで、大阪より駆けつけてくれた山澤龍治氏(平18)に万歳三唱をお願いし、会を締めくくってもらった。



親睦試合 (OB戦) 観戦記

金曜までの1週間は急な冷え込みもあり試合ができるのかどうか不安もあったが、土曜日の好天に続き日曜日はさらに気温も上がってくれて絶好の野球日和となった。現役部員は早朝からグラウンド整備をしてくれ、OB戦は例年通り午前10時にプレーボールとなった。守備位置がそのまま打順でOBが先攻のパターンはここ数年全く同じ。OB初回の攻撃は三者凡退の後、先発のマウン

ドには昨年に続き吉田(昭55)が上る。先頭にライト前に落とされたものの次打者はレフトフライで1アウト。3番キャプテンの小野に左中間を抜かれて2、3塁となり、現役があっさり先制するかとも思われたが、4番森田をピッチャーゴロで2アウトとすると、5番もセカンドゴロで初回のピンチを0点に抑えた。OBは2回も凡退。2回からOBのマウンドには中谷が上がる。厳密にはOBではないが、現役は引退した5年生。6番のフラ

イをレフト牛島（平15）が危なげ有りの捕球で1アウトとしたが、続く7番には四球。8番のショートゴロを山本（平13）がさばいてセカンドフォースアウト。9番のゴロも山本が軽快にさばいて2回までは0対0。ここから中谷のすばらしいピッチングが始まったのだった。3回のOBは牛島ショートゴロで1アウト後、荒木（平23）がセンター前ヒット。すかさず走った荒木に惑わされたのか、現役先発の鎌水が佐保（学6）に死球で1、2塁。ここでバッターはピッチャーの中谷。併殺崩れの間荒木が還ってOBが1点を先制した。結果は下に示すように現役の勝利に終わったのだが、少なくとも私の知る限りでは、OB戦で1対2、しかも9回までを2時間足らずで終えたという試合は記憶にない。先日行われ

たばかりのソフトバンク対中日の日本シリーズを彷彿させるような引き締まった記録、記憶に残る好試合であった。中谷の好投を支えたのはOBの守備。ほころびも少なからずあり、ピンチもあったが要所を締めて2点に抑えた内容は心に残る試合でもあった。OBの参加者名を記しておく。投手：吉田泰史（昭55）、中谷勲男（学5）、捕手：古賀健太郎（平20）、1塁：坂田真人（平15）、吉田、2塁：渡邊裕之（平20）、3塁：野元健一（平7）、坂野綱則（平21）、遊撃：山本 豊（平13）、野元、左翼：牛島信人（平15）、山村亮太（平21）、中堅：荒木康平（平23）、右翼：佐保洪成（学6）、新田晃也（学5）、観戦：山澤龍治（平18）。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
OB	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
現役	0	0	0	0	0	1	0	1	×	2

試合後は恒例の皿うどんパーティー。いつも通り、終わったばかりの試合の話で盛り上がりながら、今年のOB会を終えた。OBのみなさん、また来年お会いしましょう。

追記：野球部HPにもOB戦レポート載せる予定ですので、本記事と併せて是非ご覧ください。

<http://www.choyaku.jp/club/baseball/homebase.html>

第27回薬学硬式庭球部OB会

宮地 優矢（学部5年）

11月5日、6日の二日間、今年で第27回目を迎える薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

5日は長崎大学全学テニスコートにてOB対現役による対抗戦を予定していました。山本先輩（院昭55）、松原先輩（昭58）を始めとする先輩方にお越しいただきましたが、当日はあいにくの天候となり、予定を変更して

午後から長崎大学裏門側にあるラッキーボウルにてボウリングを行いました。

ボウリングではチームに別れてスコアを競い合いました。例年テニスではOBに負けている現役生ですが、今回はボウリングということでその勝負の行方は競ったものとなりました。2ゲームの合計スコアにより最も成績

がよかったのは、山本先輩率いるチーム（山本先輩，岡崎先輩（平20），小橋先輩（平21），宮地（学5），原田（学1））でした。今回はテニスこそできませんでしたが，ボウリングを通して例年とはまた違った形でOBと現役生の親睦を深めることができました。



ボウリング後は，懇親会を宝来軒別館で行いました。参加者はOB，OG，現役生合わせて56名にのぼり大盛會となりました。初めに山本先輩による乾杯のご挨拶をいただきました。会も盛り上がった後に，現役生の自己紹介，OBの方々のお話と進みました。また，山本先輩と松原先輩のご好意により，ボウリング優勝チームへの賞品，ハイスコア賞，ブービー賞としてテニス用品が贈られました。こうしたサプライズな出来事も，今年ならではの事だったのではないのでしょうか。フラワーメイトでの二次会にも多くのOBの方々にご参加いただき，現役生にとってはテニスについて，また普段は聞けないような仕事についてのお話を聞いた貴重な時間であったと思います。

長崎大学薬学硬式庭球部OB会も27回を迎え，これからもさらに発展していくことと思われます。今年は残念ながら出席できなかった先輩方もご都合がつかましたら，来年のOB会に是非ご参加下さい。現役一同，心よりお待ち致しております。



薬学軟式庭球部 OB 戦

河野 紗羅（学部3年）

12月4日に長崎大学のテニスコートで軟式庭球部OB戦を開催いたしました。今年は残念ながら先輩方の都合が合わずOBの参加者は0人だったため，1年生対先輩で試合を行いました。天候にも恵まれ非常に白熱した試合ができました。結果は，1年生の圧勝でした。先輩として情けない結果となってしまいましたが，今後安心して部を任せられると思えました。今年の優勝賞品は1年生の希望で先輩が唐揚げをおごりました。

長崎大学薬学軟式庭球部員も年々増加の一途をたどり，OB総勢300名を超えることとなりました。毎年頂いているOBの方の近況報告では，さまざまな形での先輩方の御活躍を拝見させていただき，少しでも近づけるようにと，現役生一同より精進せねばと気持ちを新たにしております。今回残念ながら出席できなかった先輩方，ご多忙だとは思いますが，もし都合がつかましたら，来

年は是非ご参加下さい。現役生一同，心よりお待ちしております。



平成 23 年薬学バスケットボール部 OB 戦

松尾 広伸 (学部3年)

4月29日土曜日に薬学バスケットボール部のOB対現役生による対抗戦が行われました。実は薬学バスケットボール部ではこれまでOB戦の伝統がなく、私が知る限りではこれが初めてのOB戦となります。6年の先輩方と、何よりお忙しい中OBの方々のご尽力によって、このようなイベントを開催することができました。

今回集まれたOBの方々は、現在の6年生が1年生の時に一緒にチームだった方々がほとんどということで、6年生以外の現役生とはほぼ面識がありません。初のOB戦ということもあって、多少緊張していた部分もあったのですが、OBの方々の気さくさと優しさに助けられて、非常に有意義かつ楽しい練習、試合となりました。

試合の方は、体力や練習量で勝る現役生の勝利という結果でしたが、OBの方々の長年の経験や技術を感じる部分が大いにありました。現役生にとっては九葉連という大きな大会を控えていた中で、大変ありがたい試合だったと思います。

対抗戦後は現役生とOBを交えての親睦会が居酒屋で行われました。二次会まで開かれ、とても楽しい会になりました。現役生が知らない当時の薬学部の雰囲気や薬学バスケットボールの面白いエピソードなどたくさんの楽しいお話を聞くことができました。現在とはかなり異なった部分も多く、驚きと笑いの連続でした。また長崎の薬局や県外の製薬会社でご活躍のOBの方々には、仕

事や勉強についての話も何うことができました。今までも会社で働く先輩から話を聞く機会はあったのですが、お酒の席ということもあってか、かなり微細かつフランクな会話となって、なかなか体験し難い非常に貴重な時間となりました。

今回が初となったOBと現役生の対抗戦ですが、第一回で終わらない伝統に発展していけるよう努力していきたいと思います。今回参加して下さったOBの方ももちろん、今年の卒業生や今回参加できなかった方々も来年は是非ご都合がつかましたらご参加ください。息の長いOB戦にしていけるよう、現役生一同、お待ちしております。



平成 23 年 4 月 29 日 於 長大総合体育館

庶務報告

岸川 直哉 (平10)

○定例理事会

平成23年4月2日(土)13時00分より薬学部第二講義室で開催されました。最初に平成23年3月に発生した東日本大震災の犠牲者の方々への黙祷を行い、続いて伊豫屋偉夫同窓会長(昭41)より挨拶がありました。その後、平成22年度事業報告および決算報告、平成23年度事業計画案および予算案が討議されました。

次に、長崎支部ぐびろ会山中國暉会長(昭43)より長崎全日空ホテルグラバーヒル(長崎市)で開催される平成23年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。

○平成23年度長薬同窓会定期総会

平成23年6月4日(土)16時20分より、長崎市の長崎全日空ホテルグラバーヒルにて開催されました。今年度は里帰りして長崎に滞在されていた下村 脩博士夫妻に懇親会にご出席頂きました。総会開会後に、同窓生物故者と東日本大震災犠牲者に対し黙祷を行い、続いて伊豫屋偉夫会長(昭41)より挨拶がありました。その後、井上志郎氏(昭43)を議長に選出して議事に入り、平成22年度の事業報告ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ、承認を得ました。引き続き、伊豫屋会長より平成23年度事業計画案ならびに予算案が示され、こちらも原

案どおり承認されました。また、来年度の総会開催地(大分県別府市)について大分支部野尻敏博支部長(昭48)より説明がありました。

続いて、ネオフィスト研究所の吉岡優子先生(昭56)に「薬剤師を取り巻く環境変化とその対応」のタイトルでご講演をいただきました。

総会終了後、同じ会場で開かれた懇親会では、下村博士のスピーチや松本康裕氏(昭24)による迫力ある居合いの披露の余興もあり、たいへん和やかに盛大な懇親会となりました。

○支部長交代

- ・広島支部長：品川龍太郎氏(昭44)から青野拓郎氏(昭52)への交代の届け出がありました(平22.11.28)。
- ・関東支部長：谷 覺氏(昭42)から樋口宗司氏(昭42)へ交代の届け出がありました(平23.4.1)。
- ・長崎県央支部長：平山文俊氏(昭41)から中村和子氏(昭44)へ交代の届け出がありました(平23.7.31)。

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

平成23年8月7日(日)に、ぐびろが丘原爆慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局および現役院生・学生で行ないました。また、11月20日(日)に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局で行ないました。

物 故 者 氏 名

前会報(50号)に発表のあとなくなった方、及び死亡が判明した方(敬称略)

氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日
竹 清 章三郎	特	平21.1.18	後 藤 暉	昭23	平23.8.13	前 田 義 忠	昭33	平22.9.26
高木(松木) 新一	昭11	〃 19.6.-	森 雄三郎	〃	〃 23.10.9	石 島 弘 勝	〃 34	〃 23.11.24
田 中 瑞 穂	〃 14	〃 22.-	井 上 浩 一	〃 24	〃 23.1.11	石 飛 昭 汎	〃 35	〃 23.2.6
萩 原 薩 男	〃 15	〃 22.11.9	藤 田 俊 雄	〃	〃 22.12.15	加 藤 祥 子	〃 37	〃 23.5.4
佐 伯 正 輔	〃 16.12	〃 23.11.30	本 多 日出彦	〃	〃 22.6.-	徳田(岩本) 敏子	〃 40	〃 23.1.30
谷 口 是 巨	〃 17	〃 22.12.25	本 多 圓 治	〃 26	〃 23.3.18	三根(村田) 武文	〃 41	〃 23.7.23
原 口 辰 俊	〃	〃 23.3.1	森田(本田) 幸枝	〃	〃 23.7.24	林 俊 雄	〃 43	〃 23.11.9
野 口 恭 一	〃 18	〃 23.12.6	古 賀 誠	〃 28	〃 23.3.16	江 島 誠 治	〃 48	〃 22.5.16
森 路 春 實	〃 19	〃 22.11.8	田 中 穂	〃	〃 23.3.18	中牟田 弘 道	〃 53	〃 23.7.7
本 田 五 郎	〃 20	〃 23.8.1	案 浦 正 英	〃 29	〃 23.5.8	松 尾 明	〃 59	〃 22.6.12
油 屋 宏 雄	〃 23	〃 23.4.16	橋 本 寛 治	〃	〃 22.2.5			
岡 本 新一郎	〃	〃 23.2.15	甲 斐 盛 央	〃 30	〃 22.12.9			計 34名

庶務報告

岸川 直哉 (平10)

○定例理事会

平成23年4月2日(土)13時00分より薬学部第二講義室で開催されました。最初に平成23年3月に発生した東日本大震災の犠牲者の方々への黙祷を行い、続いて伊豫屋偉夫同窓会長(昭41)より挨拶がありました。その後、平成22年度事業報告および決算報告、平成23年度事業計画案および予算案が討議されました。

次に、長崎支部ぐびろ会山中國暉会長(昭43)より長崎全日空ホテルグラバーヒル(長崎市)で開催される平成23年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。

○平成23年度長薬同窓会定期総会

平成23年6月4日(土)16時20分より、長崎市の長崎全日空ホテルグラバーヒルにて開催されました。今年度は里帰りして長崎に滞在されていた下村 脩博士夫妻に懇親会にご出席頂きました。総会開会後に、同窓生物故者と東日本大震災犠牲者に対し黙祷を行い、続いて伊豫屋偉夫会長(昭41)より挨拶がありました。その後、井上志郎氏(昭43)を議長に選出して議事に入り、平成22年度の事業報告ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ、承認を得ました。引き続き、伊豫屋会長より平成23年度事業計画案ならびに予算案が示され、こちらも原

案どおり承認されました。また、来年度の総会開催地(大分県別府市)について大分支部野尻敏博支部長(昭48)より説明がありました。

続いて、ネオフィスト研究所の吉岡優子先生(昭56)に「薬剤師を取り巻く環境変化とその対応」のタイトルでご講演をいただきました。

総会終了後、同じ会場で開かれた懇親会では、下村博士のスピーチや松本康裕氏(昭24)による迫力ある居合いの披露の余興もあり、たいへん和やかに盛大な懇親会となりました。

○支部長交代

- ・広島支部長：品川龍太郎氏(昭44)から青野拓郎氏(昭52)への交代の届け出がありました(平22.11.28)。
- ・関東支部長：谷 覺氏(昭42)から樋口宗司氏(昭42)へ交代の届け出がありました(平23.4.1)。
- ・長崎県央支部長：平山文俊氏(昭41)から中村和子氏(昭44)へ交代の届け出がありました(平23.7.31)。

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

平成23年8月7日(日)に、ぐびろが丘原爆慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局および現役院生・学生で行ないました。また、11月20日(日)に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局で行ないました。

物故者氏名

前会報(50号)に発表のあとなくなった方、及び死亡が判明した方(敬称略)

氏名	卒年次	死亡年月日	氏名	卒年次	死亡年月日	氏名	卒年次	死亡年月日
竹 清 章三郎	特	平21.1.18	後 藤 暉	昭23	平23.8.13	前 田 義 忠	昭33	平22.9.26
高木(松木) 新一	昭11	〃 19.6.-	森 雄三郎	〃	〃 23.10.9	石 島 弘 勝	〃 34	〃 23.11.24
田 中 瑞 穂	〃 14	〃 22.-	井 上 浩 一	〃 24	〃 23.1.11	石 飛 昭 汎	〃 35	〃 23.2.6
萩 原 薩 男	〃 15	〃 22.11.9	藤 田 俊 雄	〃	〃 22.12.15	加 藤 祥 子	〃 37	〃 23.5.4
佐 伯 正 輔	〃 16.12	〃 23.11.30	本 多 日出彦	〃	〃 22.6.-	徳田(岩本) 敏子	〃 40	〃 23.1.30
谷 口 是 巨	〃 17	〃 22.12.25	本 多 圓 治	〃 26	〃 23.3.18	三根(村田) 武文	〃 41	〃 23.7.23
原 口 辰 俊	〃	〃 23.3.1	森田(本田) 幸枝	〃	〃 23.7.24	林 俊 雄	〃 43	〃 23.11.9
野 口 恭 一	〃 18	〃 23.12.6	古 賀 誠	〃 28	〃 23.3.16	江 島 誠 治	〃 48	〃 22.5.16
森 路 春 實	〃 19	〃 22.11.8	田 中 穂	〃	〃 23.3.18	中牟田 弘 道	〃 53	〃 23.7.7
本 田 五 郎	〃 20	〃 23.8.1	案 浦 正 英	〃 29	〃 23.5.8	松 尾 明	〃 59	〃 22.6.12
油 屋 宏 雄	〃 23	〃 23.4.16	橋 本 寛 治	〃	〃 22.2.5			
岡 本 新一郎	〃	〃 23.2.15	甲 斐 盛 央	〃 30	〃 22.12.9			計 34名

学 内 記 事

(海外渡航)

種別	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的
出張	准教授	石原 淳	アメリカ	22.12.15～22.12.20	2010環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM2010) 参加・発表
出張	准教授	栗山 正己	アメリカ	22.12.15～22.12.21	2010環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM2010) 参加
出張	准教授	田中 隆	アメリカ	22.12.15～22.12.20	2010環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM2010) 参加・発表
出張	准教授	大庭 誠	アメリカ	22.12.15～22.12.21	2010環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM2010) 参加
出張	教授	畑山 範	アメリカ	22.12.16～22.12.21	2010環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM2010) 参加・発表
出張	助教	高橋 圭介	アメリカ	22.12.16～22.12.21	2010環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM2010) 参加
出張	教授	中嶋 幹郎	アメリカ	23.3.5～23.3.12	第50回米国毒性学会参加・発表
出張	教授	中山 守雄	韓国	23.4.20～23.4.22	The Pharmaceutical Society of Korea招待・発表
出張	教授	植田 弘師	中国	23.5.15～23.5.18	The 4th Asian Pain Symposium参加・発表
出張	助教	村松 渉	アメリカ	23.6.18～23.6.26	Gordon Research Conferenceポスター発表
出張	教授	植田 弘師	アメリカ	23.6.19～23.6.27	International Narcotics Research Conferenceに出席・発表
出張	教授	田中 正一	アメリカ	23.6.24～23.7.3	第22回アメリカペプチド討論会
出張	教授	中嶋 幹郎	韓国	23.8.3～23.8.5	日韓合同フォーラム開催の打ち合わせ及び現地視察
出張	准教授	手嶋 無限	韓国	23.8.3～23.8.5	日韓合同フォーラム開催の打ち合わせ及び現地視察
出張	助教	福留 誠	オーストラリア	23.8.26～23.9.1	第6回アジアシクロデキストリン会議出席・発表
出張	助教	淵上 剛志	オランダ	23.8.26～23.9.3	19th International Symposium on Radiopharmaceutical Sciences出席・発表
出張	准教授	田中 隆	中国	23.8.27～23.8.31	中国農業科学院・杭州茶研究所訪問・研究打ち合わせ
出張	助教	稲嶺 達夫	アメリカ	23.9.7～23.11.6	病原真菌 <i>Candida glabrata</i> の病原因子および薬剤耐性因子の探索に関する研究
出張	教授	畑山 範	フランス	23.9.10～23.9.20	第22回日仏医薬精密化学会議出席・発表
出張	准教授	石原 淳	フランス	23.9.10～23.9.17	第22回日仏医薬精密化学会議出席・発表
出張	教授	尾野村 治	台湾	23.9.25～23.9.30	若手研究者交流事業
出張	教授	中島憲一郎	アメリカ	23.9.25～23.10.2	国際法中毒学会2011出席・発表
出張	助教	池田 理恵	アメリカ	23.9.25～23.10.2	国際法中毒学会2011出席・発表
出張	教授	中島憲一郎	中国	23.10.9～23.10.12	HPLC2011 Dalian 出席・発表
出張	教授	黒田 直敬	中国	23.10.9～23.10.12	HPLC2011 Dalian 出席・発表
出張	准教授	和田 光弘	中国	23.10.9～23.10.12	HPLC2011 Dalian 出席・発表
出張	助教	松尾 洋介	フランス	23.10.10～23.12.11	エラジタンニン類についての研究および打ち合わせ
研修	教授	植田 弘師	中国	23.10.15～22.10.18	The 9th IASP Research Symposium出席・発表

(異 動)

異動年月日	異動内容	職	氏名	所属研究室	備 考
23. 3. 31	定年退職	教授	河野 通明	細胞制御学	京都大学(客員研究員)へ
23. 3. 31	辞 職	助教	中嶋 義隆	薬品生物工学	摂南大学理工学部 准教授へ
23. 4. 1	雇用更新	助教	河野 広朗	感染分子薬学	雇用更新 (23. 4. 1～24. 3. 31)
23. 5. 16	採 用	助教	宮元 敬天	薬 剤 学	
23. 6. 1	退 職	教授	河野 功	天然物化学	
23. 9. 30	退 職	助教	福留 誠	薬 化 学	神戸学院大学薬学部講師へ

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日
甲第400号	博士(臨床薬学)	濱田 光洋	平成23年2月23日	甲第411号	博士(薬学)	山筋 睦美	平成23年3月18日
甲第401号	博士(薬学)	米澤 健	平成23年2月23日	甲第412号	博士(薬学)	稲嶺 達夫	平成23年3月18日
甲第402号	博士(薬学)	坂元 利彰	平成23年3月18日	甲第413号	博士(薬学)	植木 哲也	平成23年3月18日
甲第403号	博士(薬学)	橋詰 淳哉	平成23年3月18日	甲第414号	博士(薬学)	友成 真理	平成23年3月18日
甲第404号	博士(薬学)	永井 潤	平成23年3月18日	甲第465号	博士(薬学)	Mostafa Mohamed Ahmed	平成23年9月20日
甲第405号	博士(薬学)	西依 倫子	平成23年3月18日	甲第466号	博士(薬学)	Sebok Kumar Halder	平成23年9月20日
甲第406号	博士(薬学)	馬 琳	平成23年3月18日	甲第467号	博士(薬学)	森山 紀章	平成23年9月20日
甲第407号	博士(薬学)	芝原 攝也	平成23年3月18日	甲第468号	博士(薬学)	M.d. Golam Azam	平成23年9月20日
甲第408号	博士(薬学)	椎木 啓文	平成23年3月18日	甲第410号	博士(薬学)	山澤 龍治	平成23年3月18日

甲第409号 博士(薬学) 前田 一 平成23年3月18日 大変申し訳ありません。第409、410号の2名のお名前が入っていませんでした。

長 薬 同 窓 会 役 員

(平成23年 4月)

本部役員

会 長	伊豫屋 偉 夫	昭和41年	東七長崎支店
副 会 長	山 中 國 暉	昭和43年	あおかた調剤薬局
〃	中 村 博	昭和45年	大浦中央調剤薬局
〃	中 村 珠 江	昭和51年	なかむら薬局
〃	佐々木 均	昭和53年	医学部教授 長大病院薬剤部長
〃	中 嶋 幹 郎	昭和57年	薬学部教授
監 査	木 下 敏 夫	昭和35年	
庶務幹事	岸 川 直 哉	平成10年	薬学部准教授
会計幹事	椛 島 力	平成 4 年	薬学部准教授
編集幹事	和 田 光 弘	平成 4 年	薬学部准教授
幹 事	高 良 真 也	昭和57年	こまち薬局
幹 事	伊 藤 潔	昭和59年	薬学部准教授
幹 事	福 留 誠	平成10年	薬学部助教

学年理事

昭和5～16年12月	小笠原 正 己	昭和43年	山 中 國 暉	平成 3 年	北 原 隆	志 力
昭和17～19年		昭和44年	中 村 和 子	平成 4 年	島 本 真	仁 理
昭和20年	池 田 保 彦	昭和45年	中 村 博	平成 5 年	森 永 有	里 一
昭和22年	田 崎 和 之	昭和46年	大 西 裕 子	平成 6 年	岩 本 尾	真 裕
昭和23年	中 原 潜	昭和47年	松 本 逸 郎	平成 7 年	中 大 平	脇 良 一
昭和24年	麻 生 忠 介	昭和48年	林 田 眞 二 郎	平成 8 年	福 水 松	野 永 和
昭和25年	塚 崎 邦 彦	昭和49年	馬 場 満 輝	平成 9 年	原 留 文	真 裕 一
昭和26年	峰 唯 信	昭和50年	北 村 美 江	平成10年	福 留 文	真 裕 一
昭和28年	吉 田 一 美	昭和51年	原 田 均 司	平成11年	水 野 永 和	隼 幸 宏
昭和29年	野見山 季 治	昭和52年	池 崎 隆	平成12年	松 永 玉 西	田 規 平
昭和30年	帆 士 辰 雄	昭和53年	佐々木 均 久	平成13年	兒 小 原	富 永 規
昭和31年	今 泉 貴 世 志	昭和54年	濱 崎 和 史	平成14年	原 田 田	松 井 規
昭和32年	長 田 雅 子	昭和55年	大 田 佳 史	平成15年	富 永 規	西 岡 井 田
昭和33年	西 脇 金 一 郎	昭和56年	山 口 正 広	平成16年	富 永 規	西 岡 井 田
昭和34年	松 尾 幸 子	昭和57年	高 良 真 也	平成17年	富 永 規	西 岡 井 田
昭和35年	木 下 敏 夫	昭和58年	宮 崎 幹 雄	平成18年	西 岡 井 田	西 岡 井 田
昭和36年	武 田 成 子	昭和59年	中 村 忠 博	平成19年	西 岡 井 田	西 岡 井 田
昭和37年	吉 田 研 次	昭和60年	塩 田 英 雄	平成20年	西 岡 井 田	西 岡 井 田
昭和38年	岡 邦 彦	昭和61年	本 多 隆	平成21年	西 岡 井 田	西 岡 井 田
昭和39年	鈴 木 隆 治	昭和62年	森 川 隆	平成22年	西 岡 井 田	西 岡 井 田
昭和40年	松 村 祐 子	昭和63年	神 山 朝 光			
昭和41年	平 山 文 俊	平成 1 年	嶋 田 美 樹			
昭和42年	井 上 一 顕	平成 2 年	山 本 稔			

院 1 ～ 院 5 (昭和42年～昭和46年) 新垣 光雄 (昭和46年)
 院 6 ～ 院 10 (昭和47年～昭和51年) 高橋 正克 (昭和49年)
 院 11 ～ 院 15 (昭和52年～昭和56年) 大木 豊 (昭和54年)
 院 16 ～ 院 20 (昭和57年～昭和61年) 中嶋 幹郎 (昭和59年)
 院 21 ～ 院 25 (昭和62年～平成 3 年) 本多 雅幸 (平成 1 年)
 院 26 ～ 院 30 (平成 4 年～平成 8 年) 富田 守 (平成 4 年)
 院 31 ～ 院 35 (平成 9 年～平成13年) 原田 祐樹 (平成 9 年)
 院 36 ～ 院 43 (平成14年～平成18年) 大山 要 (平成14年)
 院 44 ～ 院 49 (平成19年～平成23年) 山根 智子 (平成19年)

長薬同窓会支部一覧

(平成23年8月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	山 中 國 暉 (昭 43)
長 崎 県 北 支 部	支部長	今 泉 貴世志 (昭 31)
島 原 支 部	支部長	宮 崎 圭 介 (昭 31)
長 崎 県 央 支 部	支部長	中 村 和 子 (昭 44)
佐 賀 支 部 若 楠 会	会 長	藤 戸 博 (院昭52)
福 岡 支 部 浦 陵 会	会 長	青 木 郁 (昭 38)
北 九 州 支 部	支部長	芥 野 岑 男 (昭 46)
大 分 支 部	支部長	野 尻 敏 博 (昭 48)
宮崎支部日向浦陵会	会 長	田 中 重 雄 (昭 45)
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄 (昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜一郎 (院昭55)
山 口 支 部	支部長	若 松 輝 明 (昭 45)
広 島 支 部	支部長	青 野 拓 郎 (昭 52)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三千代 (昭 49)
山 陰 支 部	支部長	橋 本 覚 (昭 52)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜 (昭 54)
近 畿 支 部	支部長	梶 野 繁 (昭 42)
東 海 支 部	支部長	
関 東 支 部	支部長	樋 口 宗 司 (昭 42)
沖 縄 支 部	支部長	藤 本 勝 喜 (昭 31)
北 海 道 支 部	支部長	

同窓会事務局だより

会員の皆様には、日頃のご協力を厚くお礼申し上げます。

また、この度の東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、平成23年度定期総会案内でご承知のとおり、会費の納入にコンビニエンスストアを利用できるようになりました。会費納入者の約40%がコンビニを利用されていますので、皆様には便利になったのではないかと思います。振込用紙も新しく郵便局とコンビニの兼用の様式となりました。

ただし、コンビニの場合は通信欄が使用できませんので、通信欄をご利用の場合は郵便局をご利用になるか、総会案内に同封の出欠はがき等でご連絡ください。

また、会費は業者を通じ、一月ごとにまとめて長薬同窓会へ送金されますので、事務局での入金確認が遅れ、ご迷惑をお掛けする事があるかと存じますが、ご理解くださるようお願いいたします。

なお、ご住所の変更等がありましたら早めにお知らせください。郵便物が所在不明で戻り、ご連絡がとれなくなる方がいらっしゃいます。ご協力よろしくようお願い申し上げます。

武次郁子 記

編集後記

今年、東日本大震災、近畿地方を襲った台風での洪水など多くの天災に見舞われた悲しい一年でした。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。今回、第51号にお寄せいただいた記事もこれに触れないで済むものはないという状況であり、一刻も早い復興・復旧を心から願うものであります。そんな中でも同窓生が薬剤師をはじめ様々な役割でこういった被災地へボランティアとして赴き、活動を行った報告なども寄せていただき心強く感じることもできました。今後こういったボランティア活動の報告なども寄せていただき今回の悲しい記憶を風化せることなく、皆で支援していく気持ちを持ち続けていきたいと考えております。最後に嬉しいニュースが飛び込んできました。北川常廣先生が、瑞宝中綬章を受けられました。おめでとうございます。

和田 光弘 記

平成23年12月19日印刷

平成23年12月26日発行

長薬同窓会報

編集 和田 光弘

発行 長薬同窓会

(郵便番号852-8131)

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内

TEL 095-844-6383 (直通)

095-819-2471 (ダイヤルイン)

FAX 095-844-6383

メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

(郵便番号870-0913)

印刷所 大分市松原町2丁目1-6

小野高速印刷株式会社

TEL 0120-73-7288



長崎大学薬学部 長薬同窓会